昭和24年3月19日第3種郵便物認可 昭和32年3月20日印刷 昭和32年3月25日発行 第38輯第3号(毎月1回25日発行)



建築と社会

日本建築会







住宅特集号

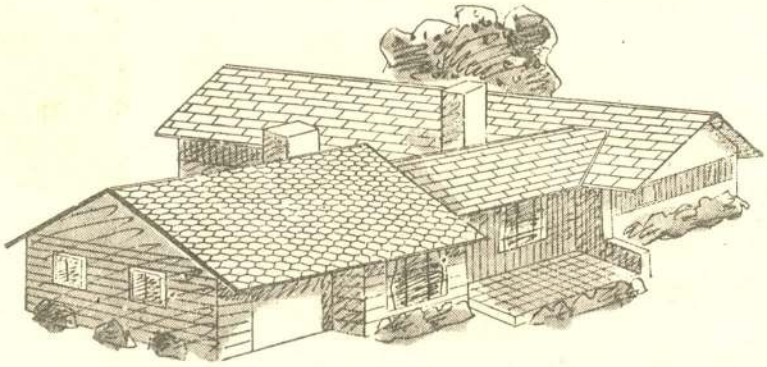


1957 — 3

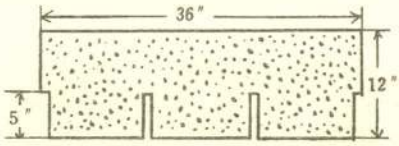
軽くて美しい屋根葺材

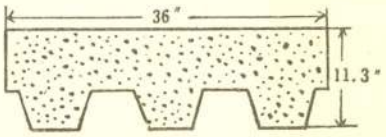
三星シングル

（登録商標）



日本では初めて製造された屋根葺材です。
凡ゆる点で経済的です。暑さを遮り、寒さを防ぎ、耐火性であり而も暴風雨にも耐える軽量屋根材です。
アメリカの住宅は90%がこのシングルを使つています。





厚手のルーフィングに色砂を圧着して上図の型に切断したもので色彩は赤・緑・白・空色の4色あり、素人でも施工出来ます。

緑と赤色が標準品で一面坪（東京・大阪）1,200円から1,600円程度で仕上ります。

三星アスファルトタイルの

田島応用化工株式会社

東京・足立区小台町633　Tel. 代表・王　子㊾5171
大阪・西区京町堀上通1—14　Tel. 代表・土佐堀㊹0810

LIGHTGAGE STELL

(ライトゲージ)
軽量形鋼

簡易鋼矢板
(トレンチシート)

理想的不燃建築材

耐火　耐震・耐久
鋼材使用量の軽減
取扱簡易・工期短縮

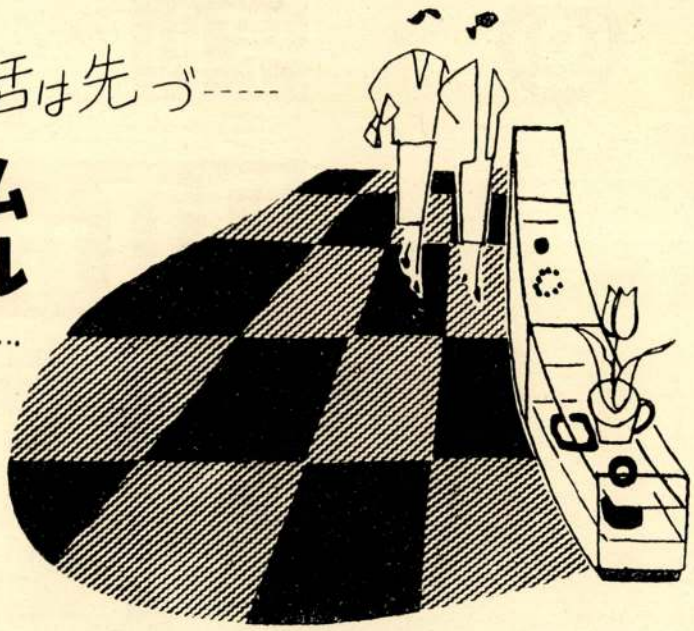
我が国唯一の設備
連続式冷間整形
ロール機による優秀製品

ガス・水道管等の
地下埋設工事の仮土止
河川工事の締切・干拓
及び護岸工事に最適

中之島製鋼株式会社
大阪市東区釜天町4番地 TEL東(94)5031~5

文化的な生活は先づ……

リノリューム
リノタイル
の使用から……



東洋リノリューム株式會社

本社工場 伊丹市伊丹五五八電伊丹(代)3531
東京支店 中央区銀座西・三和ビル 電京橋1701
大阪事務所 東区瓦町二・三和ビル 電北浜375・376

Yodowal

琺瑯化粧板



平板・事務所外装に使用例

ヨドウオル

波・平・厚・黒板

特徴
- 軽くて美しい
- 耐火・耐水で永久仕上
- 汚れはすぐ取れ衛生的
- 施工迅速で経済的

用途
- 平板は建築物の外装・間仕切・天井壁庇下及家具・船舶・車輛に
- 波板は工場・倉庫・プラットホーム等の屋根・壁に
- 厚板はサンドイッチパネル等としてビル等の外装仕上材に
- 黒板は学校・事務所・官公庁・家庭用に

（カタログ御希望の方は誌名御記入の上御申込下さい）

サクラ印 ヨドコウ

株式會社 淀川製鋼所

本　社　大阪市東区博労町4の30　電話㉕0351
東京支社　東京都中央区西八丁堀3の8　電話㊺1171

室内の空気調和が簡單に出來る！

日立 パッケージ型 エアーコンディショナー



銀行，事務所に……
空気調和（エアーコンディショニング）の出現は，繁忙な事務所から人いきれと塵ほこりを除き，清澄な雰囲気のうちに能率を高めさせております。

レストラン，食堂，喫茶店に……
空気の澱んだ湿地帯よりも爽かな高原のロビーの方がどれ程お食事をおいしくさせることでしょうか。美味と憩いは爽快なルームで……。

東京・大阪・名古屋・福岡・仙台・札幌　日立製作所

白蟻退治に!!

化 マルカ



ANTOX

アントックス

白蟻駆除剤



コンクリートでも 穴をあける白蟻.....

葉書にてカタログ呈

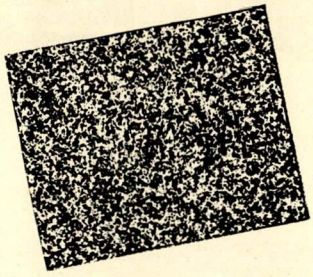
家が倒れるまで被害に気づかない，おそろしい白蟻に対して，アントックスは絶大な偉力を示します。アントックスはペンタクロロフェノール，多塩化ベンゼン，γ，BHC などを主成分とし防腐・忌避剤を配合したものであります。
無色の油剤で，使用法も簡単，効果は長時間持続し，変質もなく，防蟻，殺蟻，防腐などの作用を強力に兼備しております。価格も低廉です。

大阪化成株式会社

本社・大阪市南区心斎橋北詰 電 (25) 631～635
支社・東京都中央区西八丁堀1の3
電(55)2300・5055

ビニアスタイル

（2粍厚）

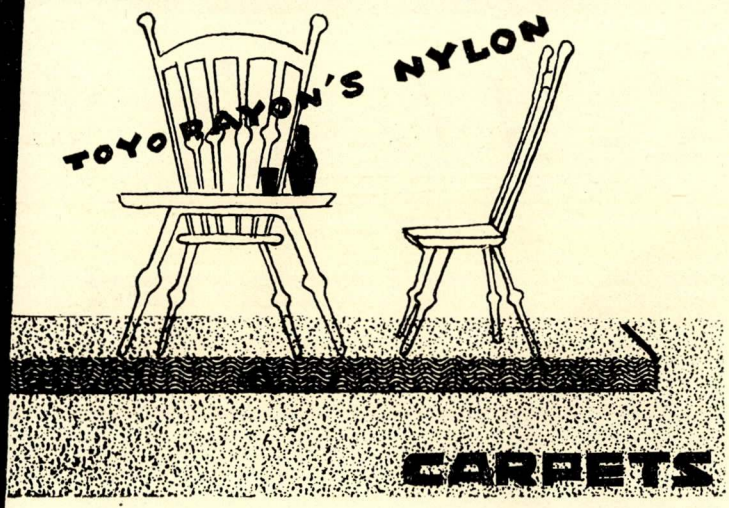


アスタイル



藤森工業株式会社

本　　社　東京都中央区日本橋通1－5(中内ビル)
専用電話 東京 (28) 6271～2番
大阪営業所　大阪市西区土佐堀通1丁目1番地
大同ビル709号室
電話 土佐堀 (44) 0225・7569 (直通)
3131 (ビル交換)



ナイロンで出来た新しいカーペット！

東洋レーヨンの

ナイロン 緞通・絨氈

東洋レーヨンのナイロン緞通・絨氈は100％スパンナイロン糸を使用したもので

☆弾力性に富んでいます
☆驚く程摩擦に強い
☆吸塵性が非常に少ない
☆虫の害を全く受けません

東洋レーヨン株式会社

発売元 亀井株式会社

大阪市東区南久宝寺町心斎橋筋 TEL(25)1353

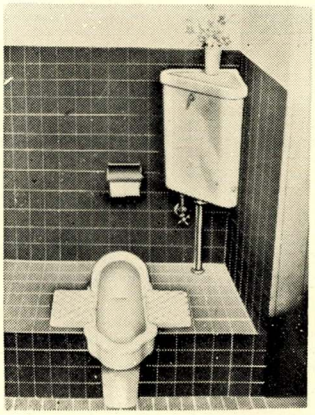
東洋陶器

（衛陶マーク）

Toyotoki

（金具マーク）

の衛生陶器と附属金具



新製品

S—170
スミ付ロータンク

弊社は本社・茅ヶ崎の各衛陶工場及び金具工場共にＪＩＳの指定を受けた唯一の衛生器具総合メーカーです

品質管理の優秀な
東洋陶器製品をセットで御使用下さい

東洋陶器株式會社

本　社
小倉市篠崎町458
TEL ⑤2481～5

大阪営業所
各地営業所
大阪市東区伏見町5の3　TEL ㉓4518～9
東京・名古屋・小倉・広島・高松・札幌

茅ケ崎工場
神奈川県茅ケ崎市
TEL 2105～8

建材優良証明発行

建材優良証明

消焔性　スロール　優良証明発行

昭和31年11月11日提出された株式会社山本建材社取扱製品消焔性スロールは，委員会で審査の結果，下記の特徴により，向う1カ年間有効の証明を昭和32年2月15日発行した。　日本建築協会建材審査委員会

記

品　名　消焔性　スロール

会社名　株式会社　山本建材社

特　徴
1. 極めて軽いポリスチレンの断熱材である
1. 吸水性がない
1. 素材が奇麗で着色が出来る
1. ポリスチレンフォームの性質を変えず消焔処理が出来ている

審査概要

スチロール気泡体は極めて軽く而も吸水，吸湿が少いので優れた低温断熱材（軟化点65～80°C位）であるが，建物に使うには燃え易いのが難点である。この難点を除くには表面処理だけでなく中まで全部焔を出さぬようにしたい。そうやるとボロボロとかけ易くなり多少吸湿性もふえたりするのだが，この消焔性スロールはかかる欠点がなくよくスチロール気泡体の特性を保持しながら消焔性を与えている。

（委員記）

創立記念行事予告

創立記念日行事予告

記念午餐会と通俗講演会開催

本会の第40回創立記念日が近づきましたが，当日の3月30日は名誉会員をお招きして記念午餐会を催す他に下記の如き講演会を開催する予定であります。

記

講　演　南極地域特別観測隊用建物について(映画，スライド併用)

講　師　竹中工務店東京研究部長　箕曲(みのわ)在信氏

（参考）

工事名　南極地域特別観測隊用建物工事

建築主　文部省・日本学術振興会

設計者　日本建築学会南極地域観測隊用建築委員会
委員長　二見秀雄氏

施工担当者　箕曲在信氏・深井久男氏

工事期間　31. 7. 1～31. 10. 27

会と催

3月

三井倉庫見学
16日午後1時半

三井倉庫株式会社大阪支店土佐堀倉庫見学会

1 とき　3月16日(土)午後1時30分集合
1 ところ　三井倉庫大阪支店正面玄関
(市電江戸堀北通4丁目電停前)
1 定員　80名

建物概要

所在地	西区土佐堀通4－1
工期	昭和30年12月――31年11月
設計監理	三井倉庫株式会社
施工	株式会社竹中工務店
敷地面積	1,847坪（浜地を含む）
建物面積	建坪 1,130坪　延坪 4,803坪 （保管室3,293坪，荷捌場705坪， 事務所316坪，機械室其の他 489坪）
階数	地上 4階，地下 1階，他に屋上塔屋 3階
構造	鉄筋コンクリート造　一部鉄骨造
建物の高さ	軒高 70尺9寸，望楼高 106尺6寸

・見学参加者にお願い・　見学中は絶対に禁煙をお守り下さい。

日本住宅公団
千里山団地見学
20日午後2時

日本住宅公団千里山団地見学

1 とき　3月20日(水)午後2時集合
1 ところ　千里山駅前(阪急電車千里山線終点)
1 定員　100名

建物概要（詳細，本誌20頁参照のこと）

設計	日本住宅公団大阪支所
	株式会社久米建築事務所
監理	日本住宅公団大阪支所
施工	株式会社大林組
	株式会社戸田組
	株式会社奥村組
	株式会社熊谷組
	三井建設株式会社
	鍵仲建設株式会社

会と催参加の方に

・・申込→開催日の3日前までに，電話又はその他の方法でお申込み下さい。尚定員に達した時は即日〆切りますから御諒承願います。

・・参加→お申込いただいた方は参加者名簿に記載し，当日受付で参加者数を確認するため，更めて前記名簿により受付しますから，当日お申込みなく参加されてもお断りすることがあります。なお一部の方々は励行されておりましたが，こんごは必ず，会員章（バッチ）を着用願います。会員章（バッチ）は1個150円で事務局にあります。

近畿電々体育館と
扇町高校 見学
23日午後1時半

近畿電々体育館と扇町高校見学

1 とき　3月23日(土)午後1時30分集合

1 ところ　近畿電々体育館正面玄関(北・玉江町1，電々会館隣)

1 定員　100名

建物概要

近畿電々体育館

設計　三座建築事務所
監理　電々公社建築部
施工　株式会社鴻池組
建築面積(坪) 1階 485.94　2階 50.80　3階 100.55
4階 423.17　延坪 660.24
構造・規模　鉄骨鉄筋コンクリート造　地上4階建

扇町高校

設計　日建設計工務株式会社
監理　電々公社建築部
施工　株式会社鴻池組
建築面積　建坪 594.27　延坪 1781.57
構造・規模　鉄筋コンクリート造　地上4階

現代ドイツ建築展
3 月 9 日

戦後最初の現代ドイツ建築展開催

とき　3月9日(土)より3月14日(木)まで

ところ　高麗橋三越6階会場

内容　ドイツ建築家協会々員作品(写真) 151点
ドイツ住宅復興資料(パネル) 30点

主催　ドイツ建築家協会・日本建築学会・日本建築士連合会
日本建築家協会・日本建築協会・全国建設業協会
大阪府住宅復興促進協議会

後援　ドイツ大使館・外務省・建設省・日独協会・日独文化研究所
朝日新聞社・大阪府・大阪市・日本住宅公団大阪支所
大阪神戸独逸国総領事館・大阪日独協会

本展覧会は去る1月15日から20日まで東京三越に於て開催され広く好評を博しました。引き続き関西で開催致しますから，この機会に一般多数の御参観をお推めします。

監事並びに評議員当選に関する件

昭和32年1月30日の通常総会において監事並びに評議員の選挙を執行いたしました結果，下記の通りそれぞれ当選されました。

監　事（1名・略敬称）

山邑励二　（鹿島建設常務取締役）

本部所属評議員（29名・略敬称・五十音順）

（技術部門）

宇治村　樸　（府営繕課積算係長）
円堂政嘉　（事務所自営）
小田健治郎　（事務所自営）
北村修　（倉敷レイヨン営繕部技師）
椚座正信　（府建築指導課地域係長）
坂永金重　（日建設計工務設計部長）
陶浪貞彦　（清水建設大阪支店設計課長）
長尾勝馬　（都島工高建築科長）
福田朝生　（竹腰建築事務所常務取締役）
若田久作　（大林組工務監督）

（綜合部門）

稲田芳郎　（大成建設大阪支店建築課長）
岩下久哉　（鹿島建設大阪支店建築部長）
蛯原逸雄　（西松建設関西支店次長）
小栗賛吾　（清水建設大阪支店長）
鈴木末尾　（鴻池組専務取締役）
西沢藤生　（大林組常務取締役）
政岡基次　（松村組監査役）
溝江昴　（不動建設常務取締役）

（電気部門）

今村騰　（中央電気工業社長）
工藤寿男　（工藤電気社長）
山本昴之助　（三和電気土木取締役）

（管工部門）

上西圭治　（建材社社長）
高頭三義　（東洋キャリア大阪支店長）
知見義夫　（斎藤省三商店大阪支店長）

（建材部門）

金光五郎　（萬年スレート常務取締役）
小早川美武　（亀井株式会社専務取締役）
越田英嗣　（昭和化工株式会社社員）
田村史郎　（三和プラスチックス社長）
平田伊三郎　（平田タイル社長）

なお各支部選出の評議員は下記の方がそれぞれ当選されました。

（兵庫支部）

芦田小二郎　（芦田建工社社長）
石井一信　（石井建材社長）
設楽貞三　（住宅建設専務取締役）
伴潔　（神戸大学教授）

（和歌山支部）

宇治田政雄　（建設業自営）
竹本説夫　（職業指導所教官）

（九州支部）

五百蔵芳明　（佐賀県建築課長）
黒木源次郎　（黒木工務店社長）
薄与荘　（福岡県建築士会々長）
森口清　（福岡県建築課長）

（中国支部6名未定・東海支部2名未定・京都支部改選者ナシ）

昭和32年2月15日

社団法人　日本建築協会

参　考

昭和32年度留任退任監事・議評員氏名（敬称略・五十音順）

留任	退任
監事	
中西六郎	鷲尾九郎
本部所属評議員	
（技術部門）	
岩本博行	小原祥介
奥島正一門	笠橋作太郎
川名吉衛	金岡剛年孝
清水和弥	佐々木新一
多屋幹夫	佐々木保
西島勇雄	坂内幾三郎
原田貞次	菅豊重
増田幸次郎	広瀬勇
村上秀夫	元良勲
森川喜代之助	安田信一
渡辺禎己	
（綜合部門）	
伊丹久吉	鳥野民男
石丸正名	大野勝三郎
神谷新一	川河源兵衛
辛木貞夫	豊合島貞一
浜口幹三郎	牧村利芳雄
山本義樹	山本吉勝次
	永福山野三良郎
（管工部門）	
浅野重太郎	柴田文三
内田成之	城口庸平
	山田文次
（電気部門）	
武田恭一	高橋末吉
松本芳太郎	永田鼎三
	山本竜太郎
（建材部門）	
神田省平	井上定雄
中森菊次郎	村上一郎
辛川智造	中島原照雄
増田宏	藤田利夫
横田喜一郎	柳原癸巳
支部所属評議員	
（兵庫支部）	
野田清三	中川初子
山内嘉兵衛	岸川康蔵一
	錦田直
（京都支部）	
井手正雄	ナシ
水野喜一郎	
大鳥居満也	
山本和夫	
（中国支部）	
ナシ	足立嵐一
	鈴木広好
	和田林精一
	大高井久武
	平井幸治
（和歌山支部）	
児島正積	井崎梁次
山下宗一	藪本芳



電々公社高槻アパート

施工　大日本土木株式会社大阪支店

電気工事　岸野電気株式会社大阪出張所

管工事　浦安工業株式会社大阪出張所



日本住宅公団分譲住宅

建築並土木工事

株式会社 大林組　　株式会社 熊谷組大阪支店

株式会社 戸田組大阪支店　　鍵仲建設株式会社

株式会社 奥村組　　三井建設株式会社大阪支店



航空写真 ： 大阪読売新聞社提供

千里山団地建築協力会

給水衛生設備工事	電気設備工事
三機工業株式会社大阪支店	工藤電気株式会社
株式会社大阪電気暖房商会	三宝電気株式会社
保坂工業株式会社	中央電気工業株式会社
浦安工業株式会社大阪出張所	江東電気工業株式会社



日本住宅公団出来島団地

施工　株式会社銭高組　：　大成建設株式会社



設 計 監 理　　日本住宅公団・日建設計工務株式会社

清水建設株式会社　：　株式会社 鴻池組



日本住宅公団出来島団地

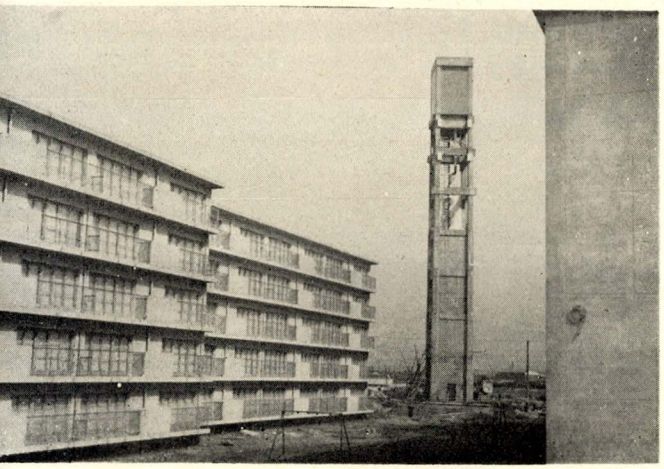
A地区室内衛生工事

株式会社　朝日工業社



屋内給排水衛生設備（B地区）
屋外給排水本管設備

株式会社　三晃商会



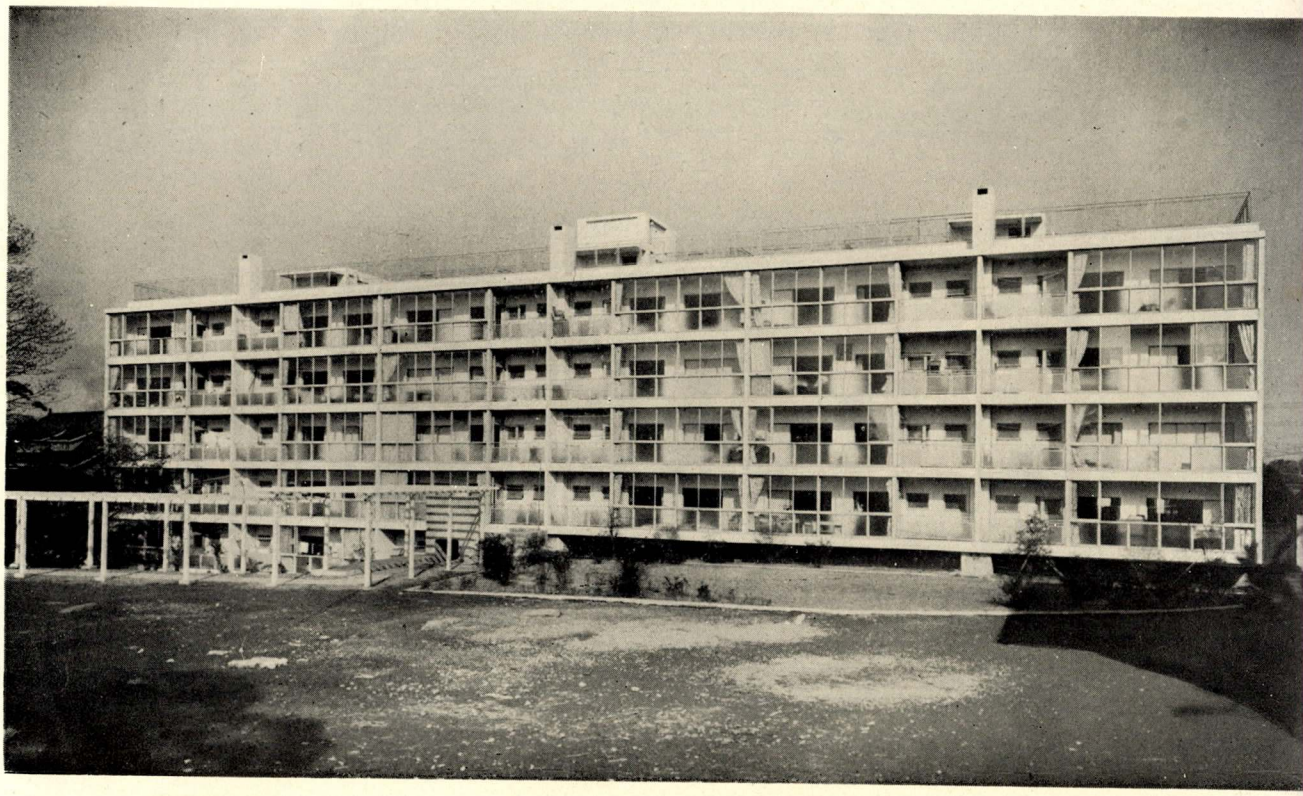
C地区給排水衛生設備

株式会社　森野工務店



庇・水槽・浄化槽（ウォータイトB号使用）

株式会社　日本セメント防水剤製造所



旭硝子高樹町アパート

設計　梶　元成

施工　株式会社 信和工務所

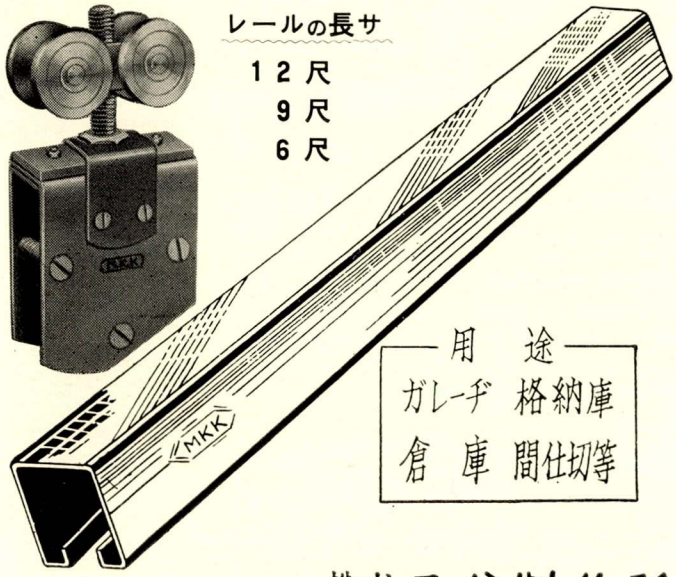
旭硝子株式会社



日本住宅公団出来島団地

電気設備工事施工　株式会社　ヤ マ ト 電 気 商 会

設計の時からドアーハンガーは　M.K.K



レールの長サ
12尺
9尺
6尺

用　途
ガレージ　格納庫
倉　庫　間仕切等

★御用命は下記代理店へ
お願いします

株式会社　石 倉 商 店
小野藤金物株式会社
合資会社　和田末商店
月虎金属株式会社
株式会社中村多喜弥商店
松本金物株式会社
株式会社　丸 喜 商 店
深見金物株式会社
湯浅金物株式会社
清水金物株式会社
株式会社　日 垣 本 社
株式会社　平 尾 商 店

東京　株式會社　三谷製作所

建築と社会

3

住　宅　特　集

1957年3月号目次

作品作風

北畑邸：京都……設計：増田　友也……16

日本住宅公団千里山団地……20

日本住宅公団中宮第一団地……24

日本住宅公団出来島団地……26

電々公社高槻アパート……30

神戸銀行呉川町家族寮……34

旭硝子高樹町アパート……36

スケッチブック

ディーゼル博士記念苑の感想……光安　義光……37

建築の眼……38

本文

「最小限住居」はどんな意味があるか…丹下研究室……39

都市の住宅配分の問題……川名吉衛門……43

住宅と生活意識……牛田尹久子……47

あぱーと団地の景観……諫早　信夫……52

住宅問題解決への段階……住宅委員会……56

住宅座談会：住宅政策の当面の諸問題…編集委員会……60

これからの住宅と家具について……住宅委員会……69

書評：「住居の歴史」後藤守一著……西川　幸治……72

「住居の科学」吉田　守著……巽　和夫……72

「みんなの住い」谷口吉郎編……前川　道郎……74

「アパートの暮し」重松敬一編…絹谷　祐規……74

技術講座

公団住宅の電気設備について……仲井　喜作……76

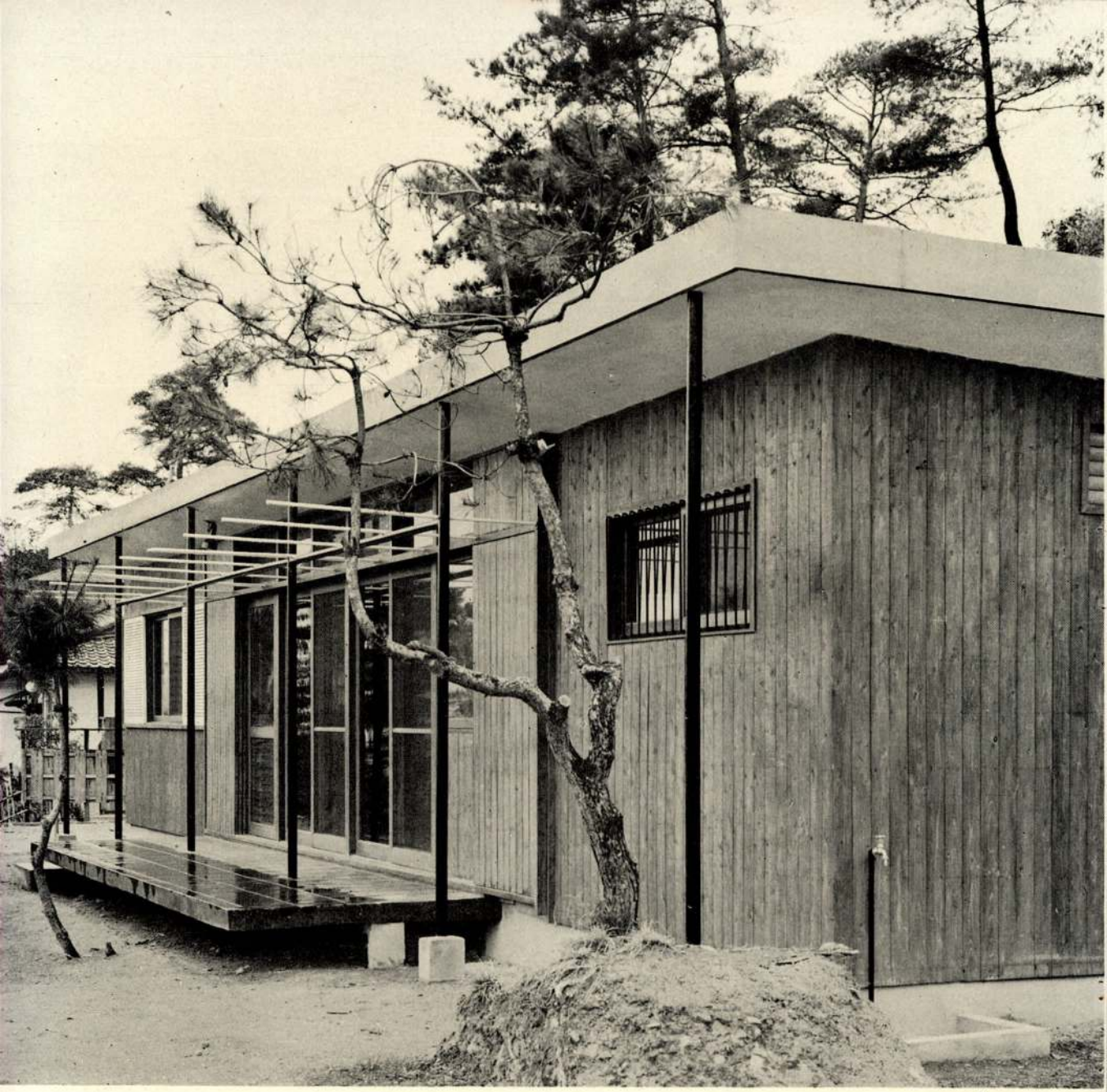
設備原論Q・A……関西設備原論研究会……79

5. 住宅内の空気中にはどの程度の塵埃があるか……79

6. 昼光照明で間接照度を簡単に求める方法は……81

会合便り……83

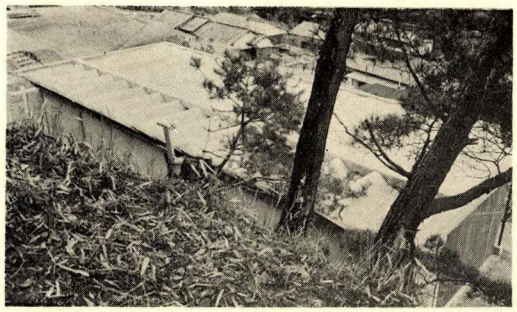
建築と社会
第38集・第3号
売価1部130円・送料共
昭和32年3月20日印刷
昭和32年3月25日発行
発行所　社団法人　日本建築協会
大阪市東区北浜3丁目37
電話　北浜㊇9648・9649・9640番
振替口座大阪39975番
発行人　沖田　誠一
編集人　松井　昭光
印刷所　株式会社研文社
大阪市北区堂山町66
電話㊇2091～3番
印刷者　網野　栄



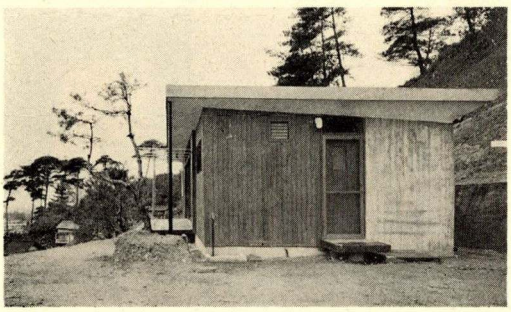
1

北畑邸：京都　設計　増田友也

施工　株式会社 林工務店



2



3

所在地　京都市左京区北白川山田町62－2
建　坪　　19．38坪
竣　工　　昭和31年12月5日
規　模　鉄筋コンクリート造平家建
外　壁：コンクリート打放し，および杉竪羽目板張
屋　根：鉄筋波型コンクリート，防水モルタル塗仕上
床　　：コンクリート下地アスファルトタイル貼
内　壁：プラスター一部分およびビーリング張り
　　コンクリート打放し，ブロック目地仕上
天　井：木摺下地プラスター仕上

この家に住んでみて——施主としてのことば

わたくしたちがアメリカから日本にきたのが約一年前のこと，家内には日本で住むことが始めてであり，小生はアメリカで6年半外科医の仕事をして帰国した直後に，わたくしたちの家のプランにとりかかつた。

わたくしたちは素人として建築に興味があり，アメリカにいたときから殊に近代建築に興味があつた。わたくしたちの新しい家の基本的な floor plan はもつていたが，アメリカでも近代建築の住宅を建てる困難さは知つていた故に，日本にきてそうした私達の構想を実現さす困難さは，なおさら強く感じていたところが偶然，増田友也氏と知合になり，氏がわたくしたちの望むものを理解してくださつたことは幸いなことであつた。そうした設計者の理解のもとに，わたくしたちが共に計画を進めえたことは非常に楽しい経験であり，それだけにまた，この家が本当にわたくしたちのものという感じがする。

住んでみての感想といえば，大体四つのことに表わされると思うが，第一に，掃除が簡単で世話が非常にしやすいこと，第二に，実際小さい家であるにかかわらず，非常に広い感じがすること，第三に，どこをみても審美的に十分満足感を与えられること，第四に，生活の efficiency である。

家全体が同じレベルの上に建てられ，台所も洗濯場も屋内の同じ床の上にあり冬でも寒い目もせず，家内は殊に大満足である。living room も19坪余の家には思いもよらぬ広さがとれ，人の招待の好きなわたくしたちにはもつてこいでまた，音楽好きのわたくしたちには，全く enjoyable の部屋で，暖房も十分にでき，五重奏（ピアノ，ヴアイオリン，ヴイオラ，セロ，バス）をしても，奏者以外に客をよんでも十分に enjoy できる space がある。天井が前上りになつていることは，一層 spaceous な感じを与え，また，前面のガラス戸よりの採光には申し分がない。

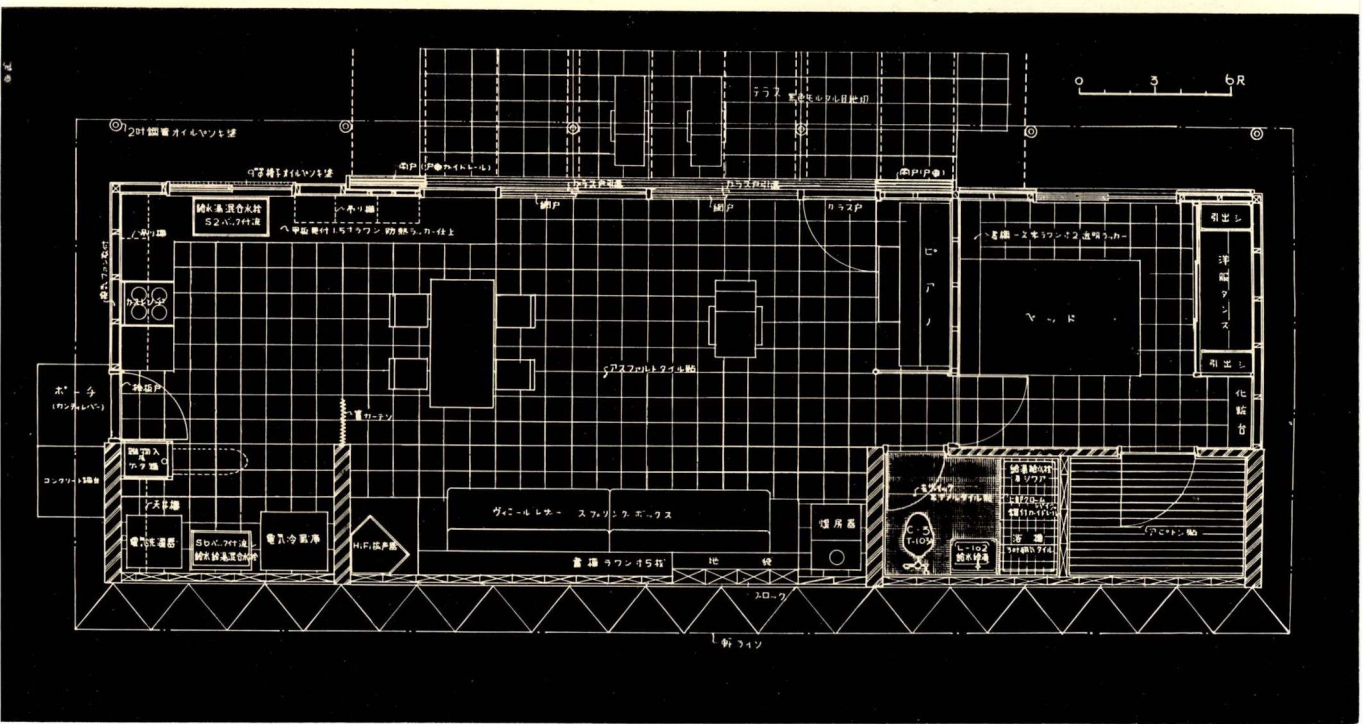
材料も白木から，コンクリートの壁，セメントブロックに至るまで，variety が多く，殊に smooth な黒アスタイルの床および白天井とは良い対照である。

家内には前に使つたことがないようなもの，殊に雨戸とか，sliding door の利用価値が気に入つたようである。

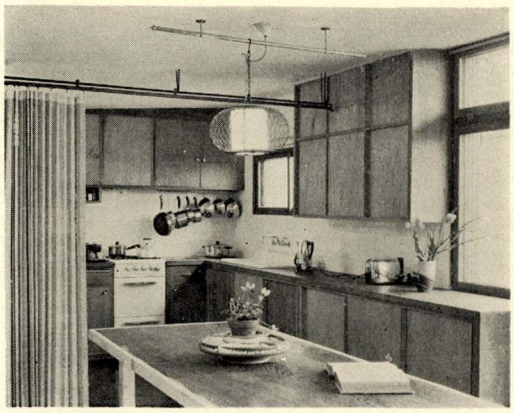
わたくしたちは，増田氏の設計に信用できたから，これだけのものができたわけで，わたくしたちには，ああしたものがほしいという漠然たるものを，氏が具体化されたものである。途中，plan をかえるにしても，また色を決めるにしても，氏の援助があつたことは幸いで，何ひとつ不満足のものがない。

またアメリカでも得がたい近代建築を，しかもわたくしたちがほしいと思うようなものを日本で実現することは当然困難なことであろうが，それを理解して建築に当つた施工者にも謝意を表したい。

北畑昌彦
北畑 Carolyn
2月13日，1957年



4



5

写真説明

1. 外観
2. 波型のある屋根をみる
3. 側面をみる
4. 床ノ間詳細
5. 台所をみる
6. 寝室を見通す

北畑邸　京都　　設計：増田友也　　施工：株式会社林工務店



日本住宅公団千里山団地



設計	日本住宅公団大阪支所
	株式会社 久米建築事務所
監理	日本住宅公団大阪支所
施工	株式会社 大林組
	株式会社 戸田組
	株式会社 奥村組
	株式会社 熊谷組
	鍵仲建設株式会社
	三井建設株式会社



設　計　者　の　こ　と　ば　　久米権九郎

豊かな日光と清浄な空気を，満喫できる住宅地として理想的なこの団地は，当初は丘陵の北面に不利な部分があり，また丘陵の背がいづれも痩せていて使えないので，これらの頂上線をカットして，凹地や水田を埋めて有利に解決し，あとはできるだけ自然の地形を生かしてそこに会うような建物を配置した。そのために道路は多少複雑となつたが，団地の景観はかえつて変化に富んだ楽しさと温かさとを住環境に添えることができた。

共同施設は目下のところ駅前のマーケットを持つコムニテイセンターと点在する児童の遊び場等であるが，将来計画として実現を望まれるものは，

(1) 東に開けた谷合を芝生の広場として，あらゆるレクリエイションに当て，広場に面して集会場を設け，タバコやレフレシメントを置く。

(2) その他　数カ所に，タバコと日用品のいわゆるドラグストアの極く小規模のものを設けて，公衆電話を置く。

(3) 電気洗濯機と，乾燥設備のある簡易洗濯場を，各丘毎に設けて，バルコニーの満艦飾をさけたい。

色調は　クリーム　グリーン　ピンクを基調とし，これに同調の濃淡で変化を持たせ，アクセサリーとして　手摺等に　他の色を配した。

この団地の特長は，農地に関係のない丘陵地が，立派な住宅地となる実証を，加えて丘は丘なりに，自然の形を，生かすことの良さを示したことである。

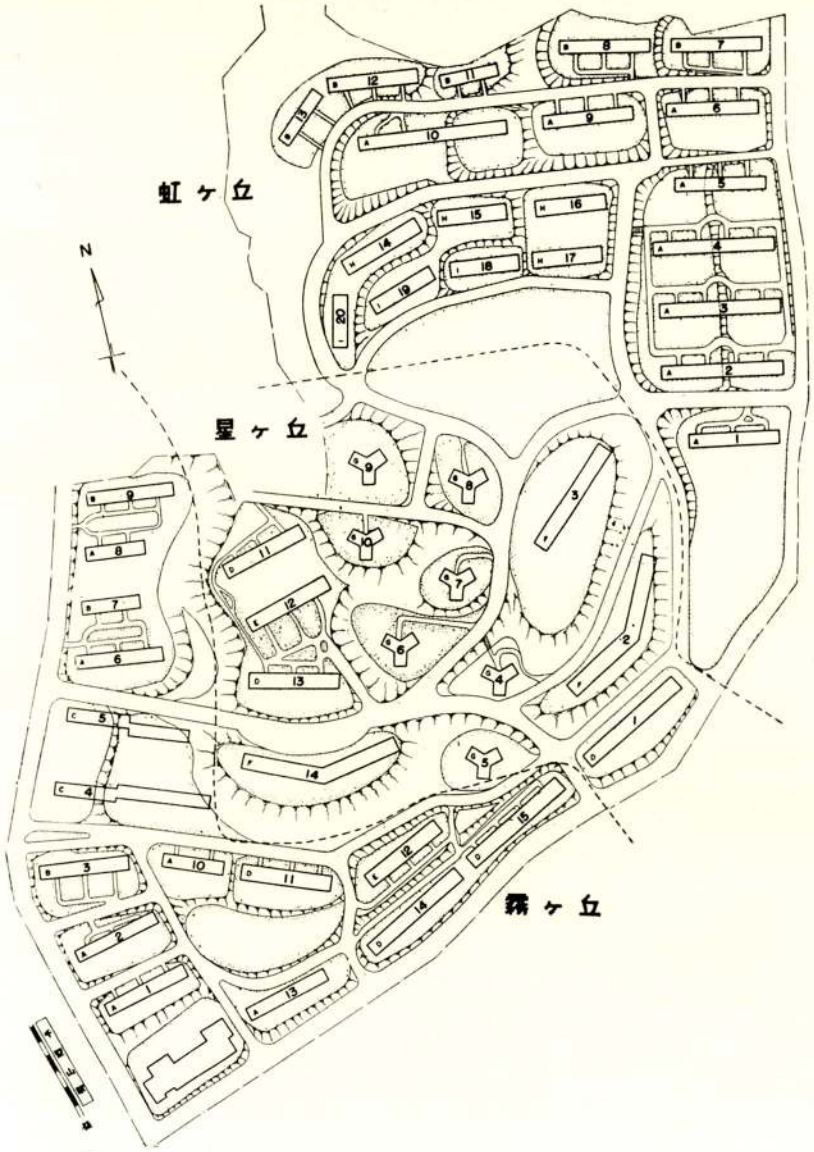
設計担当　　（久米建築事務所側）：久米権九郎・岡村　多市・黒川　洋・是技　慶一・宇賀神重男・鈴木　五郎

航空写真：「週刊朝日」提供



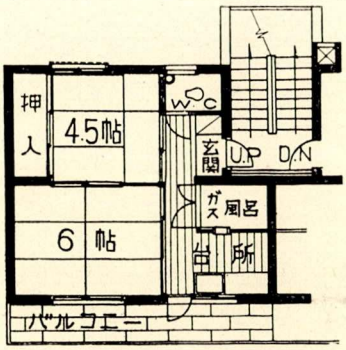


グロス団地面積A＝B＋C		162564.98m² 31025.9 坪 (100%)
団地外周道路等B		3120. m² 937. 坪 (3.04%)
団地内	住宅	67030.09m² (65.5%)
	共同施設	595.49m² (0.58%)
	道路	10234. m² (9.86%)
	緑地	15343. m² (15. %)
	ソノ他	6239. 3m² (6.05%)
	計	99444.98m² 30083.54坪 (96.96%)
住宅戸数D		1061戸
1戸当リグロス団地面積%		30.1坪/戸
1戸当リ団地面積C/D		29.6坪/戸
人口E		4774.5人
グニロツスイ団地面比積率	戸数密度 D/A	100.9戸/ha
	人口密度 E/A	45.45人/ha
	総建築面積率 F/A	12.2%
	総建築容積率 G/A	43%

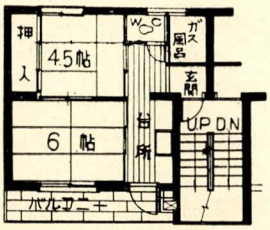


日本住宅公団千里山団地

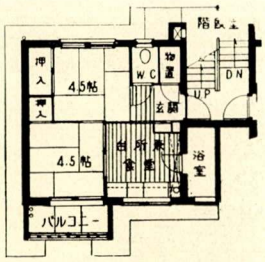
建設地		大阪府吹田市大字千里山
建設規模	敷地面積	19,676坪　星型 7棟　105戸
	建設戸数	1061戸（中層 35棟　900戸 テラスハウス 低層 7棟　56戸）
	独立高架水槽	（高 37m　容量 40Ton 受水槽 200Ton）
	浄化槽	3基（800人　1500人　1800人）
	遊戯施設	植樹　その他　塵芥焼却炉等
	マーケット	2階建延　286坪　1棟
	（千里山第二小学校増築	13教室他）
総建設費		843,604,242.00（敷地造成工事ヲ含ム 学校増築ハ含マズ）
工期		（自 昭和30年12月27日 至 昭和32年3月31日）



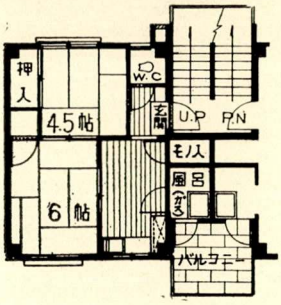
A 型　55－4N－2K　11.99坪



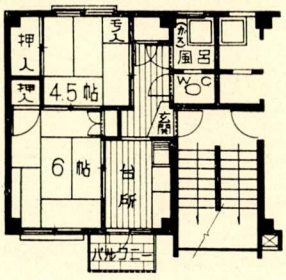
B 型
55－4S－2K　11.71坪



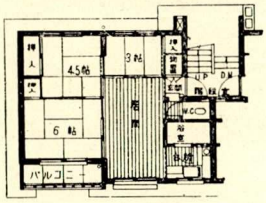
C 型
560－4N－2DK　12.29坪



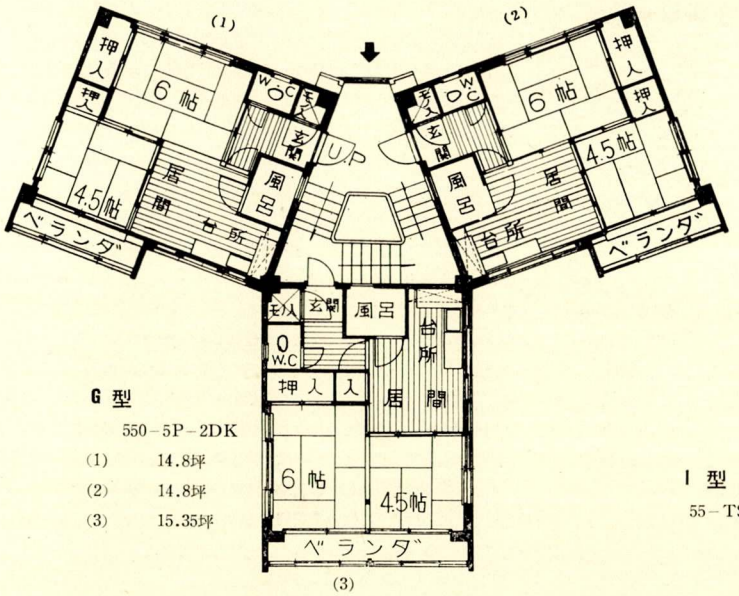
D 型
55－4N－2K－2　12.73坪



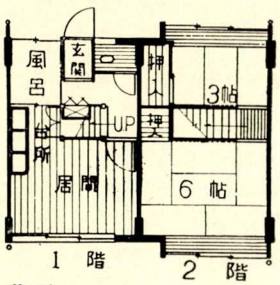
E 型
55－4S－2K－2　12.56坪



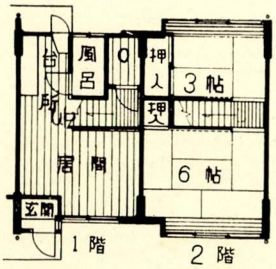
F 型
530－4N　3DK　16.72坪



G 型
550－5P－2DK
(1)　14.8坪
(2)　14.8坪
(3)　15.35坪



H 型
55－TN－2D－2　12.84坪



I 型
55－TS－2D－2
12.94坪

千　里　山　団　地　に　つ　い　て

主任監督員　日本住宅公団大阪支所　**小　松　和　郎**

竹笹の生えた30,000坪の敷地が，蜜に漬けた洗濯物を掴んだ跡のごとき地形で連続していた。そして31年1月5日より2月末日までにブルトーザーにより105,000立米の土量を動かした。

3月10日頃より建築工事に取掛つたのであるが，3月25日の大雨により，整地された敷地より大量の土砂が押流され，雨水は敷地周囲に氾濫し前途に異状な困難があると感ぜられた。

建築工事においてまづ第一に逢着した困難事は，場内道路が造成直後であつたため，路面が軟弱であつたことと，降雨毎に路面が流され，コンクリート用骨材その他材料運搬に非常に困難を伴つたことである。これた対処するために栗石を入れたり，枕木を並べたりして克服したのであるが，これに要した経費は莫大なものであつたろうと考えられる。

コンクリートが打終つたのは，六月末より七月中旬にかけてであつたが，この頃には整地された地盤は自然に，または通行により相当固定してきた。

次に建物の竣功後努めて早く居住できるように，屋外埋管工事を建築物と平行して行いたかつたのであるが，平坦な敷地と異り，材料運搬に使える道路としては，極めて一部の幹線しか使用できなかつた故に建築工事をストップせずに屋外工事を行うことは非常に困難であつた。

このことがらは法の砂防のための擁壁築造工事，法面芝植工事，工事中降雨毎に流出した土砂の処分工事とともに，建築物竣功後も現場内を混乱させた要因である。

以上の困難を克服し屋外工事も九分通り終り，敷地周囲の緑に映え，青空に聳える九種類におよぶ建物を，スライデングフオームにより施工した高さ32mにおよぶ給水塔とともに眺める時，いいようのない嬉しさが胸にこみ上げてくるのである。



日本住宅公団中宮第一団地

設計監理　日本住宅公団・大阪建築事務所

施　工　建築工事　浅沼組
神崎組

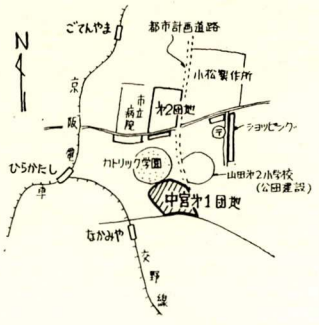
建設地		大阪府枚方市大字禁野
建設規模	敷地面積	8708坪
	建設戸数	350戸（中層 9棟 / テラスハウス 8棟）
		独立高架水槽　高 27m　容量 25ton　受水槽 80ton
		浄化槽　2基　(1200人　520人)
		分離槽　3基　(150人　200人　700人)
		遊戯施設　植樹　その他　塵芥焼却炉等
総建設費		259,330,063.—
坪数		平面図参照
工期	自　昭和30年12月1日	(主体工事)　(自30.12.1)
	至　昭和31年12月10日	(至31.8.25)

公団住宅中宮第一団地について

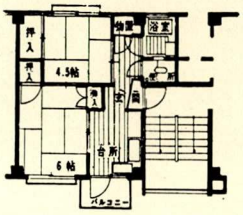
主任監督員　日本住宅公団大阪支所　小松次郎

雑木の茂つた何一つ目じるしのない丘陵地帯にまづ杭を入れ，敷地造成と道路敷設のブルトーザーを入れたのが30年12月初旬であり，年末には自動車の通るメイン道路が開通し，仮設諸材料の運搬などをなし，敷地造成も進み，遺形を打つて行つた。とくに敷地造成で困難をきたしたのは，東南部の急傾斜面のテラスハウスの3棟で，ブルトーザー乗入れにも一寸手間取つた。一般に地盤は良く杭打工事もなく，ただ建物配置が図面のごとく給水塔を中心にやや円みを帯び単調を破つた行き方なので竣巧後の現在は整然とした配置よりも親しみは持てると思う。工事中は材料集積や，地下諸設備工事に，少なからざる困難をともなつた。屋外施設，すなわち給排水，汚水排水，電気ガスなど，埋設工事については，とくに綿密なる工事工程管理表を作成して工事を進めて行つた。工事の手もどりなく，また無駄な空間も作らずして地下施設を建築工事の進行にいささかも差支えのないようにスムースに施工した。地下工事をとくに急いだことの大きな原因は，道路を材料運搬などによる自然転圧を役立たすためである。道路は砂利を散布し，山土にて目つぶしをして，ローラーにて数回転圧し，この作業を二回繰返した。この工法にて設計量の砂利を使用し施工した。前記の工法を採用したために，砂利舗装道路としては完全に近いものになつたことで，この団地として色彩調節とともに一応成功したものと思う。

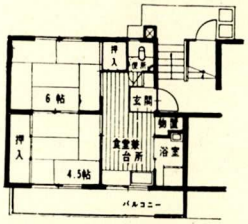
ゲロス団地面積A＝B＋C		43221.98m² 13074.64坪 (100%)	住宅戸数 D		350戸
団地外周道路等 B		4448 m² 1345.52坪 (10.3%)	1戸当リグロス団地面積%		55.25坪/戸
団地内	住宅	16012.11m² (37%)	1戸当リ団地面積C/D		489坪/戸
	共同施設	0 m² (%)	人口 E		1575人
	道路	3550 m² (8%)	ゲニロツスイテ団地面積比率	戸数密度 D/A	78.9戸/ha
	緑地	11430 m² (26%)		人口密度 E/A	355.75人/ha
	ソノ他	7781.87m² (18%)		総建築面積率 F/A	9.31%
	計	38773.98m² 11729.12坪 (89%)		総建築容積率 G/A	35.35%



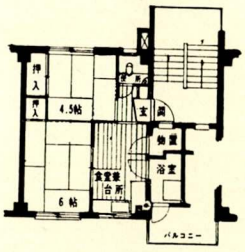




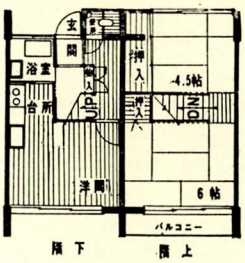
A・B・H 型
550－5S－2K－2
12.56坪



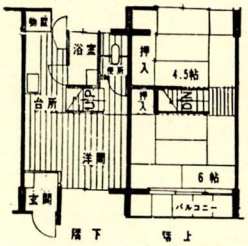
C 型
550－4N－2K
13.08坪



D・E 型
55－5N－2K－2
13.19坪



G 型
55－TS－2D　14.06坪



F 型
55－TN－2D　13.86坪

配置設計について　大阪建築事務所　井上滉

住宅の設計が人々の生活を基礎とした動線，機能，空間の追求であるのと同様，その住宅が集合して団地を形成する場合も，それが単なる棟の羅列に終らず，そこに住む人々の生活を考慮した環境計画であるならば，その団地は一つのユニークな性格をもつた住み心地の良い生活の場となるでしよう。"環境が人を規定する。ならば，なおさら団地の計画設計も建物の平面計画と同様に充分考慮されるべきであると思います。

機能的にも充分周囲の環境に融合して計画された団地，それはスケールの小さい計画都市であり，そこに生活を営む人々は一つの詩を感ずることでしよう。

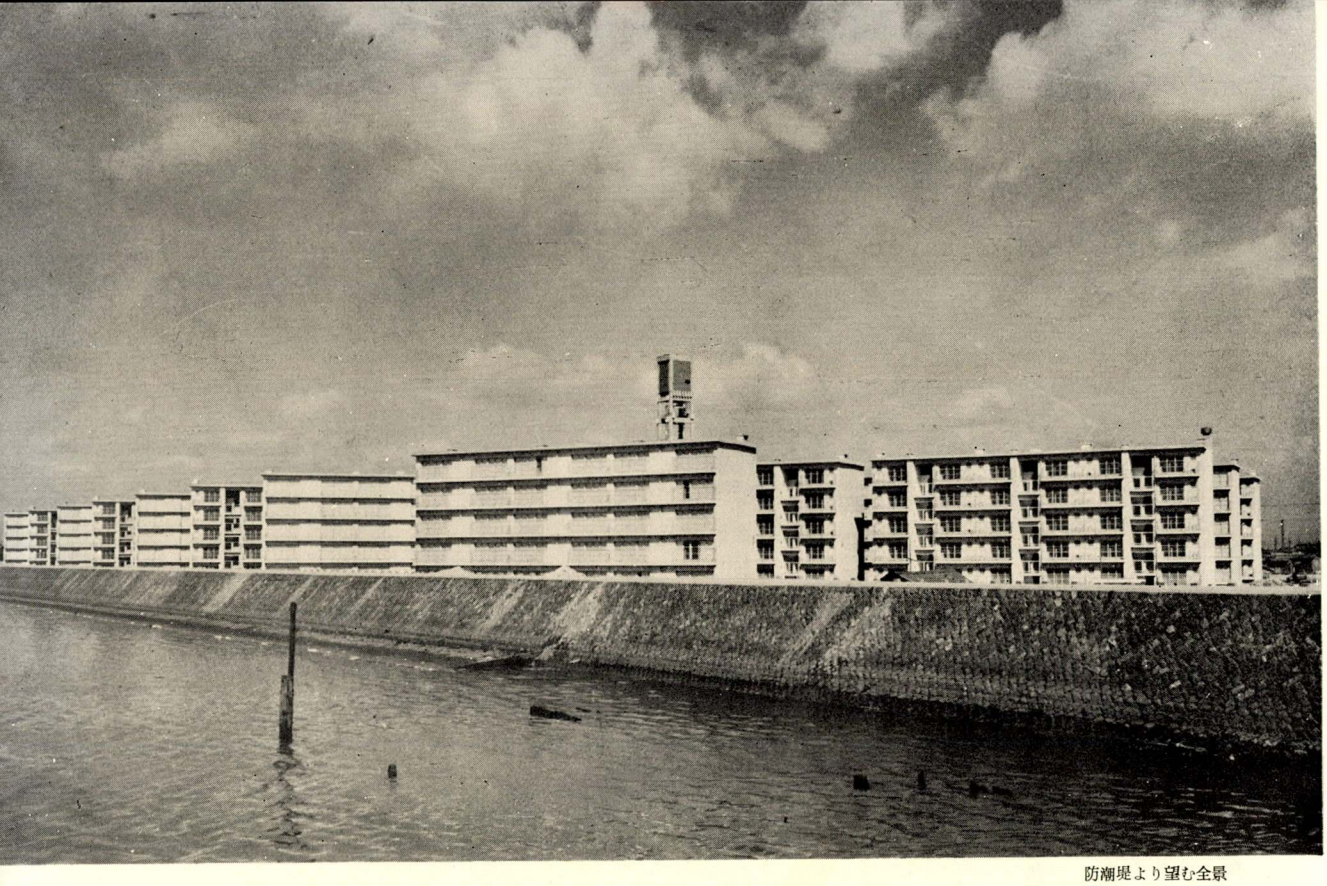
当中宮敷地は枚方市の郊外で南と西とに素晴しい眺望をもつた緩かな傾斜地で一日を都会の騒音の中で働いて神経を消耗させる現代の人々にとつては理想的な憩の地であり，休息の場所であります。

この団地の計画に当り，最も多くの経済的戸数を収容し，かつ，それがために雑然とならないように注意し，さらに平地と異り，高低差のあるところに構造的にまた給排水等の設備の点からも無理のないよう考えました。

竣工までに航空写真，模型等の色々な手段をもつて研究しましたが，現場で多少納り上位置を変えたところもあります。

しかしほとんど設計通りに完成し，住む人々に前述のごとき快適な感じをもつて戴けるならば幸甚この上なく悦びと思います。





防潮堤より望む全景

日本住宅公団出来島団地　　設計監理　　日本住宅公団・日建設計工務株式会社

施工　　株式会社　銭高組

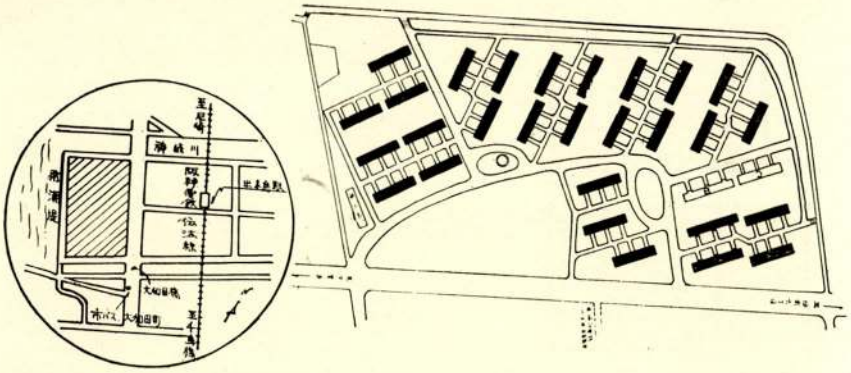
大成建設株式会社

清水建設株式会社

株式会社　鴻池組

建設地		大阪市西淀川区出来島町
建設規模	敷地面積	16,077坪
	建設戸数	882戸（中層 30棟）
	独立高架水槽	高 37m　容量 40Ton
	浄化槽	2基　2500人　2200人
	分離槽	4基（1300人 1基，1100人 3基）
	遊戯施設	塵芥焼却炉　その他
	植栽工事	（未発注）
総建設費		708,563,200.00
工期		（自 昭和31年4月1日 至 昭和32年1月31日





出来島団地住宅設計に関して

日建設計工務株式会社

共同住宅の建設については，社会的にも都市計画的にも多くの意義や問題があるだろうが，直接計画設計を担当する者にとつては，未来の居住者にたいする奉仕の精神がなによりたいせつであると思われる。決り切つたことだが住宅敷地の建設は多くの人々に新しい生活の本拠を提供することであり，計画の中には将来ここで営なまれる生活への親切がゆきとどいていなければならない。出来島団地設計において私達は終始このことを念願した。そもそもこの敷地は埋立地で一面あしの茂る湿地帯であつた。蚊や蠅の発生も激しく，まず衛生環境を改良することから考えねばならず，軟弱地盤をどのように処理するかについて研究調査も必要であつた。排水は大阪市の御協力を得て新しく排水本管を埋設し出来島全体をドライアップすることになつた。建物の地業に関しては公団大阪支所が調査し設計に当つた。盛土は排水との関係で，北西に向つてやや高くなるよう計画し，建物配置は風向日照の他に周囲の防潮堤を考慮して決定された。

ここに置配された 550 — $\frac{5S}{5N}$ — 2DK — NS は出来島団地のためにとくにデザインしたもので，敷地の関係上１戸当りの間口を縮めかつ奥行を深くし建物延長を短かくするよう注意した。ユニツトは比較的小規模の家族構成を対象としているが，限られた空間の有効度を高め生活を合理化し，いかに“せまき”から開放するかを苦心したつもりである。また能率的な生活を期待する意味でタタミのスペイスは必要な最小限にとつた。二寝室と居間兼食堂をT字形に構成し各室は可動間仕切で仕切られているので全体を単一空間としても使用できる。これにより空間は非常にフレキシブルになり，同時に開口部の機能は効果的となつた。

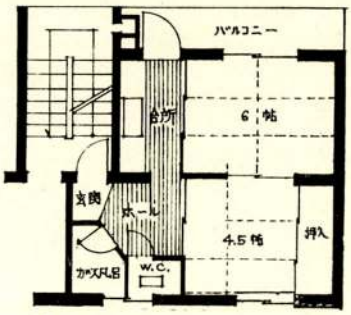
あえていうならば，相当数同一形式のユニツトが作られるのであるからマスプロに適した設計をもつと積極的に採用するべきであつた，ということである。

こうした意味でなお細部諸点においてまだ未消化な所もあるようだがさらに改善を望まれる。このことは単にこのプランについていわれるのみならず共同住宅設計の共通した基本的問題であつて，是非今後研究を推進しなければならないのではないだろうか。　　（好川記）



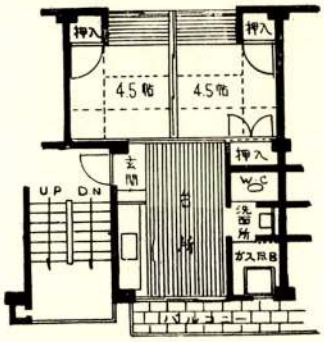
A 型

55—4N—2K　　11.9坪



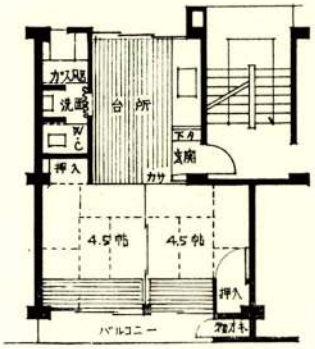
B 型

55—4S—2K　　11.71坪



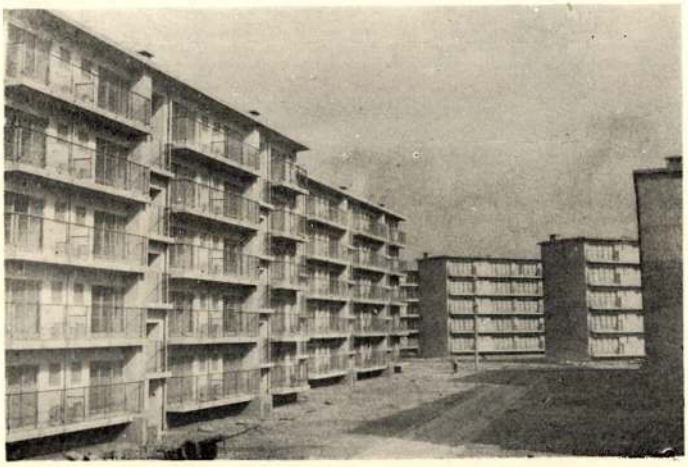
C 型

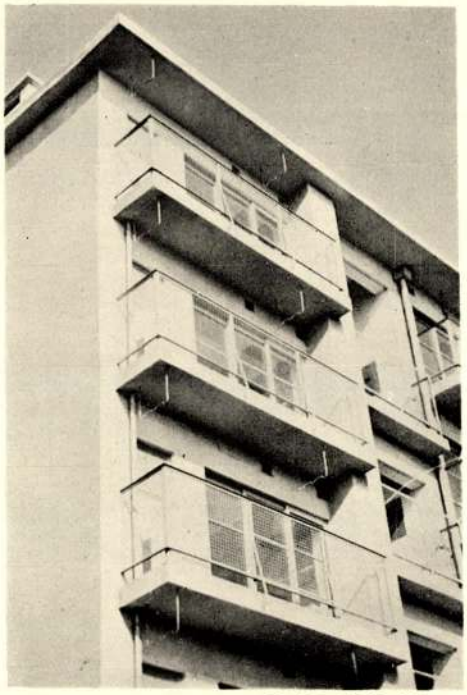
550—5S—2DK—NS　　12.53坪



D 型

550—5N—2DK—NS　　12.90坪





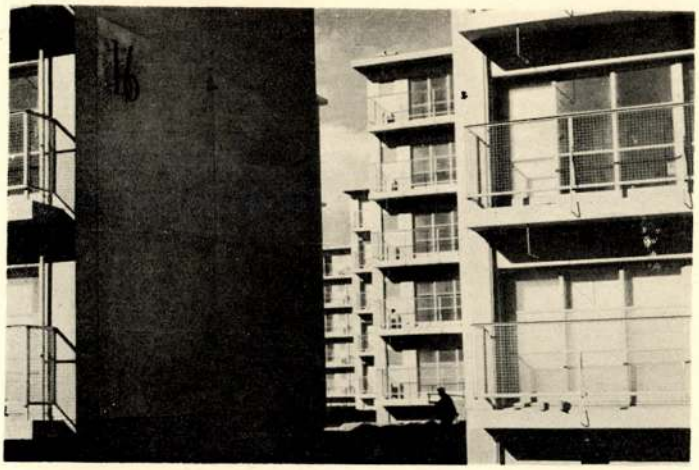
55—5S—2DK—NS

グロス団地面積A＝B＋C		60635 m² 18332.27坪（100%）		住宅戸数 D		882戸
団地外周道路等 B		3630 m² 1098.07坪（5.9%）		1戸当りグロス団地面積%		20.78坪/戸
団地内	住宅	45365 m²(74.6%)		1戸当り団地面積C/D		19.53坪/戸
	共同施設			人口 E		3969人
	道路	2610 m²（45%）	ゲニロツスイ団地面比積率		戸数面積 D/A	145.6戸/ha
	緑地	8400 m²（14%）			人口密度 E/A	654.5人/ha
	ソノ他	630 m²（1%）			総建築面積率 F/A	11.8%
	計	57005 m² 17234 坪（94.1%）			総建築容積率 G/A	62%

すぐ横の堤防上より高架水槽の附近を見通す

公団住宅出来島団地について

監督員　日建設計工務KK　土井忠治



出来島団地建設工事は公団住宅として初めて日建設計工務KKが設計および現場監督を担当しましたが，施工も昵喉もとすぎれば熱さ忘れるのごとく別に苦労もなかつたが，強いて語れば敷地が三方防潮堤に囲まれ，材料搬入のため進入路が制約され，かつ敷地が埋立湿地帯で防潮堤を隔てた河川に接する関係上非常に水位が高く工事中の排水および仮設道路にはかなり苦労しました。

次に工事契約後諸資材とくに鉄製品木材が暴騰し，工事進渉に差支えなきよう入材せしめるため，材料搬入の督促には予想外の手数が掛りました。

工期が年末にかかり建設ブームの関係で，左官の募集が意のごとくならず，人手不足のために随分神経も使いましたが，どうやら工程に大した狂いを生ぜしめなかつたことは幸いでした。

工事自体は普通の公団アパートとして別に取りたてて申述べる点もありませんが，戸数が多いのが問題で，ことに仕上作業においては，一々各戸に充分目が行き届かず一寸したことでも何百本とか何百個の数量の違いとなり，面喰らつたことが度々ありました。

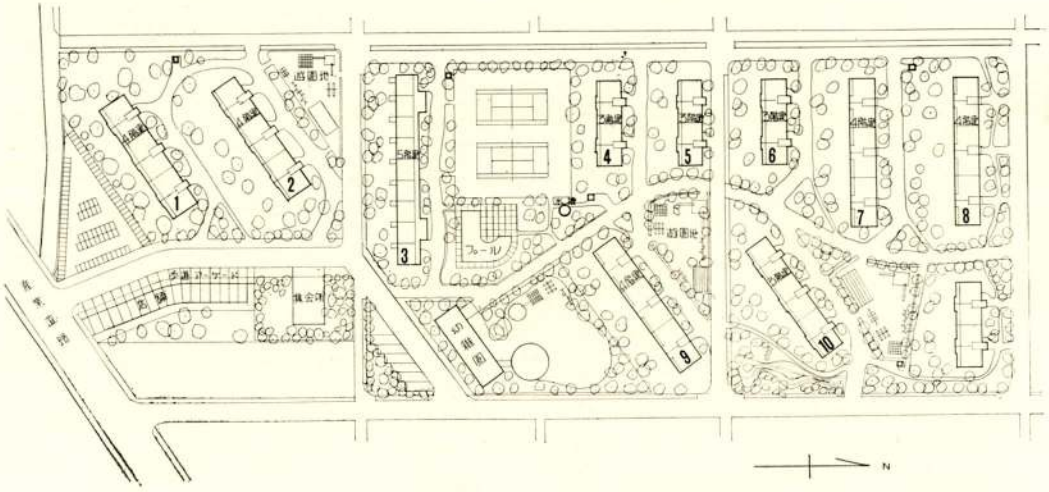
要するに着工以前の昔の繁つた湿地帯が，僅か一年足らずで立派な住宅街となり，住宅難の解決に協力し政策の一端を満たし，また地理的に辺鄙な環境の悪い地域の浄化となり，今後ますます発展することを望んで止みません。



1

電々公社高槻アパート

設　計　電々公社建築部新営課
施　工　大日本土木株式会社



現在は第1棟・第2棟が完成し，他は目下施工中。縮尺1/2400

所在地　大阪府高槻市大字郡家101

規　模　鉄筋コンクリート造4階建2棟

各階6戸

	M²
1棟	1425.49
1戸当面積	57.54

（階段室を含みバルコニーを含まない）

その他　ポンプ舎 5.17M²,

鉄筋コンクリート造 屋根波型スレート葺 1棟

工　期　昭和30年10月7日～31年8月6日

設計者としてのことば

昭和30年の初め約9800坪のこの敷地に公社職員アパート団地を建設することとなり，以来郊外住宅地として理想的なコミュニテイを建設するべく多くの配置計画が検討され，予算の関係で分割工事として進行しています。

現在の状態は1,2号棟が完成し，3号棟より8号棟までが工事中で，アパートは11号棟まで計画があり（総計237戸），その他店舗，集会場等も計画中ですが，全体計画については完成した際にくわしく報告させていただくこととし，ここでは1,2号棟のみについて報告します。

・平面計画について

公社のアパートの平面計画の基本方針（註1）に基いており，敷地の利用率を良くする為，1戸当りのスパンを7Mとしています。

・Detailについて

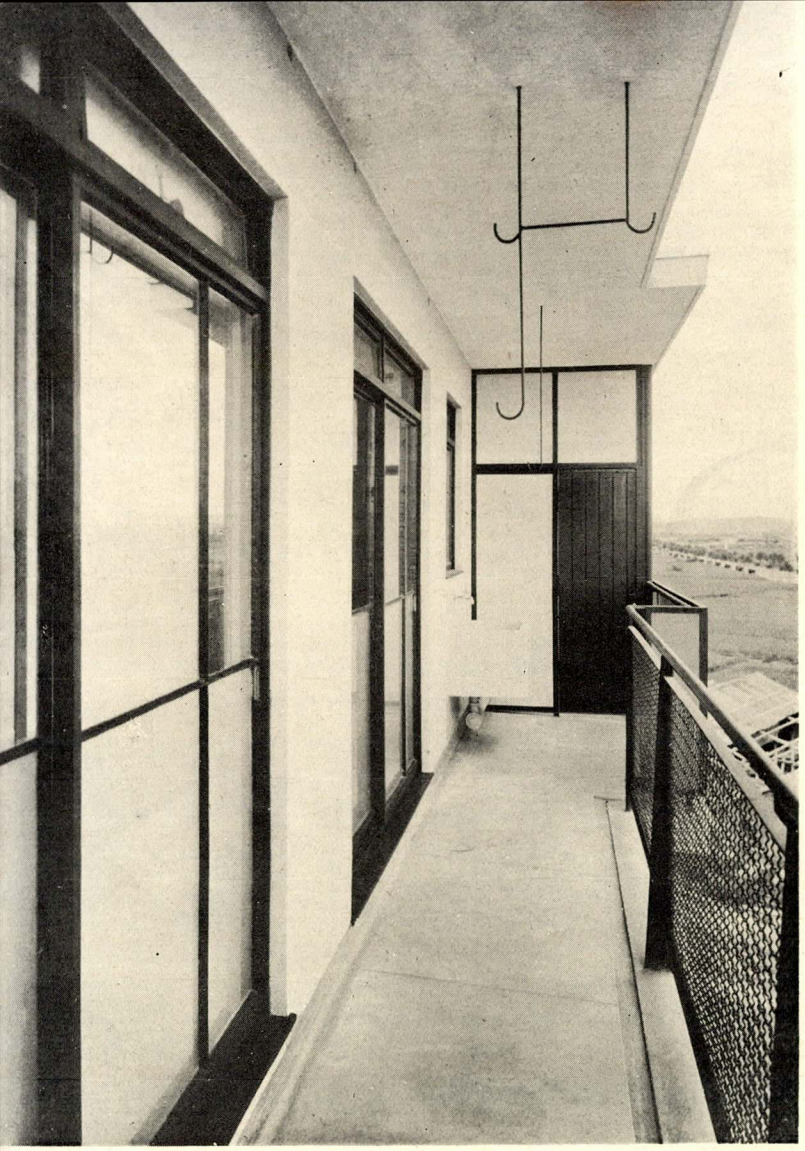
調査結果（註2）に基き種々改良されました。

1. 雨仕舞とエヤータイトを良くするため木製サツシユを止め簡易スチールサツシユを採用した。
2. 北側窓上部に雨仕舞の点から庇をつけた。
3. 避難用としてバルコニーの隣家との間にドアーを設けた。
4. 木造間仕切はクラツク防止と工期短縮のため乾式構造とした。等

設計上考慮したことは大略以上の通りですが，このアパートは入居以来日も浅く，設計上の意図がどのように居住者に受け入れられているかを今後の調査により確め再び報告したいと思います。

註1.　国際建築　1954年1月号参照
註2.　国際建築　1955年5月号〃〃
　　建築界　1955年11月号〃〃





3

主 要 仕 上

外部仕上

屋　上　防水モルタル塗

外　壁　モルタル塗着色セメント汁吹付シリコーン防水剤吹付

根　廻　モルタル塗シリコーン防水剤吹付

内部仕上

入口床　人造石研出及びフローリングボイル油拭

巾木　人造石研出及びラワンオイルペンキ塗

壁　モルタル塗合成樹脂塗料塗及びベニヤオイルペンキ塗

天井　色しつくい塗（4階，ハードテツクスオイルペンキ塗）

食事室　床　フローリング，ボイル油拭

巾木　ラワン　シリコーン刷毛塗

壁　色しつくい塗及びベニヤ下地オリエンタルクロス貼オイルペンキ塗

天井　色しつくい塗（4階ハードテツクスオイルペンキ塗）

台所　床　フローリング，ボイル油拭

巾木　ラワン　オイルペンキ塗

壁　モルタル合成樹脂塗料塗及びベニヤオイルペンキ塗

天井　モルタル塗合成樹脂塗料塗（4階，プラスターボード合成樹脂塗料塗）

寝室　床　畳及び板畳

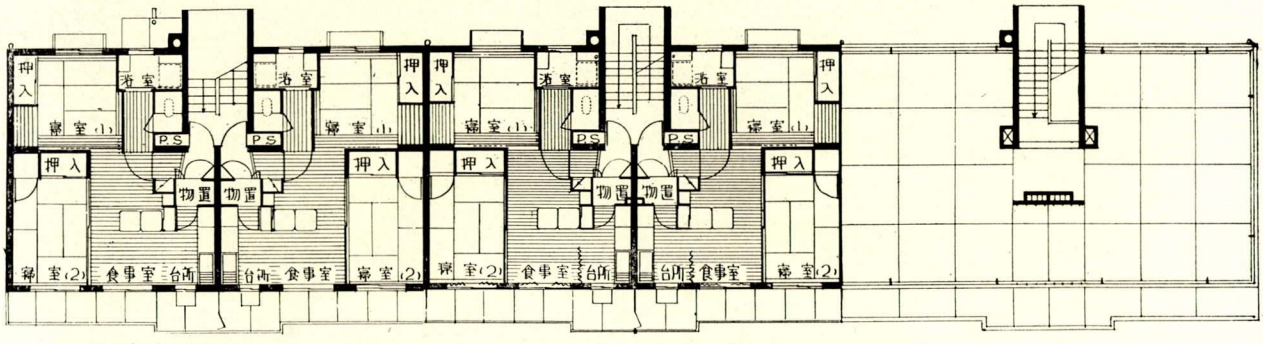
腰　和紙貼

壁　色しつくい塗及びベニヤ下地オリエンタルクロス貼オイルペンキ塗

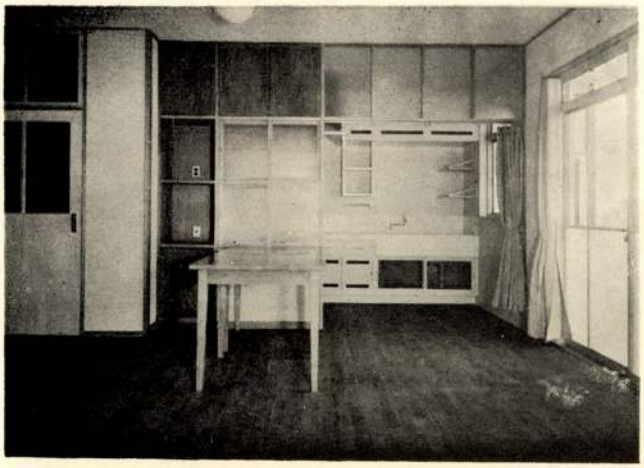
天井　色しつくい塗（4階ハードテツクスオイルペンキ塗）

電々公社高槻アパート

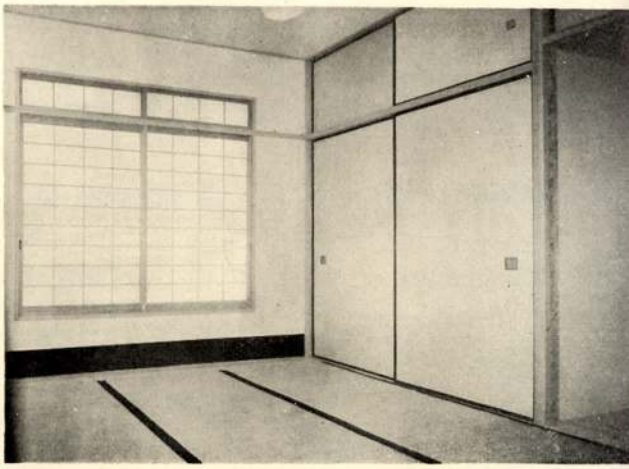
設計：電々公社建築部新営課　施工：大日本土木株式会社



1階平面　2～4階平面　屋階平面



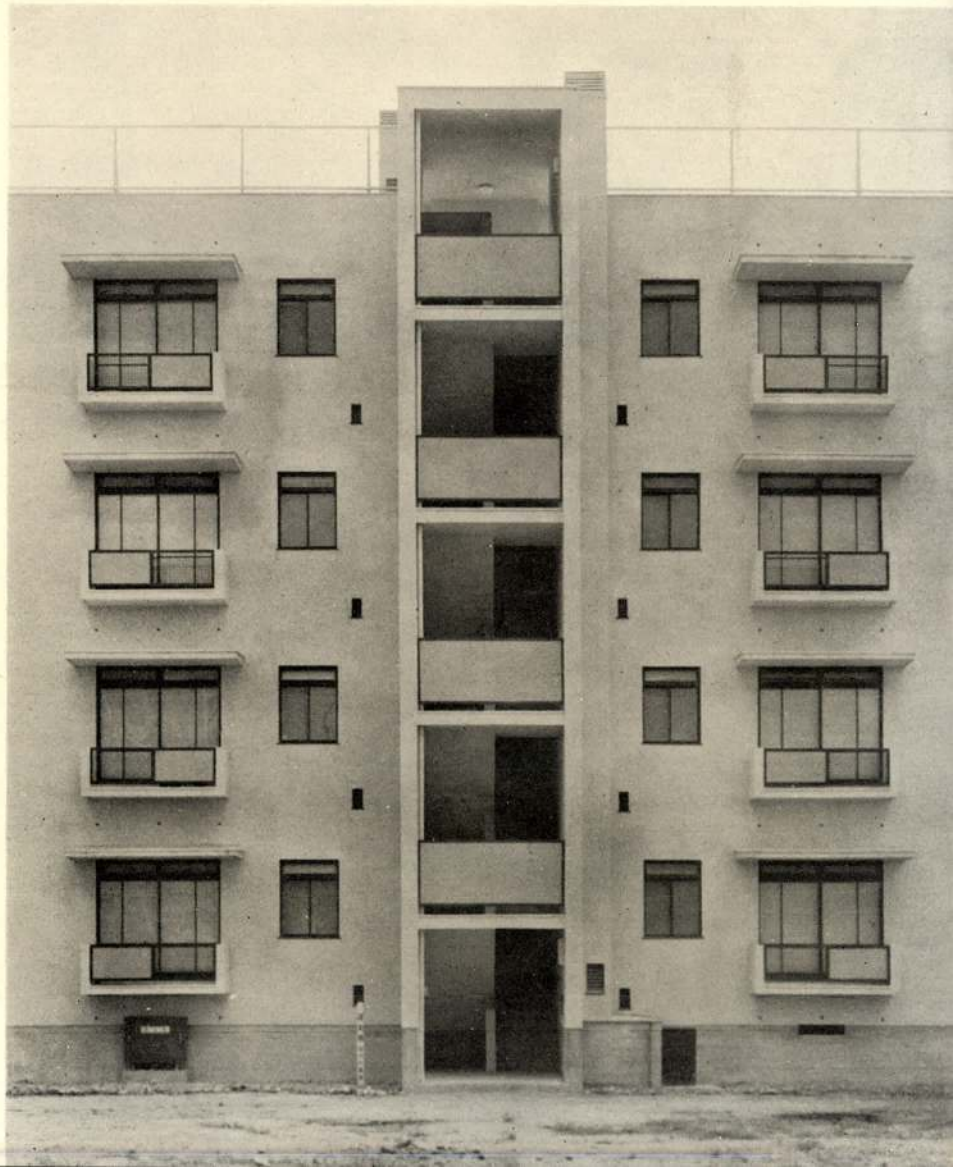
4



5

電々公社高槻アパート

1. 南面より望む
2. 第1棟南面詳細
3. バルコニー
4. 食事室・台所
5. 寝室
6. 第1棟北面詳細

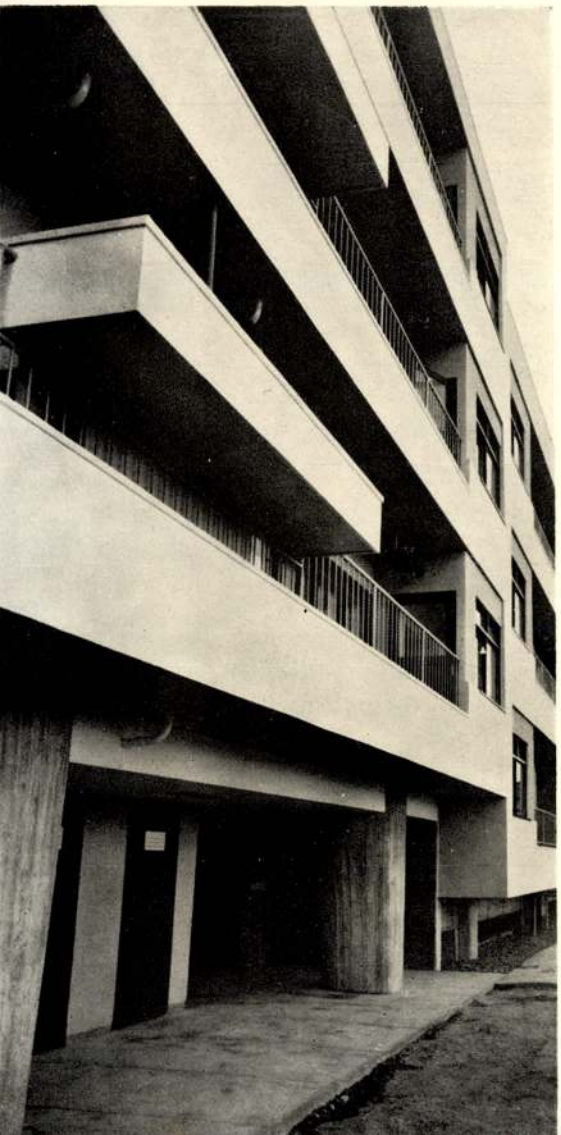


6

◀ 第1棟平面図



南面外観



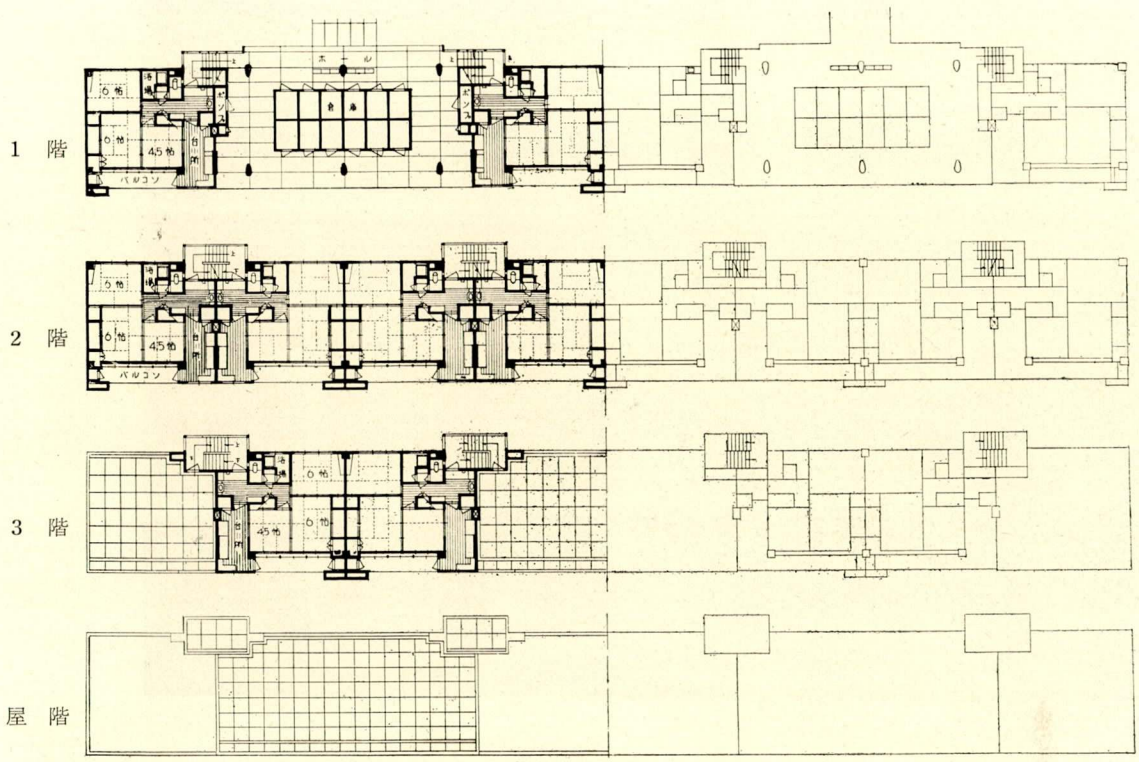
南面詳細

神戸銀行呉川町家族寮

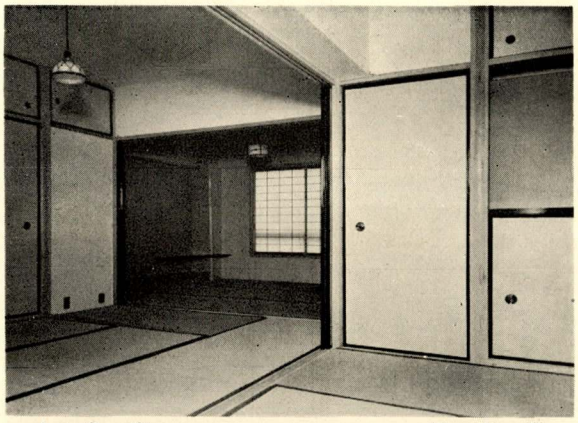
設計監理　吉村悟郎建築設計事務所

施　工　兵庫県住宅建設株式会社

所在地	芦屋市呉川町62番地	
構造	鉄筋コンクリート造3階建塔屋付	
建築面積		164.5 坪
	1階ホール	76.764坪
	1～3階	162.744坪
	塔屋	12.764坪
延面積		577.76 坪
1戸当床面積	住居専用部分	18.747坪
	階段室等1戸当り延面積	24 坪
工期	昭和31年4月～昭和31年11月	
外装	腰部・柱・梁型; コンクリート打放し	
	外壁; モルタル刷毛引アスニユーシン吹付	
	ホール独立柱; コンクリート打放し	
	パラペット・バルコニー笠石; 人造研出し	
	軒天井; モルタル塗色セメント吹付	
居室内装	壁; プラスターペンキ塗	
	天井; プラスターペンキ塗	
	玄関床; モルタル	
	巾木; 人造研出	



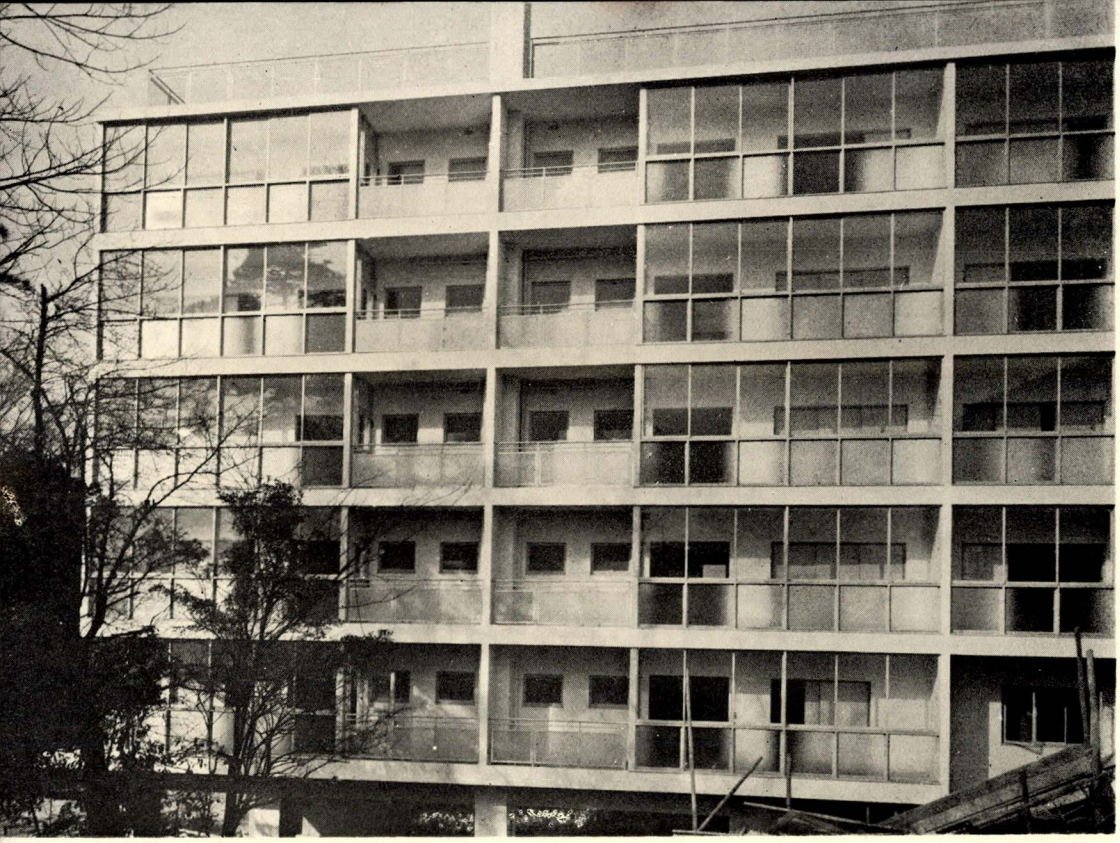
北　　面



上：室　内　　下：台　所







旭硝子高樹町アパート

設　計　一級建築士　梶　　元成

施　工　（株）信和工務所

所在地	東京都港区赤坂青山高樹町18番地
規模	鉄筋コンクリート造4階建
	（一部6階建）　（26世帯）
敷地の面積	1，214坪
建坪	133．478坪
延坪	610．349坪
仕上げ	（外装）大ガン吹付色アイボリイ
	（内装）プラスター仕上げ，台所，風呂，便所タイル仕上げ
工期	昭和28年8月～昭和29年1月（6カ月）

設計者のことば　　梶　元成

鉄筋コンクリート造4階建1戸当24.5坪程度の職員の家族持ちアパートの計画について相談を受けたが，敷地の高低差が約20尺余あり，全長約167尺のものを収める場合，どうしても雛段式になつた。

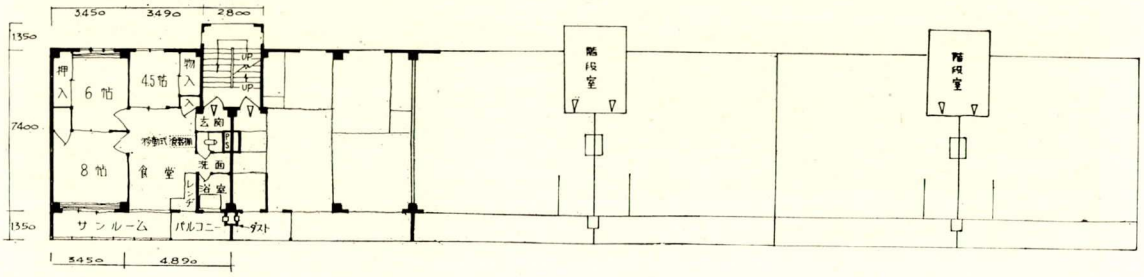
つぎに設計のポイントとしては，硝子面積を多くする要求があつたので，できるだけ各種の硝子を使用するように設計したが，要点としては，住いの安定感をもたせ，それに調和させるために1.2mのサンルームを南側に計画し，太陽光線を充分にとり入れるとともに，鉄筋コンクリートの換気には，ポツパー式換気方式を採用した。

ポツパー式換気が割合に安全性（子供が遊ぶ場合，下に品物を落すことが少い）に富み，合理的である点も特筆される。

台所と食堂を南側にとり，主婦の日常生活に惜みなく太陽光線を享受せしめ健康的であるようにした。また浴室も南側にとることによつて，乾燥および室温の点から日常生活上衛生的見地を一段と考慮したつもりである。

衛生配管はできるだけ外部露出式として，メンテナンスを容易にするよう設計した。

最後に，構造は長辺を壁構造式，短辺をラーメン（盤）構造にした。



ディーゼル博士記念苑の感想



写真：三川栄吉

文責　光安義光

この記念苑は山岡孫吉社長がルドルフ・ディーゼル博士の偉業を顕彰するためにドイツ聯邦共和国アウグスブルグ市ヴィッテルバッハー公園内に寄贈したもので，設計は坂倉準三氏である。

枯山水の庭園がドイツに造られて，四季を通じ異国の人々が日本庭園の佳さに接し得る機会ができたことは喜んでいいと思う。

庭園の敷地は44米×22米。四周を生垣をもつて囲み外界と断絶して，この雰囲気に融けこむように考えられている。

私が接した庭園はドイツへ贈る前に一時仮りにこしらえた記念苑であつて，その時の所感を綴つて見ようと思う。

記念苑であるために，ディーゼル博士の偉業を讃えるのが主目的であり，建設由来書碑，機械レリーフ，博士の胸像の石中に嵌込みなどがあるのは止むを得ないことであるけれど，それがために囲まれた庭園は幽邃な境地（初めの計画書に明記）からは程遠くなつていることである。

生垣は巾4尺高さ9尺（実際は5尺位であつてつまらないと思つた。）の予定であれば，この庭園は外部と完全に隔絶されて自己を一つに集中し得る特殊な雰囲気をかもすことが考えられる。

兵庫県猪名川のゴロタ石を敷つめた空川は末拡りの配石で川の流れを想像させて，清流からくる感情を大切にしようとしたか，三角形状の配石による構成であるか解らないが，構成から見ると敷松葉の全面積との釣合はそれほど良いようには思われない。空川のゴロタ石は敷松葉の地面よりの上りが強すぎて延段を歩く印象が弱くなつたと思われる。

敷松葉は芝生，苔の養生のために敷いてあるか，それが本来の意匠であるか解らない。敷松葉に松笠が程よく散布されているので——。

飛石，延段，敷石は玉砂利，平石，乱張りと変化に配慮がなされている。

普通，日本庭園の鑑賞は座による固定視覚であり，正面性が意識されている。（露地はあるがそれは連絡を旨としている。）この記念苑は明らかに視覚の移行によつて，視角内の石組の構成変化に意が用いられていると推考される。西洋風庭園は見透し線を意識することによつてその奥行きの深さを接する人々に感ぜしめるのではないかと思う。日本的であるこの庭園は見透し線の強い意識を頼らずに通路の彎曲によつて表現しようとしているようにとれる。

今眼の高さを立姿より座姿の位置にまで下げた時にある程度の奥行のある落着きと石組間の緊張を感ずるのであるが，歩行時の立姿に置いた眼の位置では前記程の佳さを発見できず平板に感ずるのは私だけだろうか？

空川の沿りに配られた岩は南から北へ流れる水（計画書にある）を思わせるように肌を合せてあるのは細かな心遣いであると考えられる。

維持費のかからぬ枯山水を選んだ（計画書）ことは成程と思わせるが，石以外の使用された材料は生き呼吸しているのであれば，そうは受取れないのではなかろうか。

私の接した庭園は仮縫いのようなものでしたが，ドイツへ贈られて，芝が根つき，石それぞれも土地に馴染みつけば，もつともつと佳い庭園になり，計画書のようになると期待します。

建築の眼・担当五十音順・足立孝・岡橋作太郎

40時間制

官庁の勤務時間は土曜日が半日だから44時間である。大きな会社でもそういうのが多いが，中小企業が主体のわれわれ同業は土曜日も日曜日もなく働らけ働らけ式が多いのではないか。

年中あくせくただなんとなくあれこれ日を送る習慣になると，おそろしいものでたまの日曜日の休みもぐうたらと寝てしまったり，あるいは遂に何となく落着かなくてイライラと一日をすませてしまうようになる。休日をうまくタンノウして recreate する弾力性を失ってしまった格こうである。そんなことで息の永いいい仕事をやりとげられるわけはないのだ。

そう思いながら実は私もぐうたら族の一人だ。他人様も多分そんなやり方だから自分一人を直してみても仕方がないとグチをこぼしてみるのだが，今年は是非とも土曜半どんでなく土曜日全休を決行してみたい。大いに働き且つはっきり休みを実行してみたい。同見の士はないものだろうか。

(SY)

南極と建築

南極の昭和基地も一応成功の段階に達し得てオレンヂ色の家屋が白一色の中に建てられていることは御同慶にたえない。南極には本論の地球年観測の機械を始め種々の機械が運ばれたであろうが，建築は130名の隊員を守る器械である。このことは都会の建築も同様であるが，極地であれば不良品の取変えもできず，一切の材料が生命に繋がる縄の如きものであって見れば，一層この感を再認識せざるを得ない。低温とブリザード風速80米，更に亦積雪にもたえなければならない。その他種々の条件がある様だが，特に人間の心理的問題の解決は建築の特性であり他の器械には無い本質である。人間は動物であるという判り切ったことも再認識した次第であるが，かかる種々のテストケースを経た建築界は一歩前進であり来るべき火星への建築の想像も眼のあたりに近づいた気持がする。いずれにしてもこれが関係者に対してパイオーヤとしての勇気に拍手を送り，更にその精華に満腔の謝意を表するものである。

(SD)



佐野正一・深尾実郎・陶浪貞彦・建築の眼

舞踏への勧誘

児童の遊戯は過剰エネルギーの発散だといったのはスペンサーだが，ビューラーは，それもあるだろうが，児童が疲労しても遊戯し，未開人が働けなくなる迄踊る例を挙げて身体的，精神的活動そのものからの快感を指摘し，更にこの機能の快感は作業そのものに伴うものだが作業に取掛る以前に起るのに創作の快感があり，共に人間活動の有力な動機であるといっている。

実際，一本の線をひくのに苦労している建築家の姿は金もうけや名誉欲だけからは説明出来まい。若くして既に割切っている人もあるだろうが，その人でも，生活の内のどこかでそれを満たしているのではなかろうか。

建築家大衆とでも名付くべき大部分の人は勿論，恵まれた人でも施主の無理解で自分のアイデアを実現する機会は限られていよう。毎日，機械的に図面をかかされている人，ハンコ押しや苦情に終始している人，計算機を廻し続けている人，職人の追い廻しに過す人等々，沈黙している人々にもそれぞれの役割に応じて有益で面白いアイデアがあるに違いない。それを簡単にスケッチにまとめて，所謂建築家をアッといわせたり，その奇想，珍案に笑い興じたりする金のかからぬ，気楽な場所があってもよいと思う。案外，精神衛生上必要なことなのではなかろうか。

(TK)



「最小限の住居」はどんな意味があるか

丹下研究室

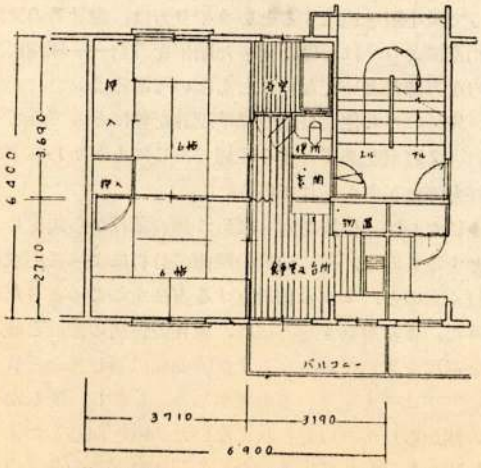
石橋内閣は，32年度の建設予定を50万戸と発表した。このうち自力建設30万戸をのぞいた残りの政府資金がはいるもののなかでは，これを規模の面からみて行くと，6坪の公営第2種から，公庫住宅の最大限としての30坪にいたるまで，非常に広範囲にばらついている。今日，政策的にとりあげられる場合の基準は，戸数であるが，この戸数のうちわけをみると，多様多岐にわたり，細かく分析して行かないかぎり，一体どれだけの質の住居が建設されているのか判断がつかない。政策的に50万戸をうち出すために重ねた無理算段は，これを規模の側からとらえ，その内容を吟味してはじめてその本質がつかめるであろう。私たちはその意味で大まかに戸数で表現される政策の内容をいつもマユにつばをつけて眺めねばならないはめに陥るのである。だから戸数はただちに実質的な内容を表現してないといえる。

次にこれらの住宅政策の一環として，政府資金と高利の民間資金の導入によって建設されている住宅公団のアパートについて考えてみよう。

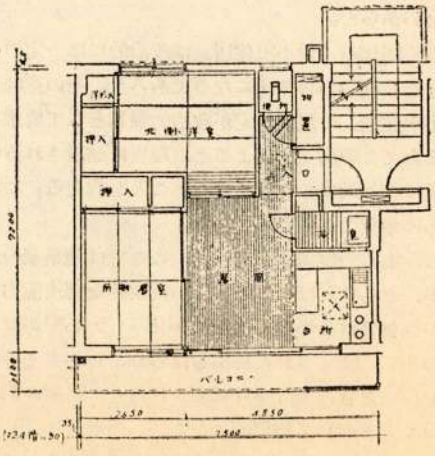
住宅公団が31年度に標準設計としてえらんだなかで4N—2DK—3と4N—2Dを比較してみる。前者は14.2坪，後者は18.1坪である。公団の符号によると2は2寝室，Dはダイニング，DKはダイニング・キッチンである。とすると，これらは寝室数に関してはともに2であって，その各々の広さも6帖でほぼ等しい。違うのは，前者がダイニング・キッチンとして食事空間を台所と連続したのに対して，後者は台所をアルコーブとしてとりあつかい，ダイニングにリビングの性格を若干持たせているというそれだけの違いである。ところがそれだけの違いに4坪も坪数において異るのは一体どういうわけか。プランを詳細にみると，収納空間，バルコニー，プライヴァシーの度合などで異った点にも気ずくが，それにしてもこの違いは大きすぎる。

おそらく，これはそれぞれ14坪，18坪という枠があらかじめ与えられ，それに応じて設計がすすめられたわけであろうが，設計者はいずれの場合にも2寝室をとることで満足している。これらは両方ともプランの組立て，いわばパターンはほぼ類似しているから，設備空間，共用部分など大差はないだろうから，おそらく18坪ではプランニングは楽であり，14坪では苦しかったに相違ない。

2寝室を確保したということは，設計の当初にこの入居者がほぼ2寝室を与えられることによって不便なく住みうるという予想を立てたはずである。それがたまたま設計をすすめる場合与えられた規模が異っていたためにこの結果がうみだされたのであろう。そしてこの規模は遠くは政策としての予算から，近くは家賃その他の経営条件から限定されたのであろうが，このプランはいずれも規模のちがいがあってもそれが包擁する生活の体系は



計画床面積　14.2坪　(56—4N—2DK—3)



計画床面積　18.1坪　(56—4N—2D)

類似しているといえよう。

これらから判断して，規模は，それを建築面積という風にいいかえると，建設費と直接的な関係をもっているが，その規模がふくみうる生活内容はあいまいにしか規制しないといえる。「最小限の住居」という問題をとく場合，規模を坪数として意識すると，おおよその見当はついてもそれがただちに具体的な内容規定には到らず，住居の質を正確に表現する手だてとしては不足していることがこれによって分かるであろう。住宅政策が戸数として論ぜられる場合，それが規模のおさえ方としては不確実であることを先にふれたが，規模が直接に内容を規制しないとすれば，戸数による表現はこれに輪をかけてあいまいになっていくのである。

▶私たちは，住居の設計をすすめていくなかで，これが国民の住生活とかかわり合う深さを考えずにはいられない。常に住宅問題としてあらわれてくる国民の住居の改善を設計の過程でいかにすすめるべきかを考えている。ところが私たちの周囲では住居の設計の方法にいくつもの立場があり，これらが明瞭に設計過程でとらえられその性格がときあかされないために，住宅問題の解決にもいろんな見方があらわれる。とくに設計方法との結びつきについて明らかにされていないようだ。「最小限の住居」をテコにすると，これらの方法のちがいがはっきりし，ひいては新しい方法が発見できるのではないだろうか。

その一つに政治主義とでも呼べるものがある。これまでもみてきたように，公営・公団・公庫等の住宅規模は政府予算の額により左右されるのだから，これらの規模と戸数を増加させるには，それを政治的に解決するよい方法はないというのである。たしかに根本的な解決としては住宅問題は政治の問題である。ところが，しばしばここから一歩もすすまない。とすれば，私たちが設計をすすめるなかではこの考えはあまり有効ではないのである。つまり政治家になる以外に私たちのすすむ方向をさし示さないからだ。

おそらく国民の「最小限住居」は政治的には一定の斗争目標となり建設の目やすになるであろう。その意味では「最小限住居」の規模決定が政治的課題として要求される。そしてこの考え方によると，現実に建設される住居の規模は相対的にしか決まらないことを教える。これはおそらく事実であろう。

しかし，もう一度考えてみると，ここでは建築家の設計活動が，ともすれば程度のひくい技術的な解決能力としてしか評価されないのではないかという心配がおこる。あらかじめ決定された枠にしばられ，しかもそのすべてにおいて悪質な設計条件におかれると，目前の困難さに出口をふさがれ，絶望的になる。

ここからうまれてくる創作活動はいちぢるしく自然主義的色彩を帯びるであろう。そしてかりにアパートの設計にたずさわっても，彼は住居の建設されて行く全体の構造のなかで，自分のいま属している位置を発見できない。ひたすら与えられた枠からふみはずすことなく，何ものも創造することなく，力をすりへらすのだ。

このような方法によると，住居の適正な規模あるいは最小限の規模は，相対的に外部の条件から決定されるのであって，内部の機能からは決定できないと考えるにいたる。設計するなかから，その規模の枠を突きやぶるだけの要因を発見できなくなってしまう。

一方，これと対立的に，最小限の住居は，住機能の分析とその組立てにより推定が可能であるとする方法がある。それは1929年，フランクフルト・アン・マインにおける CIAM の第2回会議，「生活最小限の住居」において表明された考え方といっていい。

機能主義による住居の設計方法が，この会議において全面的に採用され，表面におしだされた。住機能を生物学的・社会学的・心理学的……等の側面から分析したと称すこの方法は，たしかに私たちに住居を分析するうえでの多くの手がかりを与えてくれた。そして機能主義は内部の機能の絶対的な優先を主張し，その合理化された機能の集積が最終的な形態となるように考えたのである。これによると，何はともあれ，「最小限の住居」の規模は予定され決定されねばならないものとなる。いわば「最小限の住居」が絶対的に存在し，設計はそれへのアプローチと考えてよかった。

このような最小限ははたして存在するであろうか。その会議に提出されたプロポーズ・デザインを面積的に統計をとったものをみると，たとえば1ベッド当り6.5M² から 19.1M² というまちまちな結果となってあらわれている。

このちがいは，提出された各国の国土・歴史・経済的諸条件の差からあらわれたものだという説明もなされよう。とすれば，機能を分析し，これを集積することによって最小限を追求するというやり方は，設計者の認識の相違により，はなはだ異った結果をうむ——極端に主観的な方法だといえないこともないであろう。

先にのべた住宅公団の標準設計を例にとってみてもいい。2寝室を必要とする住居であるにもかかわらず，4坪もの差があらわれている。

▶私たちは，住居をもっぱら外側の条件から規定しようとするものと，逆に内側の機能の分析によって追求して行くものと，2ツの相対立する方法をここにとりだしてみた。この対立する方法は，現在の住居の設計と建設の全過程を通じてみられる2ツの側面に対して，それぞれにアプローチしているのであろう。しかし，それが一方の側からしかとらえられてないために，前述したような欠陥をあらわしている。むしろ問題は，この2ツの側面

が，設計過程でいかにからみ合い結びついているかを分析し，それをときほぐすことにあるのであろう。住居をただしく創造するにはこの道しかあり得ないし，「最小限の住居」もこの観点から光をあてることによってその実態が明らかにされるであろう。

▶私たちは最近アパートを設計する経験をもった。これまでのべて来た方法のもっている意味は，実は少しづつこの経験のなかで明らかにされて来たわけだが，「最小限の住居」についての私たちの考えも，やはりこれらの設計をすすめながらはっきりさせて来たのである。

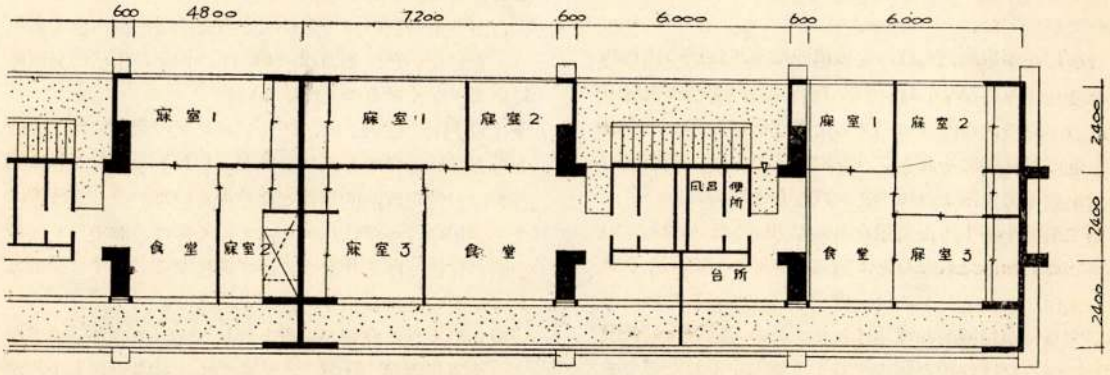
私たちがタッチしたアパートは，ある会社の社宅となるものである。これはまだ設計が完了していないが，その中間的な段階として，ここに2ツの案をあげてみた。**第一案**は，ほぼ4尺のグリッドの組み合わせから成立する田の字型プランの変形であり，**第二案**は，これを発展させ，坪数を圧縮している。

この設計をはじめた時，私たちはこれを，不特定多数を入居者とした場合の最小限の規模でしかも生活機能を充分に満しうるものにしたいと考えた。それと同時にこの生活の機能が現在とらえられるいわば固定的なものでなく，成長し発展していくものとして，少くともこのコンクリートのアパートが耐用年限の来るまで内部の生活に耐えて行くだけのものにしたいと思っていた。

私たちは機能主義による住居の設計が行き詰っているのではないか，とこの頃漠然と考えていた。というのは，戦後日本の小住宅のプランで機能的な分析をそのまま集積したものが，逆に生活を限定し，動きがとれなくなっていると思われたからであった。この機能主義の行き詰りに対して，ローエやジョンソンの作品にみられるような，住宅平面を動線によってではなく，それらすべてを含みかつ融合させたうえ，均質な空間に解消し，極度のフレキシビリティをもたせる方法があらわれ，日本的空間の発見と重り合って流行しはじめていた。日本の小住宅プランにこれがはっきりあらわれはじめたのは朝鮮戦争を契機としている。しかも，これをくわしくみるとこの前後で，その住宅の規模は増加する傾向のあることは指摘できよう。

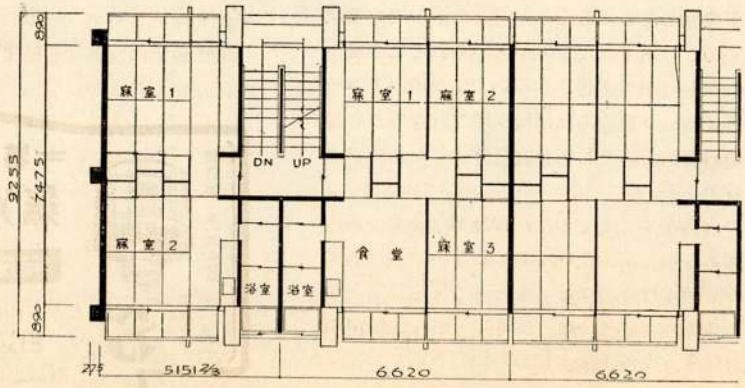
フレキシビリティからも，空間の流動し複合した使い方からいっても，これは空間を細かく限定するより有利な方法であったが，この方法は生活を機能的に満足させたうえに，更にいくばくかの空間が附加されないと成立しがたい。

しかし，これを無原則的に持ち込むと，かえって日本の住宅が封建社会以来持ちつづけた非合理的な部分の復活を許容してしまう。第一案はこれらの背景を微妙に反映しているように思われる。しかも予定の坪数をオーバ



計画床面積　C　16.09坪　　A　20.84坪　　B　18.47坪

上：第1案
右：第2案



計画床面積　B　12.47坪　　計画床面積　A　16.41坪

ーしていた。第二案は，坪数をしぼること，更には第一案のプラン上の疑問点，コアー部分のあつかいと，寝室の性格の不明瞭さを克服することを出発点にした。

第一案はグリッド上を田の字型に分割するやり方だが，このパターンは農家の原型とよく似ている。農家は大きいシェルターの内部が機能分化に応じて間仕切られていったので，それは室というより，間仕切りで空間的な連続は確保されている。このやり方はポスト・テンションのコンクリートによるシェルターを分割して行くうえで，私たちのプランの方法になっているが，第一案では農家が今日に到って陥っている矛盾，とくにプライバシーの稀薄さをそのままうけついでしまっている。

私たちは，一方このアパートの入居者が，どのような家族構成によってここに住むかを推定せねばならなかった。第一案は，グリッドに応じて規模が3つのタイプにわけられ，寝室数を変えて異った家族構成のものがそれぞれ入居できるのではないかと考えてみた。しかし現実の住居の規模配分は，家族構成とは殆ど関係しない。むしろ経済能力による階層的な配分によることがはっきりわかって来たのである。社宅ではその要求が職階制を通じてあらわれる。大家族が大規模のものにはいるのではなく，課長がはいり，係長がはいるという具合だ。機能主義をすなおに受け容れ，それによる最小限住居を提案することは，これだけの理由によってもねがい下げにする必要があった。

しかしながら私たちは，家族構成による住居の使われ方の変化はみのがすわけに行かない。このように入居のされ方が経済的な階層に基くことを明瞭に意識したうえで，更に具体的にそれをプランにつくりあげ，最小限の生活が確保できるように考えねばならないのだ。

第二案はそのような背景をもった提案だと考えている。ここでは，はっきりと3寝室とダイニング・キッチンを確保した。そしてこの室構成を完成させるため田の字型プランが積極的に採用された。この室構成を最低限満たし得るだけ坪数を減少するよう努力を重ねたのである。3寝室を明瞭にさせたのは，将来とも国民の住居においてこれが典型となるであろうと考えたからである。基本的には夫婦と，男子と女子の子供のそれぞれの室を与えることであり，更に予想されるいくつかのバリエーションについても，3寝室あれば最小限これをみたし得ると考えたからである。そして食寝分離するためにダイニング・キッチンと。

これだけの内容をふくませるには12坪では無理であろう。15坪でもあるいはあぶないかも知れない。18坪もあれば私たちの経験では充分にとることができる。第二案が16坪弱でおさまっているのは，おそらく寝室の規模をネット6帖(1)，4.5帖(2)までおしちぢめたためである。なる程この規模であれば幾分広い寝室を2ツにリビング的なものまでとれるかも知れないが，私たちはあくまで3寝室を典型としてとらえたために規模をおさえてさえこれだけのものを確保しようとしたのである。

最初に住宅公団の標準設計の例でみたように，3寝室ダイニング・キッチンと内容を規定してもそれに対応する規模は設計のやり方でどうにでもなる。更に予算が限られたとしても材料の使い方まとめ方で坪単価も大きく変動するであろう。こういった理由によっても，「最小限の住居」の基準を坪数で表現するのは不可能でありその意味もまた稀薄であることを指摘せねばならない。

▶私たちは，このアパートの設計の経験からして，「最小限の住居」は坪数で考えるのではなく，むしろその内容を適確に表現する方法によるべきだと考える。それは現在では寝室数とダイニングで質的に表示される。そしてその個々の内容については寸法上使用上から科学的に決定されて行けばあるいはこれ以下では生活出来ない最小限がみつかるかも知れない。これの表示は，つまり3—DKということになる。

しかし3—DKをというのは，現在の情勢下におけるあくまでも一つの提案である。これが金科玉条にはなり得ない。たとえば，いかに努力しても14坪しか与えられない場合には，あきらかに寝室を一つあきらめねばならないであろう。この規模に対しては2—DKが存在することになる。しかしながらこの2—DKはあくまで3—DKにむかう全系列の一つとしてとらえられるべきであろう。としないと，この2—DKは，内部の生活の発展に対応できなくなるにちがいない。

▶「最小限の住居」は，プランニングの過程では，実はとらえ難いものかも知れないが，しかしながらこれは明らかに一つの政治的課題となり得るのだ。そして政策にまで住居の設計がはねかえって行くには，おそらく「最小限の住居」はそれをうごかす鍵になる。とすれば敢て3—DKをこそ押し出すべきだと考える。

現在のように政策が戸数と坪数で云々されるのでなく，全不足数が ΣnDK で表現され，建設戸数もそれがnDKという内容の総和に置きかえられることによって，私たちははじめて，日本の住宅を質的に高め，設計が具体的に政治に反映する結果を知り得るいとぐちとなるのではないだろうか。

（文責 磯崎 新）

＝特許＝
氣光式通風器 製造販売
南向式レヂスター
特許第二五一三六号
カタログ進呈
大阪市西区江戸堀上通1の5
田辺工業株式会社
電話土佐堀㊹7437—9

都市の住宅配分の問題

川名吉衛門

▶行政長官の施政方針の中にでも出てきそうな大変むづかしい題を頂戴しましたが，勝手にそれらしき内容をもつものの中から２つの問題を取り出してみたいと思います。

１つは都市における住宅地をどの様に配置すべきかということであり，他の１つは都市の住宅はどの様な規模のものをどの程度に配分供給すべきかということです。しかしこの２つについて，ここにその解答を出そうというのではなく，単に問題を記すというに過ぎないのです。この点御了承願いたいと存じます。しかし，同時にこの２つの問題に対する解決については強力な措置の講ぜられんことを祈ってやみません。

職場と住宅地

▶都市において，住宅地を何処におくかということを考える場合，環境その他の問題も重要ではありますが，職場と住宅地との関係位置ということが，もっと大切な問題ではないでしょうか。一応通勤可能ということを前提として，その範囲において環境その他の問題が考えられて然るべきだと考えます。如何に環境その他の条件がよくても，毎日の通勤に疲れ切ってしまうというのでは，都市における生活活動は決して円滑にはすべっていかないことでしょう。

一口に通勤といってもいろいろであって，自家用車で通う人もあり，週に２，３回も適当な時間に出ればよいという人もあるでしょうが，大都市の大部分の人にとっては，とに角一つの大きな負担であるといえましょう。何とか楽に通いたいとの願いが先に立つものと思います。そうするとまづ職場が何処にあるかということと，それに対する通勤条件がどうなっているかということが問題になって来ます。

▶さて，職場ですが，大都市においては大きく分けると，業務地と生産地ということになりましょう。阪神地方で考えるとするならば，大阪市や神戸市の所謂都心部に業務が構成されています。生産地としては，堺市から神戸市にかけての臨海工業地域，神崎川沿岸の工業地域，更に大阪市東部地区，その他周辺部にある工業地域等が挙げられることでしょう。

これらの業務地や生産地に対応して夫々適当な通勤条件をもつ住宅地が考慮されてほしいものです。この業務地と生産地，それに対応する住宅地の配分の問題は，都市における土地利用計画の根幹をなすものであります。当然，各都市の都市計画において検討されているべき問題なのですが，大都市地域における場合，果たして如何でしょうか。先般やっと阪神各都市の都市計画用途地域団をつなぎ合せてみたのですが，再検討の要がある様に思われてなりません。こんな連坦地域において一つになった用途地域図がないのからしておかしいのですが。もっともこれは私の勉強不足で，もう何処かにちゃんと出来ているのかも知れません。それはともあれ，大都市地域における広域にわたっての土地利用計画が検討され，この地域が混乱に陥ることなく円滑に発展していくための指針が示されるということは，重要な課題であります。もっとも現行の用途地域制では，それだけの指導性が期待できないのは残念なことです。現況にひきづられながら包括的な地域指定が行われ，しかも指定をしただけで，その地域の発展に必要な施設については全くかえりみられていないといってもよい様な状態では大きな望みはかけられないという他ありません。地域制に対する根本的な再検討が望まれる次第ですが，地域指定後の後始末が全く考えられていないことにも問題があります。たとえば住居専用地区の指定をしたとして，そこが住宅地として立派に発展していくためには，各種の施設を必要とします。その計画さえたたないのが現状ですが，さてどんな住宅が建つのやら，人口密度がどの位になるのか判らないのでは計画のたて様もないわけです。この様な場合密度計画が伴うことが大切なのです。我が国ではまだこんな点はとり入れられていません。発展に対する指導性のないことは地域制の欠陥のみに帰するわけにもいかない様ですが，ともかく地域指定に続いての措置に欠けていることは大きな問題です。

▶この様に残念ながら用途地域制には強力な指導性が望まれないのが現状ですが，住宅の集団的な建設とか，分譲住宅地の造成とかは，住宅地の構成には大きな力をもっています。現実に或る地域にまとまって住宅が建っていくのですから，地図に色が塗られたというだけのものではありません。戦後の住宅難解決の為に公営住宅が集団的に建設せられ，又最近は住宅公団の手によってかなり大規模な住宅建設が進められています。こうした集団的な住宅建設は，単にそれだけの開発にとどまらず，その附近地の住宅地化をも急速に進めていくものです。特に郊外地の発展には大きな力をもつものといえます。その場合必要な種々の施設は住宅の建設とともに計画されていくのですが，時には困難を伴うこともあります。施設不足のまま開発が進められると住宅地としての必要条件を欠き，不満足な結果をもたらすこともあります。折角立派なアパート地区が建設せられたのにそれにすぐ隣接して，バラックの小店舗群がひしめき合って建ち並んでいる状況は全く情ない次第です。

しかし，それにもまして問題が残ることは，この様な住宅建設が土地利用計画上望ましい位置であるかどうかということと，密度計画に合致した様に建てられているかどうかということです。又前記の様にアパート地区が構成せられたのに接して木造の小売商店街や，木造住宅群が建ち並んでしまうことも問題となることでしょう。現実に市街地の発展に大きな力をもつものだけに，集団住宅の建設に当っては，その敷地選定には愼重であってほしいものです。

▶話がだんだんそれていった様ですが，住宅建設にあたってその居住者の職場のことが検討されていたでしょうか。住宅不足の現在建てばともかく入り手があるというのでは全く困まったことです。とはいえ，何処かの職場を対象として住宅地を決定しろというのではありません。職場の位置により，その業種により，職種により，又その人の収入により，住宅地に対する希望には差異があることは当然です。しかし，或る業務地なり生産地なりの全体を対象として考えると，住宅地に対する何等かの条件が浮んで来る様に思われます。この様な面が土地利用計画上充分に検討されて，住宅地の密度計画も進められているということが望まれます。

大都市といえどもその発展は個々の建築物の集積であります。そしてその個々の建築物は，所有者なり，使用者なりの求めに応じて敷地が求められ，その敷地に建物をはめ込んだものが大部分であるといってもよい位です。

この様な個々の集積でもそれが成団をなしてくると夫々特色ある地域を構成してきます。こうして出来上ってくる地域が相接し，相重なり合って，大都市を形成していくのですから，矛盾も混乱も生ずるのは当然であるといえましょう。こうした発展に対して集団住宅の建設は大きな役割を果たすものといえます。それが大都市の発展に対して指導的役割を果たすものであればどんなによいことでしょう。そうあってほしいと願う次第です。

▶大都市の住宅地計画については，既に本誌の1956年7月号に中沢誠一郎博士が，都心団地成立の史的根拠とその性格の中で詳論しておられるのでここに繰り返えす迄もないことですが，すこし住宅地開発のあとをふりかえってみたいと思います。

都市の過大膨脹は産業革命以来のことで，わが国では明治末期から大正初期にかけて急速に進展しました。封建的な旧都市の周辺に工場が建設せられ，それに伴ってその附近地に工場労仂者の為の住宅が建ち，市街地が出来るにつれて，貧弱な路線商店街が無秩序に発生して場末町が出来上ったのですが，全く個々の集積に過ぎませんでした。時には必要に迫まられて，投機も大いにてつだって，低湿地を簡単に埋立てて木造住宅がはめ込まれてしまいました。どんなに無秩序な膨脹であっても，1つの集団が出来てしまえば，小学校その他の公共施設の要求が生まれ，道路その他の改造の希望が出てきます。ぎっしりつまった処で敷地を四苦八苦しながらさがし求めて公共施設がどうにか建てられてきました。自動車その他の交通機関の発達に伴って，狭まい道路の拡幅が大きな反対にぶつかりながらも進められています。これが都市膨脹の第1段階でした。大阪旧三郷の周辺部が丁度これに相当します。

▶この様にして醜悪な場末町にとり囲まれてしまった，旧三郷の中の住宅は全く息苦しいものとなってきました。それとともに企業の高度の資本化が進み，住宅が職場から分離し始めます。その場合の住宅の行く先は，交通機関の許す範囲にある自然環境の良い地区でありました。まづ，帝塚山一帯の住宅地化が進み，更に郊外電車の発達に伴って，市域をとび越えて，豊中，芦屋方面に住宅地が構成され始めました。その頃には神戸市の中心部からも住宅の逃避が始まり，阪神間における電鉄会社の沿線開発政策と相俟って，阪神間の近陵地一帯は阪神両都市に対する寝室都市化してきました。

▶旧市内から住宅が郊外の環境のよい所へと逃避するとともに，旧市内は業務中心地として漸次形態を変えてきました。この傾向は戦後更に1段と強く進んで来ました。一方旧三郷の周辺部に構成された場末町では，年数の経過とともに住宅は老朽化し，それが家内工場乃至小規模工場と混在して不良環境地区を構成しました。この様な地区は住宅地として不適当であるばかりでなく，工場の発展も出来ないことになり，発展していく工場はここを離れて郊外へと移り，小規模なものだけが残されてきました。こうして荒廃地域の構成が進んだのです。

▶さて，郊外に発生した住宅地と工場地とは，共に夫々それらが核となって膨脹を始め，順次これらが接続するに至りました。今日では堺市から大阪市，布施市，守口市，尼崎市，西宮市，芦屋市，神戸市とその市街地が全く相接続するに迄到りました。この様な自然膨脹の経過をたどった市街地の接続である以上，矛盾や混乱の存在は当然であるといえます。

しかしながら，業務地と生産地とは自然の発展経過をたどってはいますが，夫々の地域を構成しております。現在においてはこれらの地域を矛盾があるからといって変更することは到底出来得ないことであります。一応これらを前提として，そのもつ混乱を是正しながら，夫々に対応する住宅地の構成を検討してみなければなりません。まづ所謂都心部に構成された業務地を対称としてその住宅地を考えてみましょう。大阪市の東区の人口構成をみると女100に対し，男135.1という指数が現われています（昭和30年国調）。明らかにこれは普通世帯以外のものが相当に入っていると考えねばなりません。試みに東区で町別に男女比をとってみますと，これが200，300を超える処が出て来ます。これは卸売商店がその1部

にもっていた住宅が，その用途を変えて，店員の宿舎となってしまっているものがかなりふえたことによるものと考えられます。事実年令階級別には東区全体で15才～24才の男子が特に多く全体の約1/4を占める状態にあります。この様な点からみれば，この地域では普通の世帯は減少しているとみられます。一般の住宅（併用住宅も）はなくなるか，他の用途に変更して，それに代って事務所，銀行等の業務専用建物の占める地区は漸次広くなっています。この様な地域にとり残された一般住宅はまことにあわれなものといえましょう。需要の関係から当然日常生活必需品の購入にも不便を感ずるでしょうし，その他の住宅地に必要な諸施設は不足勝ちとなります。幼い児童は1日の自動車交通量5万台といわれる御堂筋を毎日横断しなければならないし，遊び場は全くなく，道路にもうっかり出られないという状態です。住宅地としての必要条件は全くなくなりつつあるといえます。

▶この様な地域に勤務する人達は何処に居住しているのでしょうか。東区の昼間就業人口は，155,852人にのぼります（昭和30年国調）。そのうち東区内に居住する者は僅かに26,484人（17.0%）に過ぎません。市内の各区から約35.3%，市外から約47.7%の人が流入しています。そしてその居住地の範囲は極めて広く殆ど近畿全域にわたっています。

これは東区全体に対する数値です。前記の様な業務専用地区化しつつある地区では更に極端な数値となっていることでしょう。工業専用地区で住宅の建設を禁止している如く，この業務専用地区でも住宅の禁止ということが考えられねばならないでしょう。ただその場合，この地区から逃げ出しきれないでやむを得ず居住する人達のあることを忘れてはなりません。しかし，これらの人がこの地区に分散していたのでは到底その日常生活面における不便を救う方法はありません。業務専用地区を考慮すると同時に，適当な住宅地を構成していくことが必要であります。このことは都心部における住宅地構成という重要な課題として検討されねばなりません。この様なことから業務地に対しては専用地区を考えると同時に都心住宅地の構成を考慮し，更に郊外住宅地の開発を検討するということが必要となります。この場合の都心住宅地は，前記の様な都心部にとり残された人々のみを対象とするだけのものではありません。都心業務地に職場をもつ人々のうちには，ここにいわばアパートメント・ホテルとでもいうべき住宅をもつことを考えている人もあることを考える必要があります。

▶さて，生産職場についてはどうでしょうか。大工場の立地している地区においては，労務者の為の給与住宅の配慮もあるのですが，工場地と住宅地とではその要求する条件が相反するものであり，両者の要求を考慮に入れるとある程度分離して配置せざるを得ません。ところが既成市街地は前記の如き無秩序な配置を遂げています。適当な近さにおいて住宅地を構成することが苦るしくなっています。この事は臨海工業地域において特に甚だしいといえます。工場から離れた地区に住宅地を求めようとすると，交通系統の配置が殆ど利用出来ない状態にあります。阪神地区の軌道，鉄道は京阪神を結ぶ方向には極めて密に配されていますが，それらと交叉する方向への交通は殆どないといってもよい状態であります。これまでの都市交通においては，この様な局地的な交通に対する考慮が殆ど払われていなかったといえます。こんな状態ですので住宅を求めるとすれば工場の近くにある住宅には不適当な地区か，さもなくば，通勤に不便な場所が選ばれるという結果を招来することとなります。ここでは，工業専用地区の整備を進めるとともに住宅適地への交通機関の配置ということが重要な課題となってきます。その場合工業地域と住宅地との間に既成市街地が存在し，しかもそれが相当に広い幅をもっているということがさらに問題の解決を苦しいものにすることでしょう。時にはこの既成市街地の改造ということが考えられなければならないでしょう。殊にこれらの地区が荒廃地化している場合にはこの問題が第1に取り上げられなければなりません。

▶なお工業地域に対応すべき住宅地の計画について今後その検討を必要とするものに港湾整備計画に伴って大阪西部一帯の開発が進む場合に，これらの地域に対する住宅地構成の問題があります。ここでは用地の問題，交通の問題（殊に橋梁のない地区が可成り広範であることは海運上は便利であっても，局地交通には円盤となります。）の他に地盤の問題が加わってきます。まづ用地の問題において工業地域にとり囲まれた住宅地の構成ということに第1の難問があります。しかも地盤問題から高層化には大きな支障が生ずることでしょう。中層以下の住宅を計画しなければならないとすれば，用地不足が重要な問題となります。それに対して，他地区に住宅地を求めるとすれば，大阪の業務地を飛び越えていかねばならないことになり，交通問題が大きく取り上げられねばならないことになります。港湾整備計画は後背地におけるこの様な問題に対する整備計画を伴うべきであります。

▶しかし，これにも増してその解決に骨のおれるのは中小企業地であります。殊に前記の都市発展の経過にも記した様な荒廃地区，或はそれ程でなくともその傾向の窺える地区では，職場と住宅との混在が一般であり，それも多くの場合住宅は職場に圧倒され，すべての面において職場の拡充の方が先行していく傾向をもちます。しかもこの様な地区では住宅を職場から引き離して別の地区に住宅地を構成するということが困難である場合が多い

のです。

しかしこの地区はいわば不安定な性格をもつ地区であり，自然崩壊するままに放置するのではなく，漸次改造に導くことが大切な問題であります。むしろ積極的な再開発計画が俟たれている地区であるといえましょう。勿論生産地域としての整備計画と，住宅地としての整備計画とが充分に検討されねばなりませんが，ここでは2種の地域に完全に分けることは困難でむしろその1部に整備された生産地域をもつ住宅地の構成とでもいう形態が考えられます。

▶以上，業務職場と生産職場とに対して考えるべき住宅地構成について2，3の問題を記しましたが，大都市地域においては，同時に全域にわたっての土地利用計画を再検討しなければなりません。各市が夫々独自の立場で計画を進めてきましたが，市街地の発展はまづ自然膨脹といってもよい経過をたどって全く接続してしまいました。再検討の必要なことは当然であります。阪神地域に対する土地利用計画の樹立はまさに焦眉の問題であるといえます。しかも，交通機関の発達は急速に進んでおります。港湾整備の問題，航空港整備の問題，所謂弾丸道路の問題，それらと都心との連絡交通整備の問題等，検討の必要に迫まられている問題が次々に控えています。これらは何れも土地利用計画の検討に際しての重要な要素となるとともに基本的な前提条件となってきます。住宅地開発といえども決して安易に進められるべきものではないといえましょう。だんだん話が大変大きな問題の方に流れてしまいました。ここらで話題を転じて，住宅規模の配分問題に移りたいと思います。

住宅の規模

▶住宅の規模は，そこに住む世帯の家族構成によって，左右されるものであることは当然でしょうが，これを都市における住宅供給という立場から考えてみたいと思います。住宅には持家，借家，給与住宅の別があるわけですが，家族構成を基礎において計画されるのは，まづ持家の場合に限られるといえるのではないでしょうか。借家や給与住宅では一般的と考えられる家族構成を一応の対象として考えて計画されてはいるのでしょうが，都市生活者の家族構成は決して一様のものではありません。この点から考えれば都市の住宅供給における住宅規模の配分ということは重要な課題となってきます。

▶この意味において都市生活者の家族構成を考えるに際して，欧米の諸都市では次の様な考え方にたっての分析が試みられています。

1. まづ結婚によって新らしい住宅需要が生まれる。その後の数年間は子供の出生によって家族数は増加する。しかし，この期間は一般にはまだ職業的にも生活的にも安定したものとは限らない。この様な期間は大体6年位と考えられる。
2. 子供の出生が一応終って，家族数は大体固定してくる。同時に職業的にも一応落着いてくる。しかし子供の成長に伴って，家族の各員の個人生活の面から部屋に対する要求が強まってくる。この期間は大体18年位とみられる。
3. 子供は結婚によって新らしい世帯を構成して，別に住宅の需要が生まれる。一方元の世帯の家族数は減少していく。こうして順次家族数の減少していく期間は大体6年位と考えられる。
4. 再び2人家族の時期が来る。この期間は人間の寿命の延長によってかなり延期されてきた。この点老人住宅の問題は重要な課題となってきた。

▶この様な4つの期間が順次繰り返えされていくのであり，夫々の期間における住宅に対する要求は異なったものであってみれば，住宅供給は当然これに応じた考えを導入して来るべきであるといえましょう。この4期のうちの第2期は期間的にも長いのですが，住宅計画の面でも他の期と違った要求が強く出てきます。即ち，家族の団らん生活とともに家族の各員の個人生活という面から個室に対する要求が強くなり，住宅計画の上ではこの点が充分検討されねばなりません。この場合住規模という面に室数ということが重要な比率を示めしているといえましょう。

▶さて，都市における住宅供給という立場からは，この各期に対応すべき住宅を夫々の期の世帯数に応じて供給するということが考えられなければなりません。従って，各期に属する世帯数を実際に知ることが大切であり，又各期に対応すべき住宅計画が検討される必要があります。しかし，この為の調査は決して容易なことではありません。でも，こうした考え方に立っての供給計画は是非ともたてるべきものと考えます。その場合，最も簡単には家族数による分類ということが考えられます。即ち家族数に応じて夫々適当な室数を考え，必要な室数をもった住宅を家族数の比率に応じて配分するという方法であります。この様な家族数と所要室数との関係から，住宅種別の必要戸数を推計した1例に Greater London Plan 1944の London の中心部からの100万人分散計画に際しての住宅供給計画があります。家族数に応じて適宜定数を配分していますが，同じ家族数に対しても寝室数は2種類考えて配分しています。

▶都市における室数別の住宅戸数の配分ということは非常に重要な問題と思いますが，ここで私は古い大阪市の統計資料を思い出します。それは昭和6～7年に当時の旧市域周辺部に密集住宅地が発生して住宅事情が悪化してきたので調査をしているのですが，この資料の中に建築年度別に室数別の住宅戸数が示されています。これによると，こんな密集地を中心とした処ですが，その借家の室数が昭和初年頃の建築のものは4室，5室が中心になっています。4室住宅が過半数を占め，これに5室住宅を加えると大体8割位の高率を示しています。単に室数のみによる検討は危険ですが，この当時の建築の中心が4，5室住宅にあったということは充分留意すべきことであります。現在の住宅供給においては，住宅規模別の配分計画の樹立が重要な課題であり，その解決への努力が望まれます。

（筆者　大阪市大理工学部助教授）

住宅と生活意識

牛田尹久子

Ⅰ はじめに

住居の研究が，人間生活と住居とのからみ合いについて問題を知り，どういう生活を行えば良いだろうか，近代家族社会における住居とはどうあるべきか等を考えると同時に，一体それらを発展させて行く力，或は障害は何であろうかという，住宅と居住者との対応と結合関係の中に生じている矛盾をも又明らかにしなければならない。この様な矛盾点を，より良き明日の住宅の設計計画にはね返すと共に，一方住まい方や，住生活水準の向上をはかるには住い方や住居観形成の法則性を見出し，住生活改善の為の方法をも打出さなくてはならない。

我々はこの様な問題意識をもって過去の調査に於て都市と農村住宅の研究を押し進めて来たが，その中から「住宅の型が居住者の住居観を変えさせ，ひいては生活意識をも規定する要因となっている」という事を見出した。が又半面農村の生活改善や住生活水準向上の「癌」になっている問題が農民自身の考え方や，意識にあり，これを改善させる為の仇きかけが重要である事も発見した。農村の住生活改善の問題は多くの生活改善の為に努力をしている人々によっても指摘されている。

従って，住宅の型と生活意識の関連性，法則性等について一応明らかになった事について述べたいと思う。一口に住宅の型といっても上は大邸宅から，下は労仂者長屋，細民住宅に至るまで多種多様であり，住宅に対応してそれぞれ居住者の階層や生活程度も異るし，又住宅地の性格や住居形式によっても左右される。[註イ]

一方，我々の生活意識も様々な要素によって形成され規制される。「生活意識」とは川島武宣氏[註ロ]は，『日常生活の社会行動を動機づけ又これに伴うところの考え方（信念や価値の体系，情緒的反応の型）を指す』と指摘されている。この様な生活意識は日本の歴史性，社会性の中で日本民族特有の伝統的な意識として，少くとも終戦までは日本の社会構造たる第1に協同体関係，第2に身分階層構造の中で築き上げられて来た。そして多かれ少かれ，諸々の封建的な関係（即ち，封建的小作関係，封建的家父長制家族関係，家族制度的労仂）によって規定されていた。この事はルースベネデクトも厳しく批判している。[註ハ]しかし敗戦による社会の変化，民主主義思想の普及，民法改正等により我々日本人の生活を大きく揺り動かし，新しい生活のモラルを築かねばならなくなった。生活意識はこの様な歴史性，社会性に加え，マスコミュニケーションの影響によっても変化し，又，社会階層や地方性によってもそれぞれ異っている。従って生活意識はこれ等多くのからみ合いの中で更新変化して行くものであるが，その一要因として住宅型との対応があると考える。即ち生活意識の変化に住宅の型や形式が大きい役割を持ち，いいかえれば住宅の型や住い方を発展させて行く要因として生活意識があるといえる。

この様な観点から，1. RC アパート，2. 老朽危険住宅 3. 農村住宅についてそれぞれ異った意識を分類して居住者の階層による生活意識の差異等をのべる。

註イ　西山卯三「住宅階層」，「住宅」1956.7. P 26
註ロ　川島武宣著「日本の社会と生活意識」　P 179
註ハ　ルースベネデクト「菊と刀」

Ⅱ 住宅型と生活意識の諸型

1. RC アパートの場合

戦後に誕生した新しい型の住宅として RC アパートがある。これ等の入居者調査の結果から，一般的な傾向としては居住者の住居観は前住住宅の支配から解放されると共に住宅形式及び住宅の持つ諸条件に大きく影響をうけて変化し，過去の生活習慣や住様式の種々の矛盾を感じつつも住戸型に対応した生活様式を生み出しつつある事を発見した。[註1]一方又 RC アパート入居者の特徴として，公営木造住宅入居者に比して，収入，職業，学歴等に差異がある事もしられている。[註2]がしかしアパートに一旦入居すると，一方居住者の条件では，職業，収入，学歴よりも，家族数及び家族構成，世代等が住居観形成の上の要因となる事も明かになった。[註3]この事は，住戸型に対応した居住者のたくましい生活意慾と表裏して日本のアパート生活のゆがめられた一面を表している。即ち室空間の狭小の中で，家族数の増加，子供の成長の為に住生活が混乱し，プライバシーが守られぬ等の事実からゆがんだ生活や意識がアパート生活の底を流れている事は大きい問題点であろう。又，世代別には若い層と老人層との住居観の差異はアパートが若い層に好まれるが老人はそうでない事を裏書きしている。この様に狭小さが支配する歪んだ意識の上に立って，住居観や生活意識をより明らかにする為に，意識の型を1. 積極型（A，B），2. 順応型，3. 消極型に分類し，その各々の型について問題をひろって見る。

1.1 積極型

A．各々の生活を向上さし，共同生活をも発展させて行こうとする型

この型の典型例をあげると，世帯主の職業は公務員の役付で年令50才，学歴は大学卒，主婦は46才で専門学校

卒，長男18才，長女16才，次男10才の5人家族，前住々宅の住宅難の理由は家族別居，前住々宅は疎開先の鳥取県の田舎で居住室8室で，水，台所，便所が不便でアパート入居により住宅難は解消した。住い方の工夫としては，アパート入居時に古い家具の処分，台所が狭く冷蔵庫の置場所がない為造り付け棚の下に冷蔵庫が納まる様に改造，洗濯機の排水が洗面所に出来る様に排管の工夫，又7種の家庭用電気器具を揃えている。前住々宅に比し耐震耐火性で戸々の家が独立して近所附合が楽だと喜んでいる。家族間では住宅や時事その他の問題についていろいろと話し合い子供の意見を尊重し，何かにつけてよりよい解決の方法を見出す様努力されている。共同生活については，同一階段の人達と1週間に1度集会をして話し合う。「この様なアパート生活では自分の家は大切にするが共同部分の掃除（階段，庭等）はしない人が多いが変なおせっかいは止めてお互がもっと共同精神を高める事が大切だ。このアパート（大阪市営小宮団地）でも女性の教養の高い同一階段では皆なで話し合い，掃除も分担して階段部分はとても綺麗になっている。私達は始めは階段上下の騒音の迷惑を考えて意識的に草履を用いる等の配慮をした。又子供の教育には，家が狭い為勉強や裁縫をする際も一つのものを片付けて次の仕事をするという習慣，礼儀作法等も今迄の様な畳に手をついて挨拶するという儀礼的な形式よりも共同生活における共同精神の尊重等の方がより大切な問題である」と指摘し実行している。この様な生活態度の中には封建的な家父長的性格や，儀礼的な格式等は姿を消し近代家族の在り方を示す新しい生活意識が見出される。

又共稼ぎの教員で33才28才の夫婦，彼等の生活は，留守番の必要がなく鍵一つで安心して毎日が仂ける。この様な共稼ぎの傾向は，若い世代に増えつつあり，東京のT団地の場合[4]では94世帯中12世帯（12.8%）である。主婦が職業を持つので生活簡易化，家事労仂の軽減の為に食事の椅子坐化，ベッドの使用等の洋風化，新しい生活器具の購入等，又夏冬による家具の配置変更も行って住い方を工夫している。「生活が簡便になり，起床時間も主人と同じ位で身体が楽です」と答えている。婦人が社会的に活動し経済的な力を持つ事は近代的な生活の在り方を示しておりこの様な新しい生活意識の蘇生えに住戸型が大いに影響している事が知れる。しかし，一方共同生活の面ではダストシュートの掃除が月当番として順廻されている事が多く，日中主婦がいない為に向上的な意慾があってもその責任が充分に果せない等の矛盾も見られる。この2例を比較しても如何に居住者に積極的な意慾があり意識が高くても狭小さからくる制約が生活にひずみをあたえるという事をいみしている。

B．各々の生活は向上さすが共同生活には消極的な型

現在の日本のアパートにはこのような型の意識をもつ人が大半であると考えられる。先の調査ではアパートは住み易いと答えるものが58%，入居後家事労仂軽減された事を意識的に喜んでいるもの67%，生活器具の購入42%，居室のイス坐化32.5%等の数字にも表れており，家事労仂軽減の時間的利用には，主婦の教養，休養，娯楽等にあてられている。前住々宅に比して良く外出する様になった人が90%に達している。この事から推察すると過去の生活に於て家事労仂の中に自己を埋没してしまっていた主婦が労仂から解放され生活の向上の為に積極的な意識を持ち始めている事が伺える。また生活慣習の変化の問題では，入居後のガスストーブ使用43%による採暖の変化，床の間に対する意見では58%がほしいと思わぬ（世代別には20代30代に集中）と回答している。また衣生活においても若い世代の主婦は四季を通じて洋服化（25%）している。

この様な住戸内の生活に比し，共同住宅である事からおこる近所附合のうるさい事，又競争意識のある事を，[5]33%の主婦が指摘している。又共通部分の管理の実態から見ても階段，前庭，屋上，地下室等の掃除が皆なの申合せで行われる事について「共同生活に気を使うのは不便」，「共同生活はうるさい」等の意見があり，共同生活の考え方には甚だ矛盾のある事がわかる。これらは事業体による公営アパート管理の欠陥として挙げられるが，ソビエトの例で「居住者の健康な批判が住宅管理の仕事をたすける[6]」事が多いという事実からしても居住者の共同生活意識の向上が望ましい。これ等の諸現象は，単的に伝統的な日本人の閉鎖的個人主義とゆがめられた協同主義的意識として表れているといえよう。

1.2 順　応　型

この型はアパート生活に積極的な意義を見出し得ず，入居したからなんとなく住んでいるという意識の人で，前住宅の家具等も全部持ち込んで乱雑に並べられ床の間に対する意見等もどちらでも良い，又集合住宅から来る外部からのぞかれている様な意識についても「別に何とも思わない」と答える。この型に属する人の中には，生活経験や正しい住生活の仂きかけによってアパートの意義を認め積極型に変化する人と，共同生活でのトラブル等を気にして消極型に変化する人があるだろう。

今迄あげた2つの型に共通する問題として家族数の増員率がある。即ち法円坂団地の50年B型の家族数の平均は3.8人で入居後5～7年の出産による家族の増員率は平均0.3人で比較的低い。最近の産児制限の徹底もさる事ながら，室空間の狭小等にも影響をうけた積極的或いは消極的な意識が内在していると考えられる。

1.3 消　極　型

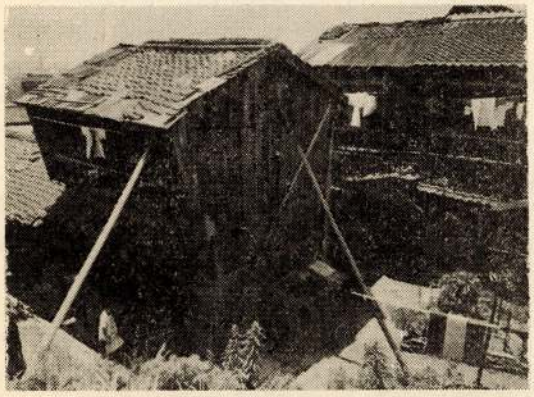
アパート生活はどうしても困る，一日も早く出て行きたいという型の人で，「アパート生活は何だか圧迫されている様だ」，「毎日箱に入れられている様で落着かな

い」，「家に帰っても職場と変らずくつろげない」といった意見が40代50代の世帯主を主として出ている。この型の人は収入35,000円以上で近く持家へ変りたいと願っている人が多く，分譲住宅調査[註7]の中にもRCアパートから木造の分譲住宅に転宅した例がある事等から見れば，この型の人は近い将来持家階層移行する条件を備えている人ともいえる。

以上3つの型について分析したが，これらは各々固定的なものでなく，生活経験や，住生活指導等によって変化しうるものである。又日本の生活慣習である正月のﾒ縄その他飾物の廃止，年中行事の大掃除の簡略化，又葬式の簡易化等の問題から見ても，住宅型と生活意識が対応して変化し発展するものである事が伺える。

2. 老朽危険住宅の場合

老朽危険住宅を取上げたのはRCアパートに較べ，都市住宅の中で，木造住宅の大部分が使い古され構造的にも耐用年限の限界に達しているものが多く，又終戦直後の尨大な量的住宅難に対して建設せられた応急的木造住宅も既に老朽化の状態にありその様相が深刻化している点と，老朽危険住宅の居住者が低収入所得者である事から，より良き住宅に立退きしたくとも経済的にそれが許されず「暴風雨の際は直ぐ身の廻り品をもって安全な所に避難してそれのおさまるのを待つ」といった住宅に住み，老朽危険住宅は居住者の住生活に歪みをあたえあらゆる面に大きい悪影響を与えると同時に又彼等の生活意慾をも低下さしている。（調査を行った大阪市此花区伝法町は昭和31年1月現在大阪市内各消防署管内老朽危険住宅に指定されている[註7]。）老朽危険住宅の現況の一例を



写真で示したが，これらの住宅における住生活の概略をのべると，居住室は2室が45%，従って就寝の占度は2帖未満70%，2帖以上30%の極めて過密居住で，食事についても，部屋の壁が剝落して板一枚を張り付けた間仕切で，便所の悪臭と排便の音で食事が喉を通らぬことが多数あり，一家団らんの休養の場である住いの本質は想像以上にゆがめられている。又屋根瓦がずれ落ち野地板も腐朽して垂れ下った天井の破れ目より寝ていても星が見えるという例もあり，殊に梅雨季には雨洩りの為，畳や寝具，衣類をぬらさぬための処置を講ぜねばならず台所器具を総動員して雨洩水の処理をするといった夜が幾夜も続くと訴えている主婦は多く，住宅の危険さに対する様々の不安感と就寝状態とがからみ合って睡眠を質的に極めて不安定なものにしている。

この様な生活の歪みは当然彼等の住居観や生活意識に反映している。居住者が住いの危険を毎日どの様に意識しているか，又していればそれは常にどの様な不安感となっているか，等について意識の差を分類すると，

（1）常に危険による不安を意識している型43人(58%)

（2）危険を余り意識していない型20人(27%)となる。

2.1 常に危険による不安を意識している型

ここでは「常に倒れはしないかと心配だ」，「雨洩りで眠れず常に不安，万一柱や梁が倒れ落ちる事を考えて寝る方法を考える」，「強風でも常に気になる」，「非常に神経質になっている」等著しく不安感を訴えている。この型の人を職業別に見ると，この地域での比較的収入上位の定収入者層（会社事務員，従業員）で昭和24年のジェーン台風の被害から，其後の偶発的損傷や，自然的継続的消耗に対しても，自分達で出来る限りの補修を加えている。老朽危険住宅であっても，外気と遮断する唯一の壁である一枚の板壁の内側には白い紙を貼ったり，生花を生けたり，或は新しい畳に表替をしたり，彼等の力の及ぶ限り居住性を高め様と努めている。又，子供達が家の中で騒ぐと根太が落ちたりするので外で遊ばす等子供の生活はおびやかされ親の不安感は子供の家に対する恐怖心をつのらせるばかりでこの様な子供への影響は又親の心配にもなっている。

2.2 危険を余り意識していない型

この型は「余り心配とは思っていない」（16例），「長屋建だから倒れることはないだろう」，「別に何とも思っていない」，「気になるが仕方がない」等一見痛切に不安感を感じていない様に思われる。この型の職業別は定収入のない日雇層や工員の一部で彼等は社会的にも生活的にも最も歪みをうけて，老朽危険住宅の最下層に沈澱しており，毎日の最低食事の確保の慌しさの中でともすれば住生活に対しても諦観的である。例えば台所用の燃料等も，薪，コークス，炭等を使用しているが，経済的に余裕がないので少しづつ購入する。これに比べ会社員等はその殆どが石油コンロやプロパンガスを使用している。然し工員や職人の主婦の中には，「家が何時倒れるかも知れへんのにそんなものは買えまへん」と云っている例が5，6例あり，老朽危険住宅が生活意慾をむしばんだ1例で，それがやがて身についた生活慣習や，しいたげられた生活意識となって行くのではないかと考えられる。

3. 農村住宅の場合

前項に於ては都市住宅の中の2つの型について述べたが，これ等の住宅に対比して農村住宅は，都市と農村のアンバランス，都市的資本主義社会における農村のおくれを多く荷なっている。この点を農村住宅と都市住宅について具体的に指摘すると，第1に，住まいとそれに附随する夫々異った用途即ち，農村のそれは，農業，林業における生産活動の場を含んでいる。従って住いが一方は休養生活のみを目的とし，他が休養と生産との両面をもつ事を依然と要求している。第2に，所有関係において都市では借家を（企業的と公共的とを問わず）を中心とするに対し，農村では持家を常態としている。この点は農村住宅が固定的な形態——平面や構造，外観——をもつのに対し，商品としての都市住宅がバラエティと使用者の利便とを専らとする傾向とを持つ事に表われてくる。第3には，近代化の進行度である。都市における生活が近代生産の恩恵に接近しているのに対し，農山村等がこれと疎遠となる様な社会機構，経済機構乃至は地理的条件からくる相違，特質である。これ等の諸点を考える時，都市住宅にくらべ農村住宅が農村社会の基本的な性格（前近代性，非民主性，封鎖性）等に大きく支配されている事が知られる。特に農村においては1つの地域社会の中で階層がより明確でその階層性が住宅との対応において存在し，農民の住生活，くらしの型，生活意識等にも反映している。[註8] この様に農村に於ては都市における生活よりもより複雑である為，ここでは生活改善について問題をしぼりそこに見出される農民の生活と考え方等を分析する。

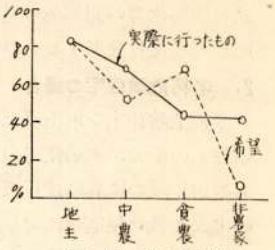
戦後生活改善運動は前近代的な農村の生活を新しいものにしようとする集中的な努力がはらわれて来たが，生活改善が形式的なものに流れ，生活改善への意慾や意識が，農民の内部のもり上り運動とがつながらぬ為にその弱さがあった。[註9] 従って東郷村の調査結果から生活改善について農民自身の芽生えている意識を中心に問題の所在を探り出そうと考え，生活改善について，1．要求があってそれが実現出来る型 2．要求はあるがそれが実現出来ない型 3．要求が内在し諦観している型の3つに分類した。

3.1 要求があってそれが実現出来る型

先づ住居への要求が階層別にそれぞれ異っている事が第1表に示す様に明かである。即ち，階層別の改善の要求を分析すると，台所関係では，地主20％，中農60％，貧農50％である。“へや”に関しては中農，貧農層に見られるが，地主層ではあらわれていない。又“はなれ”では地主の40％，中農の11％が改善を要求している。家全体を改善若しくは新築したいというのは貧民層にみられる。この様に農家の要求は階層を越えて存在しその要求は現住住宅に対応して出た問題である，第1図に増改築希望の有無と，実際に行ったものを示したが，

第1表　階層別にみた住居への要求（大阪府東郷村）

	住居の規模	へや（寝室，子供室）	収納空間	台所
地主	規模は今のままでよいが，近代化したい	室内装備の充実を望む		設備をより一そう充実させたい
中農	接客空間と家族の生活空間を分離する為もう少し広い家がほしい	寝室にプライバシーをもたせたい，子供の室を確保したい	ものいれがほしい	台所廻りを部分的にでも改善していきたい
貧農	家全体が狭く新築したいが，せめて“はなれ”を作りたい	寝室がほしい，子供室をつくりたい	もの入れがほしい	台所の各部を改善し，水道をひきたい



第1図　階層と増改築

増改築の希望に比し，その実現のされ方は明らかに地主に多く貧農は少い。即ち要求が実現される過程でいろいろなゆがみをうけている。経済的に恵まれている地主層，中農の上層等では具体的に住居を改善して要求が実現され又されやすい条件を持っている。

或中農の家では，息子に嫁をとる為に納屋の一部を改造して“はなれ”を造った。「幾ら親子でも毎日顔をつき合わしていたんでは喧嘩のもとだから」と家族間の私生活の尊重が意識され実現されている。この家の52才の世帯主は「我々は労仂が激しいのだから日常生活を大切にせねば」と部屋には螢光灯をとりつけ，扇風機も購入して農繁期の休息の一時に使用したり，農業用の動力機械を購入，又最近主婦の家事労仂軽減の為に自家水道を設備する等生活向上の為に大いに尽力している。未だ生活改善運動が活気的でないこの村において「日常生活の尊重」等の労仂の価値意識，人権意識に芽生えている面が見られた。この様に生活改善を自分の手で実行すると，それが又新しい生活意識を発展さす力ともなり得る。しかしこういった例が中農の上層である事は忘れてはならない。又一方地主層の例では，“はなれ”の増築（洋風の応接室と勉強室）が行われ，台所のかまど，流しも一応改善されて世帯主は「自分の家がこの村で最も早く螢光灯を取りつけた」とか，就寝分離の問題も知識としては甚だよく会得しているかの様である。然し日常の食事の仕方はめいめい膳で祖父，主人，長男という様に席の順位が定まっており主婦が真中で給仕をする習慣がまだ行われ，又一旦冠婚葬祭等の人寄せになると村社会での地位との関係等で数十人のお客をする。この様な封建的な生活慣習や格式が根強く存在しこの階層の生活改善が本当の生活の要求と結びつかず，見栄や外聞にとらわれたものとなり生活は全く混乱をきたしているという見逃せない一面がある。

3.2 要求はあるが実現出来ない型

上述の様な地主層や中農層に較べ貧農層は，「身の程を知れ」といった封建性と窮乏に培われささやかである要求が僅かしか実現され得ない。従って「どうにか住める」，「住めば都」等の諦観的な歪められた意識となって行く。元村長である地主のK氏が生活改善のさきがけとして，娘の嫁入りの時は大げさな荷ごしらえや人寄せもせず費用を節約し，村民も「後で知った」という程簡単に式を済ませ冗費を省いて娘に持たせてやったという，冠婚葬祭簡素化のモデルとでも云うべきものであった。しかし中農，貧農の下層の人達は，「村の人達はK氏が金持ちであることをよく知っているからよいものの，我々があの様な事をすれば，金がないから，甲斐性がないからといわれる。嫁に行った者も，嫁を出した者も肩身がせまい……云々」，といっている。そして勤倹力行したその上に無理算段をして，恥かしくない結婚式をあげねばならず，又そうする事を当然の事と考えている。生活慣習面のこの一事が農村の人達の考え方の根本を明らかにしていよう。「よそがするから」，「仲間はずれになりたくないから」という考え方が，経済的には本当は実現出来ない生活改善を無理やりにする事になるしかし，一方貧農層の中にも，講や組の寄合いは，お寺でするという例があり，住居の狭小，貧しさに原因するとはいえ積極的に寄合いを，公共施設で行う様になる萌芽となっている。更に，貧農層ではあるが，大工と協同して小さいながらはなれを建設し，家族の分散就寝，子供室の確保等を行っている例も見られた。そこには，先にのべた様な矛盾点はあるにしても，生活向上の意慾や新しい生活意識の芽生えを見出す事が出来る。

3.3 要求が内在し諦観している型

都市住宅の場合でも同様であるが，農村において社会生活の影響を受けにくい地域では，特に諦観的な型の人が相当見うけられる。例えば，貧農層で，「生活改善等は富裕な家だけが出来る一種の道楽」かの様に思い，自分達とは無関係の金銭の要るものだと考え，又，生活改善に関する催物（この場合主として，料理の講習会や衛生に関するもの）にも出席せず，その理由は「面倒くさい」「忙しい」と答えている。この中には，長い間の貧苦や封建的慣習の為に止むを得ずなって了った意識の外に生活改善の手始めに行われた料理の講習会等が農民自身の食生活に不適当なものだった事にも原因し「こんな汚い着物を着て行かれしまへん，どうせ行っても聞いて来るだけです」等の言葉の中には生活改善の方法が本当に農民自身の要求に答えたものでない事を裏書きしている。生活改善についての要求が顕在化するに至る動機が「他所の良い家を見た時」や，「新聞，ラヂオ」であったが我々の調査でより広範な階層にゆきわたる様に行った幻灯会[註10]等による影響が翌日の調査や座談会で「いろいろと教えられて面白かった」という言葉となって現れた事からしても，農家の階層により適確な生活改善の在り方を提出し，又その仇きかけをする事により農民自身の考え方や，要求を引き出す動機ともなりうると考える。

Ⅲ むすび

先にのべた様に生活意識は住宅型に対応して更新変化し，一方住宅に仇きかけて住宅型を発展さす要因となり，更には生活近代化への力となり得ている。しかしアパートの場合一番問題になるのは狭小から来る生活の矛盾で居住者の家族構成に応じて規模が大きくなり個室の確保の原則が打ち出されるとすれば，いい意味の個人主義的生活意識も発展するだろう。又住いの集合共同化に伴う様々な矛盾は現在見られるが，その中にはすでに新しい芽生え，即ち，日本の家長制家族制度の徐々の崩壊，閉鎖的な個人主義意識から社会性への芽生え等々が見出される。特にこの様な環境の中で新しい時代を荷なう子供の人間形成の上に，より進歩した生活意識が築き上げられるのではないだろうか。

この様なアパート居住者の向上的な面に較べ，老朽危険住宅においては居住者は不安感におののき毎日の生活がおびやかされ，ひいては生活意慾の減退に至る等一日もゆうよの出来ない状態となっている。住宅難と社会のひずみの両面から圧迫を受けているこの居住者には各層に応じた住宅難の解決，社会保障の充実が急務となる。又農村住宅において，都市住宅のそれと較べて歴史的社会的な基盤の中で封建性や格式が根強く，又住宅が直接生産とつながっている為に容易に住宅型を変化さす事はむづかしいが，近郊農村においては都市の影響をうけて徐々に変化しつつあり，型変化に対応して農民の生活意識も高まりつつある事が明らかである。現在拡大されつつある農村生活改良普及事業と，益々活気的な活動を行っている農村建築研究会の正しい交流がなされ，台所改善等の一辺倒な生活改善や画一的な方法を農民に押しつけるのではなく農家の各階層の要望に答えた改善と，階層に応じた仇きかけをする事によって，現在成長しつつある農民自身の考え方や生活意識が正しい方向に発展する様我々は努力しなければならない。

註1. 牛田尹久子「住戸型と生活様式」住宅 1956. 7. P 9

註2. 「公団住宅の供給対象と需要に関する研究」日本住宅公団 P 8

註3. 林正昭，牛田尹久子「住居規模形成の諸要因」日本建築学会論文報告集54号

註4. 重松敬一 「アパートの暮し」 P 72

註5. 上林博雄，林正昭，牛田尹久子「公営RCアパートの維持管理の現状と問題」住宅 1956. 7. P 17

註6. 「住宅」 1955. 11. P 28

註7. 野村五四男，大賀昇，牛田尹久子「老朽危険住宅と住生活」大阪市立大学家政学部紀要住居学（3）

註8. 註9. 註10. 林正昭，牛田尹久子他「農村の新築住宅の動向」農村建築研究会第7回大回資料（その9）

（筆者 大阪市大家政学部住居学研究室）

あぱーと団地の景観

諫早信夫

1. 団地計画と景観
2. 景観とは
(イ) 視野と視線
(ロ) 景観の構成
(ハ) 景観の時間的変化
3. 景観の地方性，個性
4. 景観の重点的な場
(イ) 団地入口の景観
(ロ) 団地内主道の景観
(ハ) 広場の景観
(ニ) 棟廻りの景観
(ホ) 戸内からの景観
(ヘ) 団地外から団地を眺めた景観

1. 團地計画と景観

あぱーと団地の設計にあたっては，交通，近隣共同施設，環境衛生，景観等について綜合的に計画する必要がある。欧米とくに英国では住宅団地の景観は非常に重視され，良い景観についての研究調査も進み，設計建設に当っても充分な手が尽される。しかるにわが国では従来あぱーと団地の景観に対する関心が極めてうすく，専門的な研究調査も少い。

あぱーと団地の景観が軽視されていた理由は1つにはわが国の戦後の住宅政策が，戦後の住宅難の緩和のために，量的な供給に重点を置いたこと，その上敷地難や，予算不足のために景観を与える余裕がなかったためであろう。また1つには多くの住宅団地が数棟の小団地であり，稀にある比較的大きい団地も数年間にわたってこま切れ建設するために，計画的に効果的に景観を考えるのが難しかったためであろう。こうして住宅建設にたづさわる専門建築家の中には，わが国のあぱーと団地はただ定まった型の建物を並べるだけで，景観がどうのという余裕も価値もないものと頭から定めてしまっているものも多いように見える。

しかし戦後すでに10年経って世の中も非常に変った。住宅問題は量と併行して質の問題も重要となり，とくに団地建設については景観の問題が次第に重要視されてきた。すでに出来ている住宅団地にも，大阪市営古市団地の様に景観的に立派なものもあり，また大阪府住宅協会，兵庫県住宅協会の新しい住宅団地は，小規模のものであるが中々美事なものがある。昭和30年に日本住宅公団の発足とともに1,000戸，2,000戸の大規模団地が1年度の中に多数建設可能となり，あぱーと団地の景観計画は重要かつ切実な問題として，クローズアップしてきた。このような大団地は単に住宅の量的供給のみにとどまらず，新しい都市文化，生活文化を創造するものとして高く評価されてきている。こうして最もおくれているあぱーと団地の景観計画について，速かに研究調査を深め，確固たる基礎に立って団地建設を進めることが緊要となっている。

今後のわが国のあぱーと団地の景観計画は2つの面において研究が掘り下げられなければならない。1つには人間共通の生理ならびに心理に基く客観性のある景観計画の原則を求めることである。2つには欧米と異る日本特有の風土，民族に適う景観計画を求めることである。

団地の景観計画は主観的要素の多いものであるが，科学的に処理できる部分を明らかにすることによって，より能率的，効果的に計画を実施することができるだろう。

2. 景 観 と は

景観という言葉は常識的に慣用されているが，もう少し科学的に正確に考えをまとめる必要がある。

まづ住宅団地の景観を眺める人としては誰を対称にしたならばよいか。第1はその団地の居住者であり，第2は団地を訪問する外来者である。第3は団地外周辺の居住者及び附近の通行者である。景観を眺める時の状態はとくに立ち止って眺めることもあるが普通には家事をしながらあるいは通勤,通学,買物のため，往き来の間になんとなく眺めることの方が多いだろう。団地の弘報などのために航空写真を撮ったり，高い塔や，山の上から見下して撮ったりすることがあるが，このような場所で得られる景観は居住本位の団地景観とは別なものである。

景観を意識して眺める程度は人，時，場合によって強弱がある。例えば非常に暑い夏や，寒い冬は景観に対する関心が薄く，気候の良い春や，秋は景観を楽しむ傾向がある。

(イ) 視野と視線

景観は視覚によって得られるから，視覚の性質を明らかにすることから出発する必要がある。

景観の印象は，1点凝視の場合もあるが普通には眼球の廻転によって多数の視覚をつなぎ重ねて綜合したものとして得られる。1点凝視の場合には，その1点を中心として視角約1°の極めて狭い範囲に鮮鋭な視覚が得られ（直接視）その周囲はかなりボケた視覚しか得られない（間接視）。間接視の視覚は双眼の視覚の重なる部分については約140°である。頭部を動かさず，眼球の廻転のみを考えると，水平方向に左右各約45°，上向き約40°，下向き約50°である。この眼球の廻転角は最大であるが，普通頭を動かさず，眼球のみを楽に廻転させて，正面の景観を見る場合は，眼球は最大角の2分の1位の範囲で動くものと仮定する。この場合直接視をモザイク状に綴ることにより約45°の視角が得られる（間接視も入れれば185°），写真の標準レンズ（50mm）が47°であること，部屋の窓，自動車のフロントグラスの巾が視角45°～50°あれば，窓枠が邪魔に意識されないことなど併せて考えて，景観の標準視角を45°～50°とすれば良いと思う。このことの適否は写真を撮ったり，エスキースを描いて景観を研究する方法を定めるのに重要である。以上のように頭を動かさず眼球の仂きだけで得る景観を「静的な景観」とすれば，頭部の廻転，上体の廻転，歩行などの運動に伴い，連続して得られる広い範囲の景観は「動的な景観」である。団地の景観計画は団地内外にわたる景観をシネラマ式に考えて，全体として変化と魅力に富んだものとするのが理想であるが，実際問題としてその理念を入れる余裕のない時は，団地内外の要点の静的景観をスライド式に組合せて考える。

(ロ) 景観の構成

あぱーと団地の景観の構成要素として，あぱーと建築が主役となるのは申すまでもない。しかしあくまで建築は景観を構成する要素の1つであって，全部ではないことを銘記しなければならない。景観を構成する要素は光，空，建物，樹，草，大地，各種の施設，人間，動物など視野に入る総てである。各要素の性格も，人，動物のように動くものと，大地，建物のように動かないもの，樹や草のように風が吹けばそよぐもの，光や空のように天候，時刻によって絶えず変化するものなどさまざまである。また各要素の中，光，空などは自然に与えられた条件であり，建物，植樹，舗装は人工により造るものであるから，人工的なものを自然に調和させることが景観計画の基本である。景観を眺める感じ方も，量感，触感，色感，動感，生活感などその時と人によっていろいろ異る。

(ハ) 景観の時間的変化

同一場所の景観も，一日の時刻，一年の季節により異り，また晴，曇，雨，風，雪などの天候により非常に変る。また年代の経過により，建物の外壁の色も変化し，樹木も成長したり，枯れたりして景観は変っていく。このように絶えず変化があるところに景観の魅力があり，景観計画の難しさがある。また景観を良い状態に保つために景観の維持管理の問題も生じてくる。理想的な景観とは時間的な変化に富み，かつ年代的のライフがあり，維持管理が容易なものである。

3. 景観の地方性，個性

あぱーとの生活様式は次第に万国共通になってくる傾向があるが，景観計画はむしろ地方性を活かすようにしなければならない。第1次的には空の色，光の強さ，土の色は地方毎に違う。第2次的にはそれぞれの地方の風土に適した草や木，特産の建築材料，伝統的な工法がある。

団地景観は団地自身の地形や，団地周辺の環境とのつながりにおいて特長を活かすことである。既設市街地内の団地，海岸，田野，丘陵地それぞれ特別な扱い方が必要である。景観計画の科学的ルールは現在研究がほとんどできていないので，今後大いに発達させる必要があるが，たとえどんなに研究が進んだとしても，設計者の個人的創意に頼る部分も依然として大きい。

わが国のあぱーとの最も普及型は3階乃至5階建，1棟18戸～30戸の板型あぱーとである。この型は建築費が経済的であること，日照，通風の条件が良いこと，敷地の地耐力に適うことが多いことなどが特長で，今後も広く採用されるであろう。近頃テラス型とか，星型とか，いろいろ異った型が工夫されているが，主力は依然として板型がしめるものと思われる。

この板型あぱーとを大体東西に長く南面して配置するのがわが国団地計画の基本であって，欧米の団地計画に較べ，著るしく異るところであり，景観計画上特殊な難しさがある。

4. 景観の重点的な場

(イ) 團地入口の景観

団地の入口は，個人住宅の入口と同じく，団地居住者，訪問者が出入の都度通る場所であって，団地景観の一つの急所である。

団地の入口には団地全体のための主入口と，団地の一部分の便宜のため，あるいは特別な用を足すための補助入口とがある。団地の主入口は団地居住者の多数が，団地外の主な交通機関，マーケット，学校に行くのに，便利な箇所に設けられる。主入口は必ずしも1つに限らず，2つまたは3つ設けられることもある。主入口，補助入口ともに，その重要度に応じて，必要な施設をなし，それぞれふさわしい景観が得られねばならない。

団地主入口景観の構成要素は，入口内外の道路，広場，外柵，門柱，表札，案内板，掲示板，門灯，街灯などであり，背景としては団地の建築群と植樹帯である。団地の内側から，入口を眺める時には，隣接既設市街地が背景となる。

団地主入口の景観は，団地の大きさに釣合った重量感が必要である。団地の大きさに適った巾の前面道路と団地内主道の結ばれるところに，諸要素がさりげないまとまりと，適度のゆたかさ，個性のある気のきいたデザインで構成されることが望ましい。あまり造型意識過剰な施設が巾をきかせたり，団地の奥行ある景観を妨げる施設は不愉快である。また反対に大きな団地の入口が，これといった点景もなく，散文的に放りっぱなしにしてあるのも淋しい。

主入口が団地の東西南北いづれの側につくかによって，光線の効果が違うので，その点をよく考えたデザインをする必要がある。

団地外周道と団地内主道との連絡の仕方は入口の景観設計の出発点である。

(ロ) 團地内主道の景観

あぱーと団地内の景観は，眺める位置が団地内のどこでも，それぞれ趣きのある眺めが得られるようにしたいが，団地居住者多数のためという立場から，日常生活上利用度の多い団地入口から団地中央部にかけての主要道路に沿った景観をとくに重要視しなければならない。景観上重点を置いて考える時刻としては朝の通勤，登校時，夕方の学校，買物，勤先からの帰宅時である。この場合主な視線は当然道路の進行方向に考えられるが，人間の習性として側方の棟の間，枝道路の方もチラット見るのでその角度の景観も併せ考えて設計しなければならない。

主要道路に沿った景観は普通どのように構成されるか。視野の中心，つきあたりの点景を底とし，左右側方のあぱーと列の垂直な家並み，下方の側面と植樹帯，上方の天空によって箱型に構成され，この箱型の各面の光と色と型，質感，量感が綜合されて景観を構成している。

直線道路が長くのびたつきあたりにこれといって主役になる点景が何もないのは，役者のいない舞台と同じで淋しい。よくある例であるが，正面に団地外の既設のみすぼらしい木造の市街地がのぞいているのは景観をひどく悪くする。直線道路をつけることによって団地外の美しい自然または人工の点景に恵まれる場合を除き，T字路または曲線路とするのが良い。T字路の場合は正面にファサードの美しい中心建築となるあぱーと建築を建てるか，大きな樹木を植えて点景とする。曲線道路の場合は道路に沿って曲ってきたあぱーとの家並みが点景となる。

視野を構成する箱型各面の面積比は，道路景観の良否を定めるキーポイントである。両側家並みの高さに較べ，下面の道路および植樹帯の巾が広すぎると，上面の天空部も広くなり，野原のような空きょな感じとなる。ただし植樹帯は大きな樹木を点在させて公園風にすればまた別な趣きが得られる。反対に両側の家並みの高さに較べて，下面の道路巾が狭すぎると，高い塀に囲まれたような圧迫を感じる。小団地のT字路の場合正面を全部高い建物でふさぎ，視野の天空部が少くなると，つかえた感じになる。この場合建物をずらせて3分の2位ふさぎ，3分の1位は後方が見通せるようにすると，ずっと感じが良くなる。

家並みと道路の曲りとの関係を考えて見よう。ゆるやかな円弧や，反曲道路は家並みが自然に変化するので非常に好ましい景観をつくる。よくあるように直線道路に直角または平行にあぱーとの棟を併列したものは，スカイラインをはじめとして，すべての線が一直線になり，こんくりーと建築の固さをますます強調し，馴染み難いものとする。

(ハ) 広場の景観

わが国の多くのあぱーと団地には広場らしい広場はない。敷地を節約し1戸当り20坪位にするために充分な広場面積が生みだせない。300坪位の幼児広場を数棟毎に設けるのが精一杯である。1戸当り50坪位敷地をとればかなりゆったりした団地ができる。大団地程1戸当り敷地坪数を多くし，広い広場を設けないと，建てこんでつかえた感じになる。

広場に設ける遊戯施設，パーゴラ，池，植樹等はあぱーと団地の固い感じを和げる。丘陵地の団地では自然のブッシュ，山，池を保存すると良い。広場は広場を取りまくあぱーとの各棟と平面計画上密接な結び付きが必要である。各棟の入口が広場に面し，出入の人が広場を通り利用すること，各棟の階段踊場，居間や台所の窓からの視線が広場に注がれやすいようにすること。広場を取りまく棟が二列になっている時は後列の棟の居住者が広場に出られやすいように，前列の棟の中央にアーケード道をつくる位の配慮が欲しい。夏の憩の場所としては相

当大きな植樹により充分な緑蔭をつくる。広場の景観は周辺あぱーとの居住者の共同生活の場として活潑に使われることによって活き活きとしたものとなる。

広場と道路とを巧みに結びつけると，団地内のゆとりのある景観を生む事ができる。

㈡ 棟廻りの景観

棟廻りの景観はあぱーとの外壁をバックとして，棟の入口と道路の間に横わる中庭に繰りひろげられる。この景観は居住者の生活と直接結び付いた景観である。主道路に沿った景観が大まかで遠景的であるのに較べて，この方はディテール的であり，クローズ・アップ的である。北側の棟に接した日の当る明るい部分，南側棟に接した日蔭の部分が明暗の景観の場をつくる。

棟廻りの景観を計画する重点時刻としては，建物の出入の激しい朝夕の他に，戸外で遊ぶ幼児および家事で出入する主婦のために昼間時も含める。棟の出入口は棟と中庭をつなぐ大切な場所であるが，従来はあまり無雑作に扱われている。もっと親しみのある気のきいたデザインがのぞまれる。

棟廻り景観の重要な要素としては，普通に考えられる小路，植樹帯の他に，物干，ごみ箱等の生活用具，幼児の遊ぶ施設，街灯，ポンプ小屋，給水塔のような公共施設がある。これらの一つ一つがすなおな美しさを持つと同時に，環境全体としても調和がとれていることが必要である。

㈢ 戸内からの景観

戸内からの景観の特性は，第1は窓，出入口の開口部の枠を通して見る外景である。開口部に設けられている手すり，ガラスや紙張の建具，金網，カーテンなどの建築附属施設が景観に特別な効果を添える。第2は開口部に近く位置して眺める時は，見下しの景観となることである。第3は前面のあぱーと建築が景観の主要な要素となることである。第4は団地外の良い特別な景観が得られる時は，それを採り入れることである。

戸内からの景観は，住宅団地内の棟の位置により，景観の構成が異る。団地の外周に近い棟の戸内から団地外を眺める景観は，団地外の環境から構成されるし，団地の中心部の棟の戸内からの景観は，団地内の建物や樹木が主役となって構成される。従って小団地では，団地外の既成環境が景観上重要であるが，大団地では団地内の構成された景観の方が重要性を増す。同じ棟からの眺めもその棟内の戸の位置によって戸内からの景観の見え方に差がある。最も普通の配置型式である版状あぱーとの併列配置の団地の場合，棟の中央部の戸からの眺めは前面の棟に直面し，棟間の見通しが得られないが，端部の戸からは棟間の見通しが得られる。また最上階の戸からの眺めは天空の割合が多く，地上は眺めにくい。反対に最下階の戸からの眺めは地面の割合が多く，天空は眺めにくい。

㈣ 團地外から團地を眺めた景観

団地から離れた地点からの眺めは，平坦な既設市街地内の団地では通常建物の蔭になって広い景観が得られないが，高低のある地形や，視野を妨げるものがない郊外地，川，海，湖等の水辺に沿った土地に建つ団地では著明な遠望景観が得られる。団地を良く見通すことのできる位置に交通量の多い交通路がある場合にはとくに遠望景観を重視しなければならない。四階建以上のあぱーとならばかなり高い感じを受けるが，三階建では既設木造市街地より僅か一階分高いだけなのであまり目立たないものである。

遠望の効果は眺める所と団地との間の距離の大小により大いに違う。中層あぱーとのヴォリューム感の活きている遠望として手頃なのは 100m から 200m 位である。1,000m 以上にもなると視野に占める建物の大きさが小さくなり過ぎ，棟別の判別も難しい。そしてこのような遠い地点から眺めた場合には周囲の地形，天候，空気の透明度，日光の方向，建物の色彩対比などについて最上の条件が揃わないと，あぱーと団地は景観上著明な構成要素になり難い。

高い丘や，斜面に建つ団地は遠望効果が著しい。これは視野を妨げる中間物が少いこと，建物が段状に重なり，視野に占める面積が平坦地の場合の何割かに大きく見えるからである。とくに高い丘の頭部に高い建物があると，高い感じが心理的に強調されると同時に，青味の深い高い空をバックとして建物のスカイラインが一層くっきりと見える。この場合勿論南方から順光線で眺めることが必要で北方から逆光線で見る場合は建物も丘も一様にかげになってつぶれると同時に空の色も冴えないので，南方から見る場合程効果は得られない。

斜面に建つ団地では，団地のあぱーとの色や形と団地周囲の環境との対比が，美しく良くなるように考える。周囲の環境が市街地か，林野かによってその色も感じも違うから，それに調和するように住宅団地を設計しなければならない。

水辺の住宅団地は水にうつる建物の美しい影の効果を活かすようにする。

団地を含んだ環境，あるいは隣接地に著明な景勝地がある場合には，新しく造る住宅団地は既設の風景を更に良くするものであることが望ましく，マイナスするものにならないようにしなければならぬ。既存の風景とマッチすることが難しい時は充分な植樹などをして調和をはかることが必要である。

（筆者　日本住宅公団大阪支所次長）

住宅問題解決への段階

住宅委員会

Ⅰ　住宅不足と住宅建設戸数

戦火に家を焼かれ，失意のドン底にあった終戦当時，住宅不足数は，空襲によるもの，210万戸；疎開取壊しによるもの，55万戸;戦時中の供給不足，118万戸；計383万戸と推計せられ，このうち戦時中の供給不足はともかくとして，空襲や疎開取壊しによるものに対しては直ちに，また海外引揚者のためには，引揚の進むにつれて，逐次供給が行われなければならなかった。その後，経済の復興と民生安定の諸施策によって，424万戸が建設せられ，一時のように住むに家なき人々が親戚・知人を頼って四散し，辛うじて雨露を凌ぐだけの壕舎の急造に狂奔した事実，歳月の流れとともに昔の語り種となって次第に忘れ去られて行くけれども，戦争による未曽有の住宅難は，今日もなお厳しい姿を曝している。

Ⅱ　住宅難の様相

昭和30年8月に行われた住宅事情調査の全国集計によると，非住宅居住，14万2千戸;同居，67万戸；狭小過密居住，77万戸；老朽危険住宅，112万6千戸，計270万8千戸と推計せられているように，衣食の面では完全に戦後を脱したといわれながら，独り住宅だけは取り残された恰好である。

この調査によって現在の大阪府下の住宅困窮の様相を推察することとしょう。ただ，本調査は抽出率が小さく，府下では大阪，堺，岸和田，泉大津，豊中，布施，八尾，枚岡の八市と，藤井寺町，西信達村，南横山村の三町村がその対象となっており，その中で更に市部30分の1，郡部80分の1の抽出であるから，この結果を直ちに府下全体の数値に引伸ばすことは無理でもあり，危険でもあるが，大体の様相を摑み取ることは出来よう。さて，この調査によって，何等かの形で住宅に困っていると自ら訴えているものが市部で20.93%，郡部で12.73%にものぼっているが，その内容を見ると，第一に狭小過密を訴えているものが約43%，次いで同居が15%，老朽危険家屋と立退要求がそれぞれ10%，これに非住宅居住と結婚がそれぞれ5%，高家賃が3%，以下別居，遠距離通勤となっている。次にこの困窮者を職業別に見ると，労働者および事務技術系の勤労者が大半で，市部で60%，郡部で67%を占めており，これに無職を含めると，それぞれ70%，80%となり，残余が個人業主と会社団体役員であり，ここに住宅困窮者と個人経済力との関連が窺える。更にこれらの人々の収入はどんなものかといえば，大まかに月収1万円未満のもの，1万円～2万円，2万円～3万円，3万円以上というふうに分けてみると1万円未満が22.69%，1万円～2万円が31.55%，2万円～3万円が16.57%となっており，3万円以上になると2.05%と激減する。ただ収入の不詳が27.14%であって比率が大きいので，これを職業別に眺めてみると，無職および事務技術系の勤労者がその7割を占めていることから，これらの多い16,000円未満のものが不詳のうちにも大きい比重を占めるものと考えられ，これらを綜合すると，比較的高収入者は已に住宅難を解決し，比較的低収入者に住宅難が集約された姿をはっきり見ることができる。（第1～4図参照）

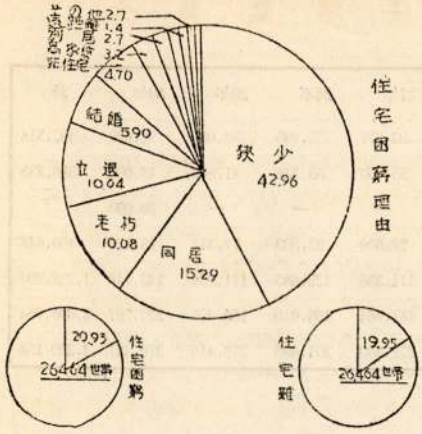
Ⅲ　当面の住宅対策

戦後，公営住宅が庶民住宅の力強い担い手として現われ，それの後，昭和25年に住宅金融公庫法の制定によって住宅に対する融資の途が開かれ，さらに昭和30年夏，日本住宅公団の設立を見，大きく分けて，この三方式が自力建設以外のいわゆる政府の計画住宅の根幹となっているが，前に見た住宅困窮者の経済力と公庫公団の自己負担金，償還金，あるいは家賃などを絡み合わせると，この両者の対象となる階層には，ある限度が考えられ，（一少くとも今の段階では一）低家賃の公営住宅への殺倒ぶりをよそ目に売残りの住宅ができたり，あるいは高嶺の花の展示分譲住宅といわれたりするのを見聞きすると，政府の重大政策のうちに挙げられながらもアト・ピン的対策の重点のズレが露呈されているように考えられ，低家賃政策への大きい飛躍が望まれる。

また将来の国民生活水準から予想せられる住宅の規程を考えるとき，公的資金による，いわゆる計画住宅の規程の拡大が望まれる。戦後，世帯単位が小さくなったとはいえ（大阪府下の一世帯当り人員は4.51人），その世帯人員から考えられる住宅は三寝室が標準であると断定しても差支えないと考えるが，今これを設計に移すとき，最少限15坪を必要とする。現実には公営住宅が8坪～12坪，公団住宅が13坪（32年度からは14坪に引上げられると聞く）であり，いずれも二寝室住宅を限度としているのであるが，世代交番を考慮に入れた三寝室住宅を中心として合理的に規模の変化をもった建設計画でありたいものである。公的資金による住宅が，将来のわが国民の住居水準を規定する典型となるべきであると考える。

Ⅲ　今後の住宅建設上の問題点

戦後，経済力の脆弱なまま，住宅不足の深刻さと住宅復興の強い叫びとは，都市戦災復興事業と結びつかないままに，都市の外へ外へと建設の場を求めていった。た



第1図 住宅難世帯と住宅困窮世帯

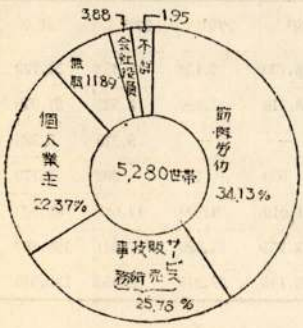
住宅難世帯

居住者の意志如何にかかわらず，建設省の定めた基準，即ち調査要領で非住宅と認めたもの，同じく危険，修理不能と認めたもの，同居世帯および住居畳数が九帖未満で，しかも1人当り2.5帖以下のいづれかに該当する世帯をいう。

住宅困窮世帯

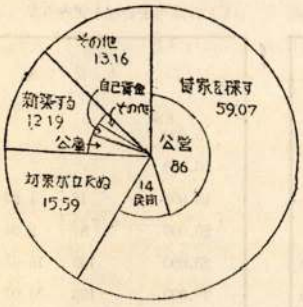
居住者自身が各々の理由によつて，住宅の必要に迫られていると感じ調査表に記入した世帯をいう。

第2図



第3図

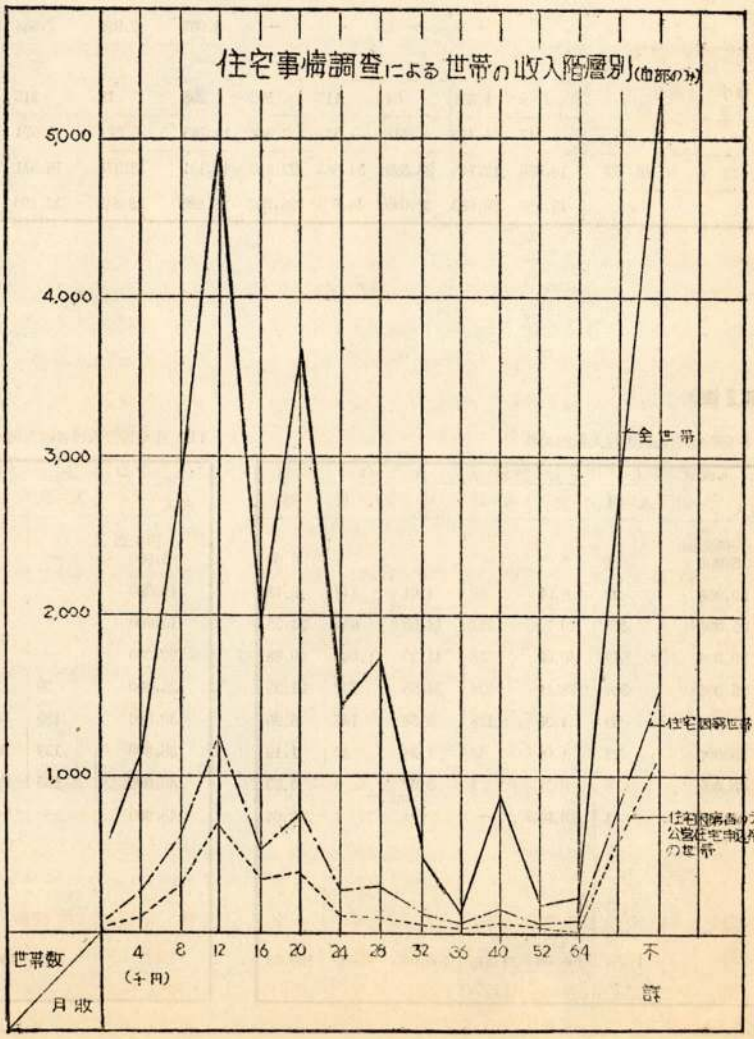
住宅難改善策



その他 13.16%の内わけ



第4図



（第1表）

戦後の住宅建設戸数（A）全国

種類＼年度	20年	21年	22年	23年	24年	25年	26年	27年	28年	29年	30年	計
公営住宅	81,130	48,805	42,096	42,852	26,562	32,083	27,436	33,377	57,935	53,022	52,020	497,318
公庫住宅	—	—	—	—	—	62,400	48,640	55,350	55,248	41,600	45,000	308,238
公団住宅	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	20,000	
厚生年金融資住宅その他	23,937	106,346	72,523	43,739	24,509	25,998	21,023	22,609	22,502	17,342	26,120	406,648
小計	105,067	155,151	114,619	86,591	51,071	120,481	97,099	111,336	135,685	111,964	143,140	1,232,204
民間自力建設	130,733	304,149	511,481	654,309	319,029	216,819	149,201	161,464	166,010	166,452	227,307	3,006,954
合計	235,800	459,300	626,100	740,900	370,100	337,300	246,300	272,800	301,695	278,416	370,447	4,239,158

〔註〕 1) 本表は昭和31年7月，建設省発表「国土建設の現況」によった。

2) 本表は新築のみの戸数である。

（B）大阪府

種類＼年度	20年	21年	22年	23年	24年	25年	26年	27年	28年	29年	30年	計
公営住宅	5,108	2,994	4,157	5,525	3,350	5,500	3,327	3,441	6,733	6,134	5,453	51,722
公庫住宅	—	—	—	—	—	4,967	2,926	2,868	3,718	2,999	3,532	21,010
公団住宅	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	5,325	5,325
厚生年金融資住宅その他	9	1,321	84	117	592	298	18	315	559	157	302	3,772
小計	5,117	4,315	4,241	5,642	3,942	10,765	6,271	6,624	11,010	9,290	14,612	81,829
民間自力建設	10,378	15,748	28,699	34,983	22,410	13,131	12,571	16,571	13,135	13,020	17,841	198,487
合計	15,495	20,063	32,940	40,625	26,352	23,896	18,842	23,195	24,145	22,310	32,453	280,316

（第2表）

（A）公営住宅入居者収入別内訳表

収入＼人員	木造 人員	木造 %	耐火 人員	耐火 %	合計 人員	合計 %
円未満 5,000	1	0.07	—	—	1	0.04
10,000	82	6.08	62	4.61	144	5.18
15,000	405	29.71	251	18.65	656	24.35
20,000	540	40.06	558	41.25	1,098	40.68
25,000	244	18.19	328	24.55	572	21.35
30,000	59	4.36	128	9.53	187	6.96
35,000	14	1.04	18	1.34	32	1.19
40,000	5	0.37	1	0.07	6	0.23
45,000	1	0.07	—	—	1	0.04
計	1,351	100.00	1,346	100.00	2,697	100.00

（B）住宅協会入居者収入別内訳表

収入＼人員	人員	%
円未満 5,000	—	—
10,000	—	—
15,000	—	—
20,000	—	—
25,000	39	7.45
30,000	189	36.25
35,000	139	26.55
40,000	155	29.75
45,000	—	—
計	522	100.00

（C）公庫当選者収入別内訳表

収入＼人員	人員	%
円未満 5,000		
10,000		
15,000	18	1.87
20,000	87	9.04
25,000	160	16.63
30,000	193	20.07
35,000	137	14.27
40,000	111	11.54
45,000	67	6.96
50,000	43	4.47
55,000	43	4.47
55,000 以上	103	10.71
計	962	100.00

（第3表）

府民の給与所得者収入階層別人員表

資料　国税局統計課にて調査

29年分申告所得階級別表（30.7/.31集計による）

金額＼人員	人員	百分比	備考
	人	%	年額×1/12 円
万円以下 10	2,498	1.71	8,333
20	30,653	21.07	16,666
30	47,874	32.32	25,000
40	26,635	18.25	33,000
50	14,671	10.08	41,600
70	12,302	8.53	58,300
100	6,517	4.79	83,300
200	3,778	2.59	166,666
500	837	0.57	416,666
1,000	107	0.07	833,333
1,000 以上	30	0.02	
計	145,902	100%	

（第4表）

住宅入居者の収入階層別人員表

資料，収入階層別人員は公庫，府営，協会住宅の当せん者（入居者）を調査

月額＼人員	人員	百分比
円未満 5,000	7	0.02
10,000	164	3.96
15,000	720	17.35
20,000	1,229	29.61
25,000	758	18.26
30,000	524	12.63
35,000	282	6.79
40,000	232	5.74
45,000	54	1.30
50,000	45	1.08
55,000	43	1.03
60,000	92	2.23
計	4,150人	100%

めに都市は農地を侵蝕して偏平に延び，交通機関は混乱し，都市施設は住宅建設に追随し得ぬというような偏跛な復興を招いた。住宅の建設が都市計画および地方計画の一環として進められない限り，都市機能の混乱と，これに由来する生活の錯綜が惹き起されるということが，はっきり露出されて来た。おそまきながら，住宅政策と都市計画との結びつきが真剣に考えられるようになって来たが，都市内空地の合理的充塡，既成木造市街地の開発ということは，零細化した宅地の現状と，地主の土地に対する意外に強い執着という障碍のために，安直に実現することは到底不可能である。その開発ということも，ただ小規模な地区を対象に進められては思わぬ悪環境をもたらし，本来の住宅の使命からかけ離れた都市生活を強いる結果に終ってしまいそうな気がする。少くとも一校区程度を対象区域に纒めてかからないと，理想的な明るい都市住宅とすることは望めないのではなかろうか。いずれ，このような事業は，公共団体や公益法人によって進められてゆくであろうが，前途多難なものがあろう。しかし，何はともあれ，社会を啓発するためには，とりあえず小規模なものからでも手をつけてかかることが急務であり，これが水に投じた一石となり，その波紋は大規模な事業の可能性を裏づけるに違いない。

一方，都市から離れて，未開発地の開発が行われ，大団地化の手法も採られているが，これとて単なる Bed Town に終ることのないよう将来，衛星都市として存立し得る産業施設を想定し，現在および将来の都市計画，都市施設をよく関聯させた開発でなければならない。

むすび

以上，断片的にではあるが，住宅事情調査の結果から見た住宅困窮者の実態と，現段階における住宅対策への要望を羅列したのであるが，戦後12年，住宅難の様相は一時のような火急の場面を脱したとはいえ，市民の住宅に対する叫びは深刻であり，われわれの使命は今後なお一層重大である。戦前の住宅は已に老朽化しており，近い将来，爆発的にこれらの建て替えが，おおいかぶさって来ることが予想されるが，ここらで，恒久的な見透しのもとに出発し直す必要を痛感するのである。

（文責・大阪府住宅建設課　逆瀬淑委員）

杭

株式会社　武智工務所

取締役社長　福留並喜

大阪市西区西長堀北通四丁目一〇細野ビル三六号

電話新町㊸九九五～九九八

間仕切天井・には軽量鉄骨を・軽量鉄骨は日進式を御採用下さい・

耐震・耐火・軽量・堅牢

防錆完全・中空防音

合理的工法・責任施工

株式会社　奥村重兵衛商店

大阪市北区木幡町五六番地

電話北㊹四一三一～四

住宅政策の当面の諸問題について

— 建てる立場と住む立場との矛盾・都市計画の諸問題 —

主　催：編集委員会　　と　き：昭和32年1月29日　　ところ：近畿建築会館

深尾　それでは潜越でございますが，司会をやらせていただきます。不馴れですので，みなさまが助けて下さるようお願い致します。

現在，わが国の住宅問題について，いろいろと議論されているわけですが，その問題点について検討をしてみたいと思います。そうすると差し当り，政府が政策的に行っている住宅政策がまず問題になってくるのであります。とくに30年度から公団が発足したために建設戸数が増え，政府が投入する資金も増加しているので，これは誠に結構なことでありますが，他方政策的にいろいろな問題を含んでおります。この点について本日の座談会で議論していただきたいと思います。

話を進める便宜上，問題点と思われるものを初めに申し上げてみますと，

1．住宅を建てる立場と住む立場との矛盾，すなわち規模，需要の見方（戸数の割りふりの問題）

国民所得，居住水準をどこに押えたらよいか，所得からくる住宅の種別の配分の問題。

2．設計水準はどうするか

この問題は現在建てられている住宅は非常に低い水準であって，これで決していいとはいえない。しかし，現在やっているものも，国の財政の枠，それに入居する人の経済力を押えてみて一応のメドをつけてやっているのであって，これをどう解決するかということが問題です。

3．都市計画について

最近，とくに都市における住宅地入手難から起る問題ですが，都市計画の問題，これをやるとなると，住宅行政と都市計画との関連が非常に問題になってくる。それと同時に，大阪市内を歩いてもわかるのですが，いろいろな工夫をこらして，いろいろな住宅が建てられている。個々に計画された住宅団地で市街が埋ってゆくわけですが，都市としてでき上った時にそれでいいのかどうか。また，住宅地を市内の目抜き通りへ持ってくるとどうなるか。すなわち，併存住宅，高層住宅などの問題が出てくるのです。

4．不良住宅の改良について

最後の問題としては，現今の住宅政策でおきざりにされているような形になっている，いわゆる不良住宅，スラムの改良，こういう問題が現在あるかと思われます。

本日は，まず個々の家の質の問題，あるいはその居住水準に合わせた配分，設計水準の問題について議論していただき，次に都市計画的な面から住宅の建設をどうしたらよいかという二つの面から話を進めていただくとよいと思います。

Ⅰ　建てる立場と住む立場との矛盾

——家賃・所得・住宅の規模の関係——

絹谷　いま建てる立場と住む立場の矛盾といわれましたが，建てる立場というのは住む立場に従属すべきものと思うんです。それで矛盾があるとすれば住宅政策の矛盾だと思います。今年の石橋内閣の住宅政策として50万戸建設計画が出ていますが，建設省よりも公団住宅へウエイトをおいた案になっています。ここでは規模などの問題もありますが，家賃負担の問題が一番大きな問題となると思います。公営住宅から公団住宅に肩替りされてゆくことが，正面きって押出されている。これでいいのかどうか。

公営住宅応募者は公団住宅申込者にくらべて圧倒的に多い。もちろん，公団に申込む人もたくさんあるが，公営住宅に申込み，公団住宅に申込み得ない人はどうなるか。いろいろな型の住宅を供給すべきだとは思いますが，公営住宅を増やさないで，他の高収入——公営住宅申込者にくらべて——階層を対象とした住宅のみにウエイトをおくのは明らかな逆行と思います。予算がないか

らとすましてよいものだろうか。こうなると公営住宅は単に見せかけの政策かと疑いたくなります。

竹内　いま，絹谷さんの話に家賃の問題がありましたが，これが入居者にとって一番切実な問題で，公営住宅は希望者が多く，公団住宅は少いのは主として家賃からだと思います。同じ政府がつくるのに家賃の高いのと安いのと二通りをつくる必要があるかどうかは，いろいろ議論はあるでしょうが，私は同じものをやるなら入居者の所得とか，家族数を加味しなければならないと思います。

井上鴻太朗さんのお話では，アメリカのシカゴで低家賃住宅を政府がつくって成功している。あちらの低家賃といっても，2～3室あり，日本でいえば高級な住居，立派な設備のあるものになる。入居者は殆んど黒人であって，アメリカのように社会主義でない国でも，そういう政策がとられている。高いものと安いものと家賃の差があるなら，高いものは大きく，良くしなければならないと思うんです。

深尾　問題はこういうふうになるんじゃないでしょうか。所得の階層に合う住宅を与えるんだということは，その家族構成に合った生活に適当だという最少の規模を決めておいて，収入によって家賃補助をしてゆく。あるいは同じ家でも，いろいろな家賃をとり収入にバランスさせる方法と，また，いまの公団がやっている方式のように，建設費と家賃をバランスさせて，従って家賃を多く払える人には大きな家を，また少ししか払えない人には8坪とか6坪でがまんしてもらうということを原則として，適当な家賃になるまで政府が補助をする方法と，二つの考え方があると思います。いずれにしても，収入に合う家賃のものにするということでは同じですが，実際の面では非常に違うわけです。現在はどちらかというと，両方について安易な面を歩いていると思う。それについて少し意見を述べていただきたいと思うのですが。



塚本喜八郎氏　　竹内佐平治氏

絹谷　社会保障的な政策として家賃を補助してゆくか，あるいは建設を自由にして自由経済的に家を多く建てる建設側に資金を援助してゆくかという二つの問題になると思います。家賃補助政策として収入に応じて家賃を安くしてゆく，つまり居住者に対して，一定の比率をもって家賃を納めたらよいという方法は，日本では一律に国庫補助で家賃を下げるというもので，イージーにごまかされています。

しかし，自由経済のもとで，首尾一貫してゆくのだということで，公団のやり方のように設計を規格化して家賃を下げてゆく方式も大切で，この意味で公団の設立は意味はあると思いますが，これと社会保障的な制度と，どう関連させてゆくかが問題となりましょう。それが現在のようにこんがらがっていると，いい面より悪い面の方が出てくるのではないでしょうか。すなわち，こういう政策はやっているという看板だけあって，実際はその役割を果していない。

竹内　いまの公団住宅は高いから公営一本にしぼった方がよいのではないかという意見もあるようですが，いろいろな方式のものが必要とも考えられますね。うんと家賃の安いものもあっていいのじゃないか。公団の家賃にしても高いからやめろという程の家賃ではない。もっと高級なものも，たくさん建てられている。公営住宅の申込みが100倍で，公団は6倍だから，公営の需要者が17倍あるかというとそうではないので，希望として所得の何割かを住居費にあてることは，もともと予定していても，やはり入居するとなると家賃は安ければ安い程よいのは当り前だと思うのです。

渡辺　国家として国民の各階層に対して「バランス」のとれた住宅政策であるべきだと思います。

竹内　それはそうです。私のいいたいのは申込みが片方が100倍で，一方が6倍だとして，その割合と需要とは必ずしも同一ではないと思うんです。まづ安い方を希望してみて，当らなければあきらめて高い方へゆく。場合によっては二またかけているかも知れない。公営を2～3度やって当らなければ公団へ行くという事情もある

住宅座談会出席者　（順不同）

司会	深尾実郎	（大阪府住宅建設課長）
	渡辺禎己	（大阪市住宅管理課第二管理係長）
	塚本喜八郎	（日本住宅公団賃貸住宅課長）
	竹内佐平治	（住宅金融公庫大阪支所次長）
	鈴木嘉武	（大阪府住宅協会）
	山口正雄	（京都市建設局営繕課）
	前岡幹夫	（兵庫県住宅課長）
	絹谷祐規	（京都大学西山研究室）
	三輪雅久	（大阪市大理工学部都市計画研究室）
	牛田尹久子	（大阪市大家政学部住居学研究室）
編集側	佐野正一	（安井建築事務所取締役）
	足立孝	（阪大工学部助教授）



前岡幹夫氏　鈴木嘉武氏　山口正雄氏　渡辺禎己氏

わけですから。

塚本　結局，先ほどからの話のように国の各種の施策の戸数の配分が需要と見合うように調和がとれていないことは確かです。32年度は全体の住宅戸数は増える。公団も増える。合計戸数を増加すればよいという安易な考え方があると思う。公団住宅が増えて，家賃なり規模なりのバランスがとれるかということは別の問題として，求める階層はかなりあるでしょう。しかし，公営の家賃でなければ収入の点から入居できない人は実際は申込みに現われているよりもっと多いわけで，戸数の面でもっと割りふりを考えねばならないのではないか。低家賃のものが少いという不自然な状態ですね。しかし，そうかといって，国家の補助を要する低家賃住宅ばかり増やせば，財政上，国の負担が過大になる。要するに国力の限界まで国が努力しているかどうかが問題です。

深尾　そこで，ただいままでのお話で結論として，いまの政策は10坪見当で，これならまあ一応，文句をいいながらも屋根の下に入って住む——生活といえるかどうかは別として——公営住宅はこれ位にしてということになる。家のない人には，この程度で適当な家賃の家に住んでもらう。ぜいたくは望めないというわけです。しかし，問題はこのような家に入る人々は，わが国の中層階級だといえると思うのですが，この人たちの住居として，この程度のものを与えて，それで良いのかどうか。これは一応よく考える必要があると思う。最少限住居というか，それをおさえて，これから逆におさえていった方が話の結論というか目安をつけやすいのではないかと思うのですが，いかがでしょうか。

竹内　主として大きさの問題になるでしょう。内容は落すといっても，そう落せない。今のは最低限度じゃないか。

渡辺　最低を割っている位ですよ。

竹内　そして，いいものはつくっていないのですね。ぎりぎりの程度，先ほどの家賃の問題とも関係するのですが，例えば収入の限度はおさえている。収入が増えて，家族が7人，8人となっても同じである。今が最低ですよ。

深尾　住宅の質の問題について牛田さん，いかがでしょう。

牛田　現在の10～12坪の公営住宅は規模の点で最低だと思います。住宅の規模と家賃は相対的なもので，規模が大きくなれば家賃が上るという制約があります。家賃についてですが，建設省では住居費が所得の10～13%という線で考えられていますが，公団住宅の入居者では，この比率が23%位になっている例が相当あるようで，生活にひずみを与えているのではないかと思います。やはり，住宅に困っている人たちの収入を考慮して住宅を与えなければいけないと思います。

渡辺　規模を大きくすると必ず家賃が上るという今までの考え方，すなわち家賃は家によってのみ決まるというのをやめ，入居者の収入によって定めるという考え方をもっと入れるべきです。

牛田　現実には規模が大きくなれば家賃が上るんじゃないでしょうか。

佐野　渡辺さんのおっしゃるのは大きいのや小さいのをつくって大きい方から余分に家賃をとり，それを振り向けて小さいのから少い家賃をとってバランスをとり，かつ「バラエティ」をもたせるという意見ですか？

渡辺　公団住宅にしても公営住宅にしても現在の水準——規模では「バラエティ」のもたせようがない。あまりにも最低だから。公営住宅では家賃は建設費をもとにして償却費，補修費，管理費，火災保険料等を合計して定めているが，このうち償却費は建設費から国庫補助額を差引いた額を償却するような計算になっている。これは先ほど絹谷さんのいわれたように一律に家賃を下げることになるのだが，そういう一律に下げる必要はないだろうといいたいのです。収入階層と見合った下げ方を考慮すべきだと思います。

竹内　前岡さんの方で調べておられると思いますが，アパートで二間（フタマ），三間（ミマ）を同時に建てまして申込者はどちらが多いですか。

前岡　家賃が高くても大きい方が多いです。

竹内　大きい方が圧倒的に多いわけですね。

前岡　公営住宅は一種の政策住宅で国庫が½補助し，あとで原価計算していますが，公庫住宅は建築費を建築主の当代限りで負担している。そのため月々の償還金が高くなる。公営住宅に入る人にも収入はいろいろあるのだから，家賃の決定はわれわれに任せてほしい。高限は



三輪雅久氏　　絹谷祐規氏　　牛田尹久子氏

協会，公団にもっていき，それは実費以上をもらう。その金を下の方へ回すようにすれば，下のものに家賃を援助することになって，下は実際安くでき，ある程度下げられるのではないか。勿論高いのは少し良くする。家賃の巾を広くするわけです。こうすれば12～10坪のものでも比較的家賃が少くてすむ。それに私が考えているのは，これは皆さんの意見に反するかも知れませんが，いま一つ8坪位のものもつくる必要があるということです。落伍者も入れねばならないから――。三室住居を与えるまで待てとはいえず，社会保障の意味もあってしかるべきではないでしょうか。

深尾　収入に合う家賃を決めてゆくという考え方に，やや近くなるのですね。

国の政策が決まる過程と申しますか，それをみていると，例えばそういう政策の筋を要求する側には住い方を考慮した住宅の質の検討をやっているのですが，実際にきめるのは，そういうことをのけにして他の所できめてしまっているという面が多いと思われる。それを適当なものに修正することが正しいのであって，住宅政策はそうあるべきではないだろうか。その提案の根拠というか前岡さんの今のお話のことでも，そういうことをいっても，なかなかわかってもらえない。例えば公団で建てたものは家賃が高いわけですが，それを充分ペイできる人も実際あるわけですが，そういう家賃を払える人にとって，あの住宅が適当であるかどうかというに問題がある。国の政策はこうしろというように，そういうところまで問題をはっきりさせ，つきつめてゆかねばならぬことを私はとくに痛感しています。

――規模の問題・最少限住居について――

絹谷　規模の問題について住宅研究会でやったことがあるのです。竹腰さんにも来ていただいて住宅難を解決するにはということを討議したのです。規模の問題として，公営住宅にはもっと安い家として，もっと小さいのもどんどん建てるべきだ。また少し余裕のある人には大きいのを建てるべきだという意見が出ました。しかし，規模の決定には家族の型から考えねばならない。昔からもいわれているが，現在の公営の2寝室型――実は1寝室としてみる方が適当ですが――4人位までが限度です。5人以上はどうにもなりません。大きいものは高い家賃を取り，小さい家は安い家賃というのでは，多人数家族の住宅困窮者が低収入者に多いことを考え合わせると，うまくゆきません。むしろ現在の問題としては二寝室型の公営，公団住宅をどんどん建てて，家族分解を促進しながら，しかも収入にあった家賃を払えればよいように家賃援助をしてゆくという方向にもってゆくべきだと思います。

深尾　3寝室は何坪位ですか。例えば今の12坪～10坪半のでは3寝室は無理ですね。

絹谷　17～18坪という所になるんじゃないですか。給与住宅のR.Cアパートを見ておりましても，13～14坪のいわゆる公団型のものと，17～18坪と，両方にピークがありまして，その辺に一般の2寝室型，3寝室型に対する潜在的な需要が伺えるのではないかと思います。

深尾　三輪さん，いまの問題についてどうですか。

三輪　住宅の規模は現在の公営，公団では12～13坪で非常に小さすぎるのであって，戦前の大阪の貸家は平均4室，2階に2間，下に2間，坪数で18坪前後であったのですから，賃貸住宅は少くとも平均でその程度のところを目標としてゆかねばならないと思います。

深尾　第一次大戦後，例の最少限住居が盛んにいわれましたが，その結論といいますか，一応住居の型ができたわけです。ところで，わが国においては日本人の生活といいますか，たたみの上に住み，せまい住居しか建てられないのに玄関がある。日本人の最少限住居，これでなければ生活が成立しないのではないかということがあるか，どうかですね。まあ，これは考え方の問題でもあるでしょうが，それについて。

絹谷　戦後，すまい方調査が相当行われて来たのですが，これがある程度参考になります。最もそれ以前から西山さんが行われた調査で，食寝分離論が出されていますが。昭和25年でしたか，総理府の住み方調査の例では，1人当り2.5帖未満では食寝分離が殆んど行われていません。最近の住宅調査で1人当り2.5帖未満を過密としたのも，こうした結果からでしょう。就寝分離の点から，いろいろの公営アパートの調査の結果でも，4人が限度（夫婦，子供）になっています。これは全くギリギリの線で，どうにか住めるという程度ですが，現実の問題はそれが指摘されているにも拘わらず，実行されな



足立　孝氏　　深尾実郎氏　　佐野正一氏

いところにあると思います。いま建っているものは3～4人位に対しても，最少限といえましょう。だから最少限住居はどういうものかを議論する段階ではなしに，坪数を増やした家をたくさん建てるべく行動する段階だと思います。したがって，住宅困窮者の家族構成を調べて，4人世帯，5人世帯，6人世帯等々のための住宅を供給してゆくべきです。その場合，指標としては，現在行われている食寝分離，就寝分離の考え方を適用する方法でよいと思います。ただ，家族数一世帯人数といった方が適当かも知れませんが，これは将来，1単位当りだんだんと減ってくると思いますので，現在の家族構成をそのまま肯定することは，あやまりだと思います。ただ現在のアパートにイス式の生活を持ち込むとなると，3人以上は寸ずまりになるでしょう。とにかく最少限住居というものは，当時の生活水準と相対的な関係にあるので，絶対的なものは，かっての試みが示されているように，極めて困難なのではないでしょうか。

竹内　私も同感ですが，理論的には現実の住居は全部落第。今後はいいのもまぜる。でないと，何年か後には程度の低い家ばかりが，はんらんする。いくら政府のやることでも，徐々に生活を向上させるということも取り入れねばならない。

牛田　戦後，新しい住宅型のアパートが建設されているわけですが，私たちは，このアパートの調査から，居住者が住宅の型に適応した新しい住い方をしていることを見てきました。この傾向は，とくに若い世代で家族数も少い入居者に顕著で，生活意識も変ってゆくのではないかと思います。

深尾　問題は，いまの12坪のアパートでも適応する人があるということではなくて，入居者一般に全部が満足ということは出来ないであろうけれども，一応よいではないかというものがないかということです。我々はせまいというのですが，この間も神戸短大の竹内さんは，アパートは具合がいい，せまいなりに適応性を生かし，牛田さんのおっしゃったように工夫して，それぞれ住んでいるということです。これは誠に結構だと思うのですが，せまいという結論があれば，それでも適応さすのが正しいかどうか。現在12～13坪というアパートをたくさん建てている，それが次第に大きいものが建つ，そして今までのせまい住宅は，順次階層の低い人が住むことになる。そこにしか住めない人たちが集ることになる。

竹内　公営住宅は入れ替えをやらねばダメなんです。申し込んで，どうしても切歯つまって止むを得ぬ人も入っているのですが，家賃の高い所へ入っている人も多い。もっと高い所へ入れる人も住みついてしまう。やっぱり入れ替えねばダメなんです。8坪も必要なんですが，需要があるから，たくさん作るということは問題です。

深尾　8坪の住宅は下層を対象としているということになるのですか。

前岡　必ずしも，そうとはいえないでしょう。

竹内　8坪なんて最初から不良住宅ですよ。だが低収入だから，そこへ入ったらよいというのではないのです。止むを得ぬから，そこへ入ってもらっている。

前岡　6坪でも考慮しなければならぬと思うのです。ただ大阪でもそうだと思うのですが，入れ替えが簡単に出来る時代がくるかどうかが問題です。

牛田　昨年の秋でしたが，大阪市内恵美須町の所にあるスラム街の調査をしたのですが，この所にはバタヤ，日雇い層の人が住んでおります。この人たちの住いはバラック建ですが，その半数は借家で，家賃は日払いで100円位ですから家賃としては月3,000円を支払っているわけです。

前岡　今のところ住宅対策を総合的にまとめて建てる所がないように思う。それは建設省の役目だろうと思うのですがね。ところが建設省は今のところ，そこまではやっていない。大所高所から国の100年の計で，どう判断すべきかというところがないわけです。公営・公団住宅はこうすべきだと総合的に指図するところがない。

渡辺　低収入者は低水準の住宅に入るべきだというのは，おかしい。

深尾　問題は8坪でも家賃を少ししか納められぬ人は現状としては8坪でも，がまんしてゆく。それ以下の人は6坪ということになるのです。ここに問題がある。それから，もう一つは建設費から計算してみて例えば12坪で2,500―，8坪で1,000―，というと，なるほど買物として安いようにみえるが，実質的には安くない。これでは，かかっただけ当り前に払っていることになる。低

家賃とは，そういうものでない。低家賃とは家賃1,000円の家と同じのものを，片方では例えば500円でよい。これが，むしろ低収入者用に対する政策だということができると思うのですがね。

竹内　いろいろ考えますと矛盾だらけなんですね。どこで線を引くか，あるいは妥協するか。家賃からいえば，ただから最高まである。さらに困るのは，ただにする上に生活補助もしなければならぬ。安くしても，8坪で救えぬ人たちの対策がかけている。戸数を増やす。大きいのばかり作れぬ。最少限12坪でよいとしても，12坪ばかり作ればよいともいえません。理想的には大きい方がよいとしても国の金を使うのにはキリがあるのだから，これも困る。

塚本　規模と家賃とが悪循環しているのです。家賃負担の面からは8坪の住宅にしか入れぬ人も，家族構成の面からみれば，はるかに大きな規模の住宅を必要とする場合が多い。

——居住水準・その他——

渡辺　今までの住宅政策が建設戸数に重点が置かれ過ぎ，住居水準を高める努力が足りなかったのではないかと反省させられます。戦後12年になって一番解決のおくれているように感じられます。

深尾　終りに一つ，現在の公営住宅もある程度の規模をよくする，それが人間の生活を伸ばしてゆく。日本人の生活もまだまだ伸びる。住居の水準もまだまだ伸びる。そういうものを考慮した時，現在建てているものはどうなるか。これについて，ちょっと簡単に。

建設の時，われわれは入居者の階層を考えて，適当と思われる敷地に団地計画をするわけですが，例えば，相当いい敷地に一つの階層が入ってくる。そこが，やがて低くなる。これは後の都市計画の問題とも関連するのですが，極端ないい方をすれば次第に入居者の質が落ちる，逆にいうと，スラムが現在の団地のようになるとすれば，まことに結構なことだということになるのです。ところが，現在の団地の環境からいうと，いろいろの点から，そう下の人たちでは住めない，それでいいものでしょうか。

塚本　12坪がせまいから現在の団地がスラムになる。これは疑問だと思うのです。今後，家族数が増加したり，経済力が向上すれば，より大きい住宅へ移ってゆくことにすれば，家族構成の適当な人たちばかりの集りになる。今後，規模の大きな住宅が建つことと，管理をよくすることが前提になりますが。

竹内　塚本さんが今おっしゃったのは都市計画的に考えると問題はあまりないという意味ですか。

塚本　現在，10坪なり12坪なり，14坪の住宅がある。今後，適当な広さの家がどんどん出来てゆく場合は，そういう小家族の世帯の占める割合が，いま建っている住宅数とバランスがとれていれば，入れ替えによって解決できると考えます。

竹内　逆に，そういうふうにした方がいいという考え方もある。収入の高い人は高い家へという傾向がある。10年，20年先では，そういうことがある。国全体の目標だが，今の理想型というものが，いつまでもそのままではない。金のある人はいい所へゆき，残るのは力のない人ということになる。都市計画的に考えねばならない。

渡辺　ある程度はそういうこともできるが，規模だけでスラム化するかというと，そうはならないと思う。

竹内　台湾の「やん」さんという人が来ましたが，あの人は住宅を見せてほしいというので案内したのです。欧米のも見て回ったそうですが，参考になったのは日本のであって，欧米のは少し高級すぎるということでした。市の川口ビルも洗濯，乾燥設備などを見て感心していました。ただ，日本としては外国の程度の高いのを参考とすべきでしょうね。台湾の人の参考になったということで安心してはいられないと思います。

Ⅱ　都市計画の問題

深尾　つぎに都市計画と関連する問題について，三輪さんからひとつ，どうぞ。

——責任の所在——

三輪　住宅政策でも同じでしょうが，結局都市計画においても，ある一つの地域での責任をどこが持つかということが問題であります。現在では，その辺のバランスがとれていないため，先ほど述べたように，その間の連絡がかけているのです。いちばん主体になるものは，市町村とか府県という自治体を育ててゆかなければならない。最近では宅地の再開発が問題になっている。日本では他の国に比べると木造のため建て替えることは技術的に簡単ですが，これも無暗にどこでもやるべきでなく，住宅を建てるという面からみれば，住宅を入れてよい所と悪い所とあり，大阪を例にすると，都心部（船場）はこれ以上住宅を増やさないで，住宅はその外側へ建てることが望ましい。

大阪西部の工業地帯では，住宅が局部的に不足し，例えば，市の協会で建てた住宅への申込みが非常に多かった。再開発は，このような局部的不足を満たしながら全体として計画に乗せてゆくべきだと思います。

郊外でも無制限に建設するより，それぞれの地区を近隣単位に構成してゆくように心がけることが必要であろうが，現在では各事業主体間での調整が困難で，結局，一番問題になることは，責任をもつところ，つまりその地区での計画をたて，それを守ってゆくところが一つでなければいけないと思います。そのプランに従って各々の事業主体の方で，それに即応して建てることが出来れ

ば理想的といえるでしょう。

深尾　ただいま，三輪さんから都市計画をやる機関をまとめ，組織を強力にするということが出ましたが，この問題についても日本の今の行政のやり方からみても，そこまで行くには相当に抵抗があると思うのですが，その点について。

前岡　今，それに突き当っていると思います。もう一つのことは，日本の将来の住宅戸数と農地の問題です。将来，農産物の必要性，必要量等がきまれば農地は確保しなければならない。現在，住宅がだだっぴろく郊外にどんどん住宅が建てられている状態なのです。

深尾　具体的に現実に障害になるようなものについて，あるいは現実にこういう場面はいけないではないか，という例があると思うのですが，例えば今までの区劃整理でやっていたブロック割りが，現在非常に不都合なものになっている。

三輪　そのような例は，大阪市古市の団地においても計画道路と団地計画との折り合いに骨が折れたと聞いています。至る所で，このようなトラブルがあります。これは現在の都市計画の欠陥と，住宅建設の欠陥とがぶつかるわけで事前の連絡調整を充分にやってもらう必要があると思います。

渡辺　連絡位の程度ではいけなくなっているのです。

——地域制について——

深尾　もう一つの問題は地域の問題でしょう。これがまた工業地域に住宅を建てるというので計画の方の人たちと議論をするのですが，理論的な，また合理的な将来を見透した都市計画が全然できていないといってよい。都市の過渡地帯についての整理について何か。

三輪　併存住宅による再開発がまず考えられますが，都市計画，あるいは住宅問題の始まりは過渡地帯なのですが，おそらく一番むづかしい問題ではないかと思います。都心部では，先に申し上げたように，住宅をいれないようにしたらいいと思います。都心部には，どうしても日常生活に必要な施設が整わないし，そういった施設は都心としての施設には邪魔なため，満足な生活ができない事情があるからです。住宅を都心部にいれると，うんと広い範囲に対してでないと，そのような店あるいは学校は成立しない。

深尾　現実には人が住んでいるし，そういう都心を離れて生活できない人たちもあります。そのような人たちを今後どうすればよいか。

竹内　東京で横山町を集団建築に建てなおすということが具体化され，三月着工という新聞記事がありましたが，地元の人たちが何故熱心になっているかを聞いてみると，これはだんだん郊外に住宅が移り，夜の人口が郊外に出てしまうようになると，地元の商店が成り立たないため，下を店に，上を住宅にして，人々を市内に呼び戻したい。こういうことから熱心になっているそうです。

絹谷　都心部に併存住宅を建てない方がよいといわれましたが，都心部をかなり広範囲の地域と考えると，現実としては，都心部になんらかの生計の保証をたて，しかもそこに住んでいる人がありますが，そういう人をどうするか，ということが問題だと思います。

併存住宅はこういった問題で，やはり考えなければならないでしょう。それには土地の所有権をどう処理していくかということが問題です。

要するに，個人的では不可能であって，その土地における利益を組織的に立体化することが必要なのです。

深尾　その点，日本の中小企業，商業の形態の中にそういうことを考えてやらないと成立しないようなものがあるのではないですか。

三輪　私のいっている都心というのは，比較的せまい地域の意味で，中の島，北浜，船場地区あたりを指しているつもりです。この辺では居住者も極めて少い。

例えば，本町付近のビル街では，女子 100 名に対して男子 300 名で，居住している人に普通の家族は殆んどなく，大抵は店の使用人で，経営者たちは，みな地域外に出て居住しています。さっきいったことは，その意味なのです。

渡辺　先程いわれた東京の住宅でも，また元へ戻ることを期待しているといわれましたが，外に出ないで，そこにいるような状態にすることは出来ないものです。

三輪　個々には出来るでしょうが，やはり相当数の数が居住しないと学校や商店で忽ち困ってしまうでしょう。

深尾　そうなると大きなブロックを対象にして，遠大な計画をたてなければ出来ない。そのためには場合によって人を動かすようなことを考えてですね。これは理想としてはよいが……。

三輪　そのとおりですが，現実にすぐには無理だろうと思うのです。今のところ小さい団地の計画ができていますが，まあこの位のところが実現の限度なのでしょう。もちろん，その一つの，それぞれの地域で将来どのような地域にしたいという目標，つまり都市計画の目標がはっきりしていれば，1ブロックづつでもよくしていって，長い期間の間にはよいものをつくってゆけるのではないかと思います。

——スラム・クリアランスについて——

深尾　そこで不良住宅改良の問題にも関連するのですが，いま不良住宅地区に住んでいるような人たちはそこら辺にある何かに定着していて生活しているので，それを離れては生活を維持して行けない事情をもっています。そのような人たちの取扱いには相当問題があるよう

に思うのですが，現在の都市計画では，それらに対する計画ができていないように思います。

三輪　スラムは，現在の産業構成では絶対に不可欠なものであるともいえるので，他に迷惑のかからぬよう，できるだけ小さく分散することを考えてゆかなければなりません。

深尾　そうすると理想の都市を考えておいて，徹底的に都市を改造するというところまで突っ込んでいくには計画をまず明確に画いておくことが先決ですね。

三輪　理想的な都市のパターンがはっきり決まり，いろんな事業がそれに結びついていかねば，どうどうめぐりに終るでしょう。

鈴木　私の方でも一応計画ずみの中に三階建ての住宅を建てたが，結局もとの計画はどうなったのか等の質問が多く来ました。それからも土地にひっついて生活しなければならない人も相当にあるのではないかと思います。

先程いっていた北浜あたりでは，住居をもっていない人もありますが，まだどこに線を引くべきかに問題がありましょう。

山口　都市計画道路とスラム・クリヤランスについてですが，京都市では京都駅付近の都市計画道路と緑地帯の整備事業と併行して，同和地区のスラム街の住宅改良事業と戦時中疎開した空地内の無許可バラック住宅の立退き事業をやっています。

同和地区内の商店を含んだスラム居住者は，その土地に執着心が強いので，団地内にアパートを建て入れる予定で併存アパートを外周道路側にとり，団地内は専用アパートという約250戸の中層アパート群を形成する計画ですが。都心部は高層アパート群がよいという意見もありますが，京都の性格と同和地区内居住者の要求に支配されて，このような形で進んでいます。

実施に当って，問題の無許可バラックの立退きが順調に進まず，30年度に中央部に専用アパート24戸が建ったまま以後ストップしています。

このような事業は都市計画事業法や公営住宅法を基にして土地強制収用をする措置はありますが，強行するとハネ返りが強いと思われるので，話合い一本で進めています。それから，このアパート入居者決定についても，撤去するスラム地区居住者の中で転居を望まぬものもあって計画的に間引くことが出来ず，撤去跡地が中途半端にあちこちに残るという現状で次の建設に支障をきたし，弱っています。

深尾　こういう問題に関連して，一つのブロックごとの形式，ブロック・プランをどうしたらよいか，という問題も起るわけです。とくに併存住宅を建てるような部分については，とくに現在普通に行われているような建て方，すなわち敷地の周囲をとりまいて，いわゆるビルの谷間のような市街地をつくってゆくというやり方は正しいかどうか，この辺の考え方で，これらの敷地の集合としてのブロックの形も変ってくると思うのですが。

——都心部の建築形態——

三輪　いろいろの地区の建築形態の問題はデザインの問題ですが，例えばR.Cアパートの形が現在は一応きまったものになっています。しかし，このような形態を発展させる最大の要素は，まず設備の進歩で暖冷房が先に普及するのではないでしょうか。そうなれば形態もそれに伴って，もっとよい形態が生まれると思います。現在の居室南面という条件なども，かえうると思いますが。

深尾　米国では方位を比較的問題にしませんね。スラム・クリアランスの住宅でも3寝室位で暖冷房がついているということです。このようなことは，日本においては当分望めないのですが，片方では我々の生活は年々大きく立派になるにもかかわらず，現在行われているようなもので都市を埋めてしまってよいのかどうかが問題ですね。

三輪　それはデザインの問題も関係しますね。

深尾　いや，デザインをすすめる以前に解決しておかねばならぬことが多いと思うのです。

三輪　設備，とくに暖冷房の普及によってデザインが変化するのではないでしょうか。それを予想して，都市の建築形態をきめてゆかねばならないと思いますが，必要なことは交通用空地，緑地などを，どの程度までとったらよいかで，その先は個々のデザインの問題になると思います。

深尾　極く雑に計算したのですが，現在の公営住宅の規準で大阪市内の一番外側に，平家，2階建等，その内側に中層，中心部に高層住宅をつくる。これらの各地区の面積の割合を高層の部分の面積が15%，中層35%，低層50%の割でゆくと現在の大阪市の市域で，1000万人位の人口が入る計算ができます。—もちろん，これは計算しただけで，このような大きな人口の都市を作るというのではないのですが—公営住宅の規準ですから，一戸当りの敷地拡張も，隣棟間隔も現在の市街地よりも相当ゆったりしているわけです。ところが現在，都心部に建っているような建て方でやってゆくと，これは，とんでもないことになりかねない。その上に現在の人口でさえ，道路，交通機関，公共用地，緑地等について，すでに問題があるわけです。

竹内　科学的進歩が激しいから，あまり先のことは予想できないですよ。他の条件がそのままでは都心部だからといって高層にしてもダメだ。ただ現状位の様子では都心部を高層にするという考え方で，それほど支障は起らないでしょうね。建つ場所には，どんどん建ててよいのではないかと思うのです。

前岡　日本の人口をどの位でおさえるかという問題か

ら出発して，都市の規模や諸条件を決めてゆかないと本当の答は出ません。

深尾　ただ問題は産業労働者のリバーザーが農村なのですがね，悪いことに生産方法が進んでゆけばゆくほど日本全体の人口はおさえられても，放っておけば都市の集中は激しくなります。

竹内　外国の進んだ都市では，都心部は割に5～6階が続いていますし，一方には道路や公園など，至る所に配置されています。

——結　び——

佐野　私は門外漢なのですが，理想的なあり方は，みなさんそれぞれ考えていられると思うのですが，個々の意識だけに止まっていて，大きな力となってまとまっていません。お互の間に断層があると思うのです。

日本の住宅観は，仮のやどりというように住居と生活とが結びついていない傾向が一方にあり，他方には自分の地位と財産を誇示する個人住宅という二つのことが支配する状態であって，生活能率を中心にした考えが不明瞭なのです。生活意識と結びついた住宅というものの考え方が欠けているのではないかと思うのですね。

なお，これを根本から直してゆかねば，いつまでも住宅問題は泥沼の中にあるのではないでしょうか。外国では生活の中心として住宅を考えている傾向がはっきりしています。住居費に対する支出にしても，ある程度の割合のものは当然であるという啓蒙が必要なのじゃないでしょうか。

深尾　日本では住宅問題は，ずいぶん大きな課題として騒がれているのですが，実際は当事者だけが，いろいろ苦労しているだけで，建築関係者全体の問題として研究をして，まとめてゆくということについては，どうも欠けているようですね。

佐野　住宅には何といっても建築関係者のうちでは一番たくさんの人が従事していると思うのですが，奇妙なことに統一した考え方なり動き方がないということは，何とか改めたいですね。

竹内　住宅政策の専門家がいないのですよ。

建築屋は重要な役割を果していても，都市計画にはタッチできない，その都市計画は土木でも建築でもない，何かはっきりしない理念で流されているのです。

本当の意味の都市計画の専門家がまず必要で，これと一体になって住宅政策の専門家が出てきて，仕事なり予算なりを通用してゆく責任態勢がなければいけないです。

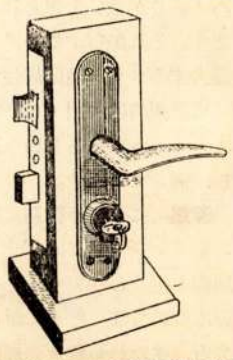
渡辺　住宅問題が国民全般の関心事になっていないようです。関心が持たれているようで，実は正しく把握されていない。それが32年度の予算でもよく表われているように思うのです。

「1000億減税，米価値上」では低収入の庶民階級は救われないというので，米価値上は取止めになる。一方，家賃の廉い公営住宅は減って，高い公団住宅が大幅に増加しているということには住宅関係者以外，誰も問題としない。実際「住宅に困っている」と騒ぎ回っていた人も，何かの機会にどこかの住宅に入居すると昨日までのことは，ケロリと忘れてしまうというところがあります。

来年度の予算の中で建設予算の中の住宅予算をみると，昨年度と比較して何割かがふくれるということは，非常に有難いことですが，資材の供給，労務の供給からインフレ傾向を示すおそれはないか，建設業界に好況をもたらすのはいいが，他方に労務，資材の高騰や入手遅れを起させないか，というような綜合計画があるのかどうかが問題になると思うようですが，とにかく今からでも建設業界，官庁で充分対策をたてておいていただきたいと思います。

深尾　大体，佐野さんの話をきっかけに，しめくくりが出来たようです。もちろん問題が問題ですから，結論が出たとはいえませんが，重要な問題点については，それぞれ御意見が出つくしたと思いますので，この辺で打ち切りたいと思います。みなさん，どうも有難うございました。

TRADE YALE MARK
世界のエール錠前
米国エールエンドクウン製造会社
関西販売代理店
株式会社 菅商店
大阪市西区南堀江通三の二〇
電話㊒ 7371～3
支店 福岡・名古屋

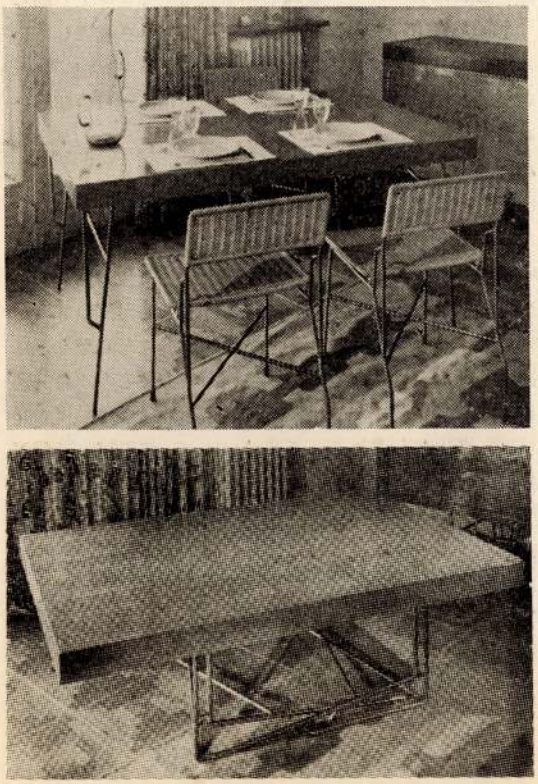


これからの住宅と家具について

住宅委員会

現今の住宅の家具は，従来の座式生活に用いられて来た家具から，椅子式に変りつつあるといえる。それは戦後若い人，子供の服装が，洋服化したということが，住宅の椅子式の普及を，非常に早めることになったと思う。最近の市販の新入学期の子供の勉強机のセットも椅子式が多いし，嫁入道具も日本箪笥の代りに洋服箪笥・洋式の化粧台に，移り変ってきている。

従来椅子式の家具といえば，客室の応接用として，家庭の一部にあったが，それは家族中心の本来の目的として使用されたものではなかった。これからの住宅の家具というものは，生活に即したものになっていかなければならない。従ってこれからの住宅家具はどうあるべきでしょうか。戦後の住宅の不足から大量の住宅の建設が緊急の課題で漸くその緒についてきたが，敷地や建設費の増大によって，住宅は合理化され，コンパクトされなければならなくなった。したがって住宅の家具にも，住宅のプランにもそれが織込まれなければならない。従来の住宅の押入れのような，6尺に3尺という，夜具以外の用途には，非常に使用不便なものが，何個処もあるということは考えなおさなければならないことではないか。住宅は世帯人数によって，押入れの延間を考え，夜具以外の押入は洋服ダンス或いは戸棚，整理棚等々，合目的のある造付家具として，住宅建設に設備されるべきではないだろうか。



A （上は食卓子，下は団欒時に茶卓子に代った状態）

在来の日本の木造住宅というものは，壁，建具，柱など，機能的に合理化された尊い歴史をもっていながら，家具と住宅との関連が，あまりにも考慮されて居らなかったのが，現実だろう。終戦後コンパクト生活をせざるを得なくなった今日では，住宅の設備に就いては，建築と家具はもっと緊密であるべきで，もっと規格さるべきであると思われる。

住宅の家具と，建築の関連を考えてみて，前記の如く建築自体に造り付けられる家具と，単独に移動するポータブル家具とに分けられる。寝室の洋服ダンス，整理ダンス，台所の食器棚，流し，調理台等がそれである。また他に家庭の生活の上から，家具をわけるとすれば，即ち，休息用，団欒用，仕事用と3つに分けられる。住宅の家具は即ち，

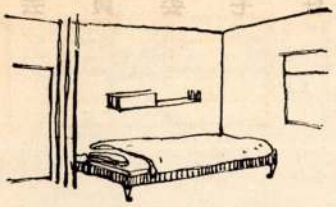
◎建築に造り付けらるべき家具と考えられるべきものは

玄関　履物戸棚，傘立，外套架類
食堂　食器棚，食卓子類
居間　飾棚，物入類
厨房　流台，調理台，食器棚，調味料等の整理棚，冷蔵庫を入れるニッチ等
寝室　洋服ダンス，整理ダンス，化粧台，ニッチ（和箪笥を置くべき）
子供室　ベッド，書棚類

◎移動家具として，考えらるべきは

玄関　靴脱椅子
食堂　椅子，卓子，サイドボード等
居間　椅子，卓子等
寝室　椅子，化粧台，腰架等
子供室　机，卓子

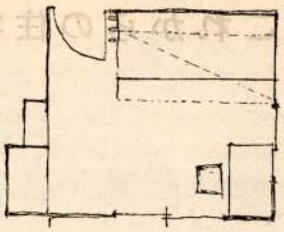
と考えられ，卓子類，椅子類，以外は殆んど造り付けられるべきものである。これら住宅の家具は，年々急速に普及している。だから前述の如く，造り付けに類する



B　夜　間



昼　間



PLAN.

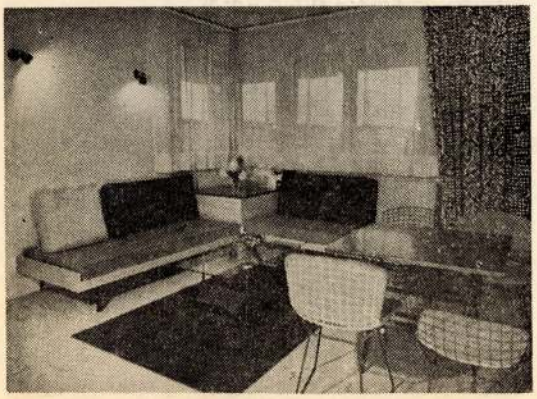
家具は各室の合目的によって，建物にとりつけるべきであって緊密なる規格のもとに，あらかじめ建設中にとりつけるべきものである。それが新計画に建てられた住宅の家具に囲まれた狭苦しい不快な，朝夕の生活から救うこととなる。

将来の生活は，より合理化され，より機能化されるべきであって，家具もまたそれに準じて変っていかねばならない。

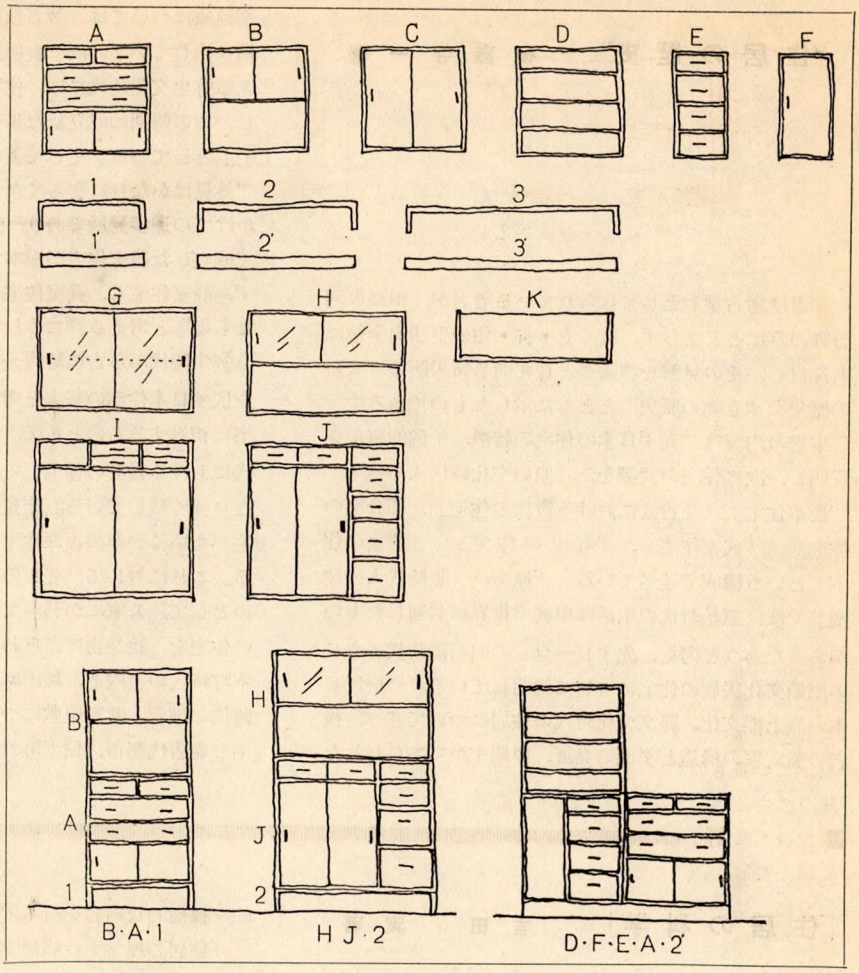
住宅の家具の団欒中心のものは非常に低くなってきた。食堂，居間の兼用が多くなってきたために，米国の最近の食卓子は，食事がすめば，団欒の茶卓子に代って，高さが自由に，変えられるものがある。(A図参照) 又食器棚サイドボード等の，家具によって，部屋の区切をしているものも見られる。最近金属が非常に使われるようであるが，外観は非常に軽い感じがするが，決して見たほど軽くなく，住宅には重くて，感心できない，特に椅子類は面白くない。

家庭，主婦の朝夕の夜具の出し入れに，非常に労力が費してと思われる。現在の住宅では専用の寝室は許されないかもしれない（和室の夜間の寝室，昼間の居間の互換性は利点である）が，ソファーベッドやコーチの，利用で労力が省かれる。写真のようにベッドを美しい裂地のカバーによって，昼間はソファになる。また造り付け長椅子にもなる。(B，C参照) 簡単に述べれば疊一疊を木枠の中に落しこみ脚をつけて高さ1尺位のベッドをつくる。敷蒲団にカバーをかけ，掛ふとんは折りたたみ，それで全部カバーで覆い，適当なところに置けば立派なソファーの形となる。枕も，カバーで覆ってクッションにするのもよいと思う。これによって，寝室も昼間は居間として使う事ができる。

ふとんの出し入れのできないような子供でもこれくらいのことは自分でできるかと思う。なお，和式の床に寝るよりも，床上1尺くらいのベッドを使用する方が，衛生的だと思う。1日中の室内温度の差が一番少いのは，床上1尺ぐらいの処であるし，ほこりも少いし，湿気も少いとも，医学的に，A博士が，発表もしておられる，和室でもデザインによっては，ベッドを使うこともできる。その他寝室および昼間厨房などの整理ダンスや，書棚，食器棚，流台類の家具は造り付けとすべきであるが，又 Unit 家具として，各種の単位化された家具の，その組合せによって，合目的を達することもできる。（D図参照）これは日本の三つ重ねの和箪笥のアイディアと同じであって，ドイツのシュスター氏は戦前から発表している。我々日本人は日本建築の，疊，建具，柱など Unit の組合せによる永い歴史を経てきながら，洋風の建築となると，建具の一つ，スティールサッシュの一つが，なかなか，規格されない。また家具においても然り，これは，デザイナーと共に生産業者も共々に今少し反省して，少くとも建築に共通する材料，家具などはもっと Mass pro にもっていくべきであろう。今後の家具は合理化された形態と Mass pro によってこそ良質のものが安価に生産されて，現在の特売品的家具はだんだんと見捨てられていくのであろう。これからの住宅の，造付家具と，移動家具は，（仕事用，団欒用，仕事用）マスプロに，漸次移行される。デザインによって資材，工程が検討され，それを科学的生産工程に移して，生産する専門業者ができなければならないのである。寝室，居間，厨房などの家具が，専業化されねばならないのではなかろうか。日本は，明治，大正，昭和と急速な歴史の発展より，国民生活の変遷は第一に疊式と椅子式の2様，和服と洋服，食事についても箸とスプーン，米食とパン食と，実に日本は，余りにも，バラエティに，富みすぎる。そこに生活の面白さがあるといえばそれまでだが，余りにも生活に無駄が多いのではないだろうか。建築においても，和式洋式などがあるように，日本人の生活様



C　シングルベッド2台を昼間は室内の隅にコーチとして使用している



D Unit 家具

式からも。以上の如く住宅の家具が合理的なものになるとしても……。

またそう考えても一つの大きい悩みがある。椅子式の生活をする住宅は暑い夏は却って凌ぎいいが，冬の暖房を如何にしたらいいかという問題がある。日本人一般は室内の暖房があるということを贅沢と考えているのではないだろうか。火鉢を囲んで丸くなって，寒がりながら暮すのを当然と思っているのではないだろうか。ガス，水道，電気の如くスティームを各家庭に，パイピングで送ることはできないものだろうか。夢物語だがこれが実現が，できたら如何に，快適な家庭生活が，生れるだろう。現在アパートの各家庭で費す燃料費よりも，アパート全体に暖房があった方が割合に安価になるのではないか？　建築中に暖房の設備をこしらえて，冬期といわず，その費用を10年と仮定しての月割で考えてみたらどんな経費の数字がでるだろうか。室内暖房が完全ならば，火災も減少するであろう。暖房の共同方式が実現できないものだろうか。それと同時にもっと安くなる暖房方法はないだろうか。椅子式の生活が普及しつつあるが，この問題が何とか解決されなければ，椅子式生活は余りにも寒いものということになって了うのではないだろうか。国民大衆の生活は，国家政策として，建てられる集合住宅には少くとも夢物語の幾分かは，満たしてほしいものである。イタリー映画 IL TATTO（屋根）のごとく，我国もまだまだ，住宅難は解決されない。また，住宅家具の将来も，苦しい試煉を，経なければならない。住宅とともに，その夢の実現に，ベストを尽されねばならない。

（文責　内外木材工業株式会社　**斎藤四郎委員**）

“住居の歴史”　後藤守一著

本書は考古学者としてしられている著者が，単に専門分野のみにとどまらず，広く衣・食・住の生活史全般にも注目し，その見解を啓蒙書として同じ新書版の“衣服の歴史”“食物の歴史”とともに示したものである。

本書の内容は，先ず日本の住宅の特徴，予備的事項を説明し，次に住宅の変遷を，「原始文化時代人の住宅」「農本住宅」，「古代における貴族の住宅」，「公家の住宅」，「武家住宅」，「町家の住宅」，「農家の住宅」という構成で述べている。「原始文化時代人の住宅」では，原始時代の生活は単純で世界に共通したものがあったろうと考え，先ずヨーロッパ旧石器時代，今日の原始文化民族の住宅について説明している。ついで日本の無土器文化，縄文文化時代の住居について述べ，後者の竪穴家の構造と平面の発展，中期末からあらわれた平地家については，著者独自の見解を加えて生き生きと描き出している。次に食物採捕生活から食物生産経済に入る弥生文化時代には，住宅の上にも大きな変化が生じ，この時期に成立した日本的な特種な住宅を「農本住宅」としている。そして著者は日本の「農家建築」は，“外見はかなりに変ってきても，それは中世から近世にかけての進歩発展であり，弥生時代から古墳時代にかけて成立した農家住宅が根本であり”“農家住宅のみならず，商家住宅も，武家住宅も，これを根本として発達したもの”と考える。こうして，この「古代」—著者のいう弥生時代から古墳時代—に成立した平地家・農本住宅を広く日本住宅の基本と考える。また「古代」に農本住宅に相対するものとして，少数の豪族貴族の住宅を「古代における貴族の住宅」で述べる。次に，この伝統をかなり強く残している。奈良時代・平安時代の「公家の住宅」をいくつかの復原住宅と寝殿造によって述べている。これに対して，先にのべた農本住宅の系譜をひくものとして，公家にかわって地方の豪族からおこった武家の住宅を，絵巻物にあらわれる長者や，武士のやしき，室町時代の主殿造，桃山時代の書院造，数寄屋造，江戸時代の城郭，武家屋敷についてのべ，次に「町人の住宅」を古代都市，城下町，門前町，宿駅港町にわたり極

書　評

「住居の科学」　吉田　実著

住宅を建てるということは実に難しいものである。建築家が腕をふるっただけでも，学者が名論を吐いただけでもよい住宅はできるものではない。居住者と，建築家と，学者とがそれぞれの立場から相協力してはじめて，それは可能となる。そして現在，「住みよいすまい」をつくるためには，お互に意見を出し合い，たたかわせることこそが望まれているのである。そういう意味合いからいって本書は学者ではない実務家の手になるものとしてユニークな意義をもっている。著者もまえがきで述べているように本書は，専門的な住宅論がのべてあるわけでもないし，また専門技術面での新しい発表を試みているわけでもない。著者の実務体験を通じて蓄積した見解を随筆風に敍述したものである。全体は2，3頁程度の小文を幾つかの章に編集したものであって一貫した体系がたてられているわけではない。本書の内容は大きく2つの部分に分けることができる。その第1部は「住居心理学？　病理学？」，「日本の住居における封建性について」，「住居とは」，「雑感」の4章からなっていて，いわば理論的な部分をなし，第2部は，「家を安く建てるには」，「住宅設計のノートから」の2章で，実務的，技術的な内容を持っている。

「住居心理学？　病理学？」では住居と人間の心理，生理との間の微妙な相関を，体験した実例を中心に説明していて，本書の中で最も興味深い1章である。住宅の平面，外観をみただけでその住居の生活内容が容易に読みとれるという話，子供の部屋が確保されることによって子供の生活が目立ってのびのびするという話など，実務家たる著者なればこそという味わい深い文章である。ただ著者が個人住宅を対象とする建築家であるためか，全体として個人住宅（持家）にウエイトがかかりすぎて，アパートには非常に点がからいのは一寸納得がいきかねる。例えば同章の「アパートノイローゼ」の項では，都営RCアパートにやっと当選して喜び勇んで入った人が，規格的な部屋と，低い天井からの圧迫感，湿気などのためにノイローゼにかかったという実例を描出している。現在のアパートの平面，造作が居住者にとって充分快適なものであるとは決して思わないが，そうかといって，そこから直ちに，コンクリートの床と壁とで仕切られた空間を借しつけて内部の仕上げを住む人の自由にさせよと提案するのは，やや性急にすぎはしないか。それは個人住宅（持家）主義的に考え方に容易に誘導される。個人住宅建設の促進はもとより結構であるが，同

く簡単に触れ，最後に簡単な村落の形成と農村の発展の紹介と，各地の農家のプランを中心に「農家の住宅」が述べてある。

更に，著者は巻頭でも述べているように，“住宅，つまりどんな家に住んでいたかということだけが「住居」のすべてではない。その住宅の中に住んでいる人々，つまり家族が家の中でどんな暮しかたをしてきたかということも，「住居」の1つの問題であろう”という見地から，「家と家族」の項で家族制度の問題を扱っている。これは古代から江戸時代に至るまでの家族史と昔から残る地方風俗により家族とその内部の家族関係を述べたものである。またあかり（照明）の歴史や，「家造り」の項で，大工とコイの問題，工具技法の問題にも触れている。

先にも述べたように，著者の専攻である考古学の分野では，独自の見解を示し生き生きと記述しているが，後半は全体に幾分新鮮味を缺いているように思われる。これは，著者が「古代」に成立した農本住宅—これが日本の住宅の基本であることは認められるが—を余りに強調し，農本住宅とそれ以後の住宅の“根本のつながり”を極度に重視することが，かえって農本住宅以後の住宅の進歩発展の過程が軽視される結果になったように思われる。そのため全体の住居史の流れが，表面的な解釈に終り，敍述平面的になったためではなかろうか。このことは，本書において明治以後の住宅について殆んど語られず，“大戦以後は住宅の不足から，住宅は寝泊りができればよいというようになり，都では，アパート生活に甘んずるようになってきた”とか，“農村は保守的であった”が，“今日は農村も進歩的になった”といいきってしまう考え方とも深いつながりがあるように思われる。

現在，こうした小冊子の中で住宅史に関するすべてのことを記述するのは，大変困難なことであろうと思われるが，もし著者も指摘しているように，時にははやく，時にはゆるやかに流れてやまぬ大川のような社会の歴史の流れの中で，住宅の分化，発展の過程があとづけ描かれたら，はるかに一層興味深いものとなったのではなかろうか。

ともあれ，本書は一般教養書として，私達の住宅と住生活の史的な理解をたすける1つのてだてとして，その目的を果しているといえよう。またここに提起された「古代」にすでにみられる文化系統の差異による住宅の地方性，集落の形成，展開と住居，住居の生産と技術，住居と家族形態……などの問題は，今後の日本住宅史研究の大きな課題となるだろう。（**西川幸治** 京大大学院）

書　評

時に今日わが国庶民住宅層に益々比重を増しつつあるアパート，およびそのアパート計画にたづさわっている建築家の努力に対して正当な注目と評価を与えるのでなければ，一般庶民の注意をひきとめる力は極めて稀薄なものとなるに違いない。

「日本の住宅における封建性について」では，玄関，客間，台所，女中部屋，タタミ，屋根，について，一般に未だ根強く残っている封建性を鋭く指摘している。玄関や，客間を不当に重視したり，屋根を複雑に架構して，高い建築費を浪費しているバカバカしさを巧みに描出してみせているが，一面，封建性を強調するのあまり，やや公式的な割切り方をしている傾向がみられるのは著しい。とくにタタミ，台所の項では，著者のタタミ廃止論，台所重視の持説の立場から一方的な理窟による押しつけといった印象を受ける。その理論が正しいものであるにしても，ただ啓蒙し説得するだけでは本当に生活の中にとけ込んでいかない。むしろ，タタミ廃止に対する，あるいは台所をあけひろげにすることに対する抵抗の姿の中から，解決の道をくみ出すという方向をとって欲しいものである。

「住居とは」，「雑感」では住居の多面的に眺めて，住居の担っている複雑な性格を更めて考えさせてくれる。近代的な家具と，とり残されたスタイルの住宅との奇妙な混在の状態が指摘されたり，「美しいもの芸術的なもの，というとゼイタクなものというようにすぐ考えがち」な一般の傾向に対しては，茶室の発生から説き起し，素朴な合理的な精神の中に発見されていた美しさが，遂には金持のなぐさみの手に陥って，ダラクし，金のかかるものに転化して行ったところに原因を求めているのは慧眼である。また「住宅を建築する場合には建築家に相談しなさい」という啓蒙もよいし，「臨床建築家」——建築技術の医者の提案もなかなか面白い。けれども一方，「住居は着物みたいなものです」とか，「住居は芝居の舞台です」といった甘さにはどうにも耐え切れないものがある。

第2部にあたる技術的な解説は，著者が，「暮しの手帖」第15号に掲載したものからの抜萃で，住宅を建てようとする人達にぜひ心得えておいてほしい幾つかの注意事項についてなされているのであるがここでは紹介は省略しよう。「住居の科学」という本の題名はいささか似つかわしくないとしても，ともあれ，「なんとか家を安く建てたい」という人達には非常に有益な，しかも楽しい本であることを強調して，一読をおすすめする次第である。（**巽和夫** 京大大学院）

「みんなの住い」

谷口吉郎 編
森田茂介
谷口吉郎
浜口ミホ
早川文夫
武基雄 共著

この書の特色はその題が示すごとく，個人の住まいよりも，みんなの住まい，共同生活の中の住いに重点がおかれていて，世間一般の諸々の住宅書とは全く異った点にあり，一般教養書として大きな役割を持っているだろう。とくにすべてをこの点に集中して，都市計画とコミュニティについて論ずる武氏が，「人々はまだコミュニティ・センターとはどんなものか，よく知りませんし，またそのような機会と場所が与えられなければ，何をしてよいかも分らないでしょう。」とコミュニティ・センターの必要性を強調しておられるところに明らかなごとく，コミュニティの歴史を持たないわれわれにとってこの書は大きな評価に値しよう。しかも個人の住いや，住いの中の個人について説く書は数々ある中に，コミュニティの中の個人個人の共同体としてのコミュニティ，（それは森田氏のいわれるように民主主義の根本思想であるにもかかわらず）に関する一般書の数少いことを考慮するならば，この書は益々高くかわれて然るべきである。この点よりみると，さすがに専門家として武氏の所論は正当であり要領も得ている。森田氏の所論をこの点より考えると，現在の都市の混乱を歎いておられる文中に，その理由を町造りのセンスといったいわば精神的なものに求めておられるかにうかがえるがどんなものだろう。この問題は，時代の変遷，政治形態，経済事情の変化といったもっと根本的な点に求めるべきではあるまいか。

そもそもこのような百数十頁の小著に五氏が各々専門的見地より論じておられるのであるから内容が可成り多岐に分れるのはやむを得ないし，また一般読者にとってもその方が興味深いであろうけれど，それ故にこそますます，森田氏や谷口氏は焦点を絞って問題の核心に触れられたならば，ますます説明が補われたのではないだろうか。先述の都市混乱の問題にしても然り。また同じく森田氏の住宅観の1つとして，「就寝はタタミ，それ以外はイス坐」と断定しておられる点なども，現代という氏のいわれる過渡期を考慮されてのことであろうけれど，これはまた現在住まいを建てる人にとり，（勿論設計する人にとっても）最大の難題であるだけに，その具体的な理由の詳説が欲しかったと思う。諸氏の各論につ

書　評

“アパートの暮し”

重松敬一 編

アパート生活というものが，戦後においてはごくあたりまえのことになってきた。すなわち，庶民住宅といえば公営住宅，公営住宅といえばアパートを連想するぐらいである。しかし，そのアパートも，それに入居したり，あるいは入居者に近づいて実際に行われつつある生活を知ると，いろいろな住みづらさがあるのがはっきりしてくる。誰にでも理解できる狭さ以外に，近所づきあいや，共同施設の管理や利用でいろんなわずらわしさがあることなどである。このことは，アパートが普及したとはいっても，その居住者が，アパート形式のよさにひかれて入る人のみでなく，住宅がなくてやむを得ずアパートに入る層を多分に含んでいることや，それら居住者が共通した生活方式や道徳を生み出すほど，年月がたっていないからでもあろう。

「アパートの暮し」はこういう点に焦点をあわせ，いろいろな具体的事実をルポルタージュ風に紹介しながら，アパート生活をいかに解決していくべきかにまで問題点を整理しようとしている。まず，現在のアパート需要の直接の原因たる住宅難の様相からときおこし，アパート入居者に，1．独立した家に入りたいが経済的事情で止むを得ずアパートに入るものと，2．独立した家をもちたいが転任を予想される職業とか，共かせぎの都合で便宜上アパートに入った方がいいと思う層と2つの層があることを指摘し，これらで代表される新旧2つの住居観の対立が現在のアパート風景をつくり出している原因だとして，その種々相を描きだしている。いうなれば，家単位の伝統的な生活習慣と，それに結びついた，封建的な，あるいは虚栄心を伴った近隣意識がもちこむ悲喜劇を描く。しかし著者はその中に積極的な面を発見しようとして，子供たちが親の垣根をのりこえて彼らの仲間をつくりあげ，また親達も子供の遊び場の確保や，共同施設を通じてのいろいろの事件を通じて彼等の共同意識を発生させ，共同化に向って努力をはじめることを描く。いろいろな事件を通じて，アパート村の雪どけがはじまり，アパート生活の積極面はいかされていくと主張するごとくに。最後にアパートのユートピアや，住宅政策にもふれ，この巻をとぢている。

とにかく，よみはじめたら最後までよませてしまう面

いての所感をつづけると，先ず谷口氏は，現今流行の伝統論を意識されてかどうか，氏のいくつかの小論が，あまりにも日本住宅の賛美に終り，あたかも外国人の日本建築論のごとき甘さから脱し得ていない。勿論これらの多くは，氏の述べられる通り，日本建築の伝統であり特色であるけれど，とくにわが国の指導的建築家として，よりきびしい眼をもってした日本住宅の批判をも所載して欲しかった。しかしその最終節の外国人のために記された「古人の教訓」と題する小論はまさにわれわれ日本人，日本の芸術家，日本の建築家に対する教訓としての意義の大きさを評価しなければなるまい。

さらに早川氏の所論はみんなの住まいとしての共同住宅をあらゆる方面から客観的に，極めて客観的に記述されて誠に明快であるけれど，耐火アパートの建設など，住宅建設が着々と進行し，発展しつつあるかのごとき錯覚をいだかせるほどに，政府の公約に対してすら客観的であるのはあまりにも形式的に過ぎはしまいか。現代に共同住宅を論ずるには，もっと住宅問題や住宅政策を根底として批判的に将来への発展の道を論ずべきであろうなお氏の所論中アパートの経営問題に触れられているのは，一般人にとっても重要な点として注目に値しよう。

最後に浜口氏の論であるが，氏は「みんなの住まい」の個々のみを捉えておられる点，少々趣を異にする。氏の解説は平面を分析して，その家族像と現実の家族との関連というよい点を把握して，誠に具体的に簡明に記述されているが，その分析には多少の異論もあろう。例えば，氏は住いの理想を「全く合理化された生活，そして凡ゆる家族の平等性と独立性のある近代的な生活」においておられるのは全く異論がないとしても，全部イス坐式の生活や，浴室と便所を同室にすることまでも理想としておられるかにうかがわれるなど，日本の伝統のすべてを否定しなければ近代化の理想は達し得ないかの点，異論も多いのではなかろうか。いわゆる和室は確かに，個人の独立性の妨害や，近代性の邪魔になり勝ちではあろうけれども，それは絶対的なものか否か今一層の研究を希望したい。今1つ氏の所論中の結びに述べられている家族の性格の把握法は，これが氏の所論の結論でなければならないだけに，その不明確さが真に惜しまれる。「広い視野（例えば社会的連帯性）を十分折り込む」といっても素人はおろか，建築家にとってすら，あまりにも茫とした実体を把握し難い表現ではないだろうか。

以上諸々の不満を並べたけれど綜じて，編者の気安い気持で読める書物という方針をよく貫きながらも，各著者が，各自専門的立場からすぐれた見解や解説を示しておられる所，多くの住い読本とは全く水準を異にした秀作として広く読まれることを希望する。

（前川道郎　京大大学院）

書　評

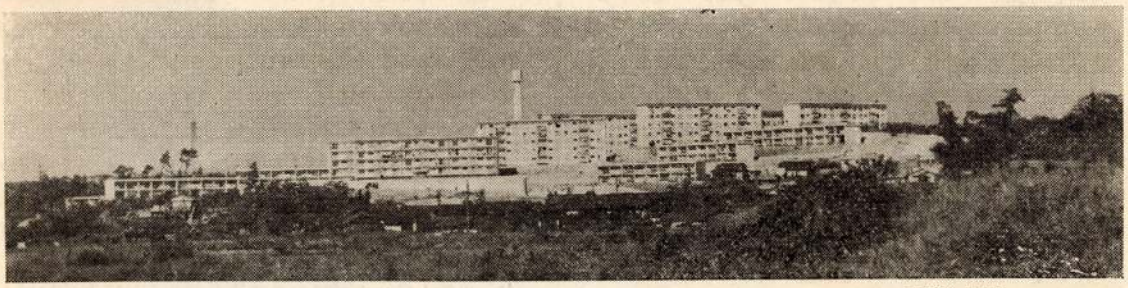
白さで手際よくまとめられている。しかし，著者のとりくんだ問題として，あとがきにしるされている“私たちが自らの＜くらし＞の意識を高め，前向きにするには，それらのすまいの形式・方法・考え方をどのように改めていったらよいのだろう”“そのためには，とにかく旧いすまいからの「解放」のされ方，自らの解放のしかたをどのような方向で，どこに力点をおいて捉えていったらよいのだろう”という問題に対しては，さらりと逃げた格好である。

その1例をいえば，著者はアパート生活の混乱は，日本のくらし意識の不統一状態の集約的な現れであるとし，その直接的原因はアパート生活に積極的な意義を認めず止むを得ず入る層と，生活の便宜上入る層との生活態度の対立であるとしながら，いろいろな事件を通じて共同化のキザシがあるといい，未来への明るい見通しを与えているが，その過程こそが問題であろう。その解決の方向として著者は，1．アパートに居住することにより，どんな人でも住居観の変化がおこりうるから，著者の所謂新旧2つの住居観のどちらの持主でもどんどん入居させる方法をとることによって，アパートのよさが発見され，普及していくと主張するのか，2．アパートの混乱は新旧2つの住居観の持主の生活状態の対立であるから，アパートをスムーズに普及させるには，アパートに居住して，そのよさを意識しうるような人のみをアパート居住の対象とし，その他の人には別の型の住宅を供給すべしと主張するのか，はっきりしないし，また共同化への運びの中で教育・啓蒙の意義がどの程度にあるのかに対しても解答を与えてくれない。またアパートを論ずる場合にも，アパートとして1つに統一して論じていいものと，アパートの特殊例として論ずべきものとが，ごっちゃにされてアパートとして論じられていることも大いに気になる点である。また最後にふれている住宅政策や生活圏のことなども素人向の解説としてはいいかも知れないが，一寸イージーにすぎたようだ。とくにアパートのユートピアのところなどは，建築学生の最初に描く夢のようで，本題の人間関係の発展とはなんの関係もない。ユートピアを描くならば，もう少し社会教育研究家として独自のユートピアを描いてほしかった。

とにかく，こうした問題として，建築家ともども手を携えて研究してほしいものである。住意識の面からアパートを捉えた書物が少い折，問題点を興味深く指摘した書物として，単なるよみもの以上の意義があると感ずる。今後の研究の発展を期待して止まない。

（絹谷祐規　京大大学院）

技術講座



中宮第一団地

公団住宅の電気設備について

仲井喜作

住宅公団において建築するアパートはすべて鉄筋コンクリート造の耐火構造のもので，この中で大別すると高層アパート，中層アパートおよび耐火ブロック積アパートの3種に別けることができる。

現在大阪支所において建築している住宅は，中層アパート（3，4，5階建），および耐火ブロック積アパート（2階建）が大部分で高層アパートは現在設計中にして，まだ着工する段階に至っていないので，ここでは中層アパートとブロック積アパート（公団ではこれをテラスハウスと呼んでいるので以下テラスハウスと呼ぶ）の電気設備について説明するが，中層アパートや，テラスハウスにしても，設計年度によりそれぞれ変った型の住宅があり，その設備も違うので，昭和31年当初発注し，同年8月に完成した大阪府枚方市の中宮第1団地の電気設備について説明することにする。

1. 建築の概要

① 所在地　大阪府枚方市大字禁野，公団住宅中宮第1団地

② 建物の種別および戸数

建物種別	戸/棟	棟数	戸数	配置図ニヨル記号	備考
550—5N—2K—2	40戸	2棟	80戸	D.E	鉄筋コンクリート造5階建
〃	30戸	4棟	120戸	〃	〃
550—5S—2K—2	30戸	1棟	30戸	A.B	〃
550—4N—2K	24戸	2棟	48戸	C	鉄筋コンクリート造4階建
55—TN—2D	12戸	1棟	12戸	F	テラスハウス
〃	10戸	2棟	20戸	〃	〃
〃	8戸	4棟	32戸	〃	〃
55—TS—2D	8戸	1棟	8戸	G	〃
計		17棟	350戸		

③ 其の他附属設備

給水塔　鉄筋コンクリート造，高さ地上約30.56M　容量約25屯

ポンプ室　鉄筋コンクリート造，床面積30M²　分離層　鉄筋コンクリート造

2. 設計と施工

① 屋内電気設備

住宅設計にあたっては1戸の設備容量を約1.5KWとし，一般供給による従量制とした。

引込は単相3線式架空引込とし，中層アパートにあっては2階スラブ埋込配線とし，引込開閉器を2階階段踊場に取付け，1階階段室には各戸メーターを集合した計器盤を各階段毎に設けた。テラスハウスについては，埋込配線による連接引込とし，メーターは各戸の入口上部に，屋外計器函に収容し取付けた。

集合計器盤には主開閉器と分岐開閉器を収容し，分岐開閉器は単極とし，中性線は共通として，各戸に配線することにした。各戸用開閉器として，2P—20Aカットアウト2個を木板上に露出して取付けた。

電線管はすべて薄鋼電線管を使用，電線はビニール絶縁電線を使用することとした。

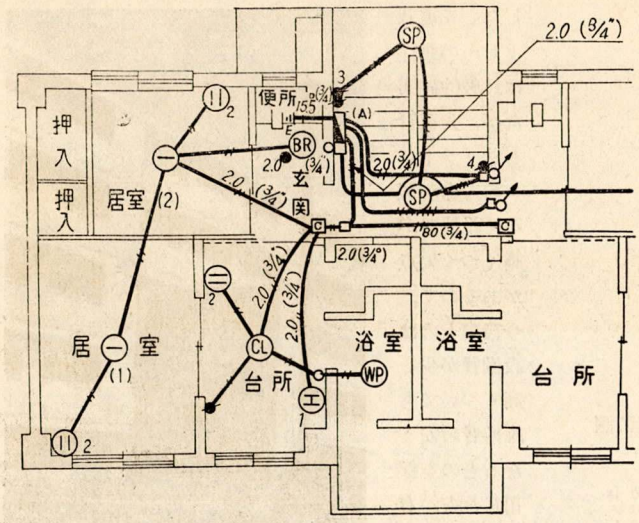
引込開閉器に分岐スイッチを省略し，集合計器盤に単極の分岐スイッチを使用，また中性線を共通として各戸に送る電線を同一の電線管に挿入したのは幾分でもコストを下げるためである。

中性線を共通にした場合，中性線に故障のあった時は全部停電するのと，絶縁抵抗測定の折に技術的に困難な欠点があるので，今後の設計のものについては，各階毎に単相3線式で配線することにした。なお単相3線式配線の場合，負荷が不平衡している時は電圧のアンバランスも考えられるが，実際問題として，大きな電圧の違いはない。事実，当団地で測定した折の電圧の差は殆んどなかった。

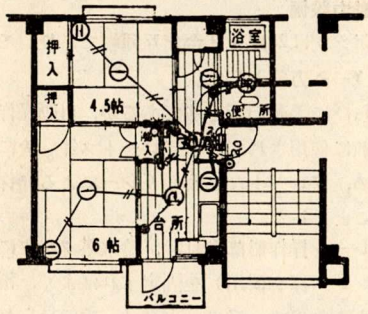
その他，各戸にテレビ用の予備配管設備，および押釦とブザーを取付け入居者の便をはかることとした。

イ. 設備概要

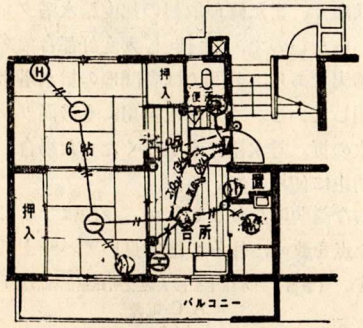
タイプ毎の各戸の設備を示すと



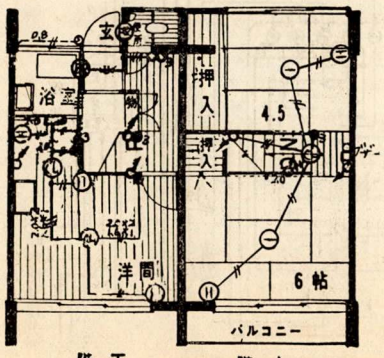
550—5N—2K—2
D·E型



550—5S—2K—2
A·B·H型



550—4N—2K
C 型



F 型

ⓐ 550—5N—2K—2 **型**（1戸設備容量1,510W）

1戸面積 42.28M²	
居間（6帖）コードペン	60W 1
バルコニー 1.4M²	
居間（4.5帖）コードペン	60W 1
台所直付灯	60W 1
玄関，便所 両面灯	40W 1
浴室 直付灯	40W 1
電灯コンセント	150W 3
電熱コンセント	800W 1
ブザー（直流3ボルト）	

ⓑ 550—55—2K—2 **型**（1戸設備容量1,510W）

1戸面積	40.38M²
居間（6帖）コードペン	60W 1
バルコニー	1.95M²
居間（4.5帖） 〃	60W 1
台所 直付灯	60W 1
玄関 〃	40W 1
浴室，便所 両面灯	40W 1
電灯コンセント	150W3
電熱コンセント	800W 1
ブザー（直流3ボルト）	1

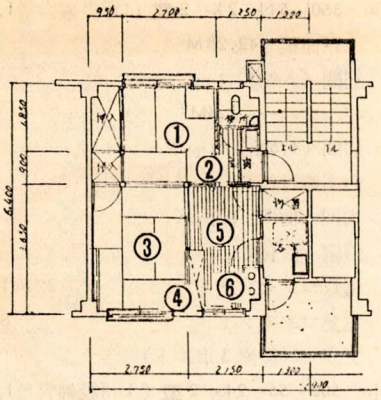
ⓒ 550—4N—2K **型**（1戸設備容量 1,510W）

1戸面積	38.76M²
居間（6帖）コードペン	60W 1
バルコニー	6.0M²
居間（4.5帖） 〃	60W 1
台所 直付灯	60W 1
浴室	40W 1
玄関，便所 両面灯	40W 1
電灯コンセント	150W 3
電熱コンセント	800W 1
ブザー（直流3ボルト）	1

ⓓ 55—TN—2D **型**（1戸設備容量 1,800W）

1戸面積 1階 20.932M² 2階 23.005〃	
計 43.937M²	
洋間 直付灯	100W 1
台所 直付灯	60W 1
浴室，玄関 両面灯	40W 1
便所 〃 〃	40W 1
居間（6帖）コードペン	60W 1
〃（4.5帖） 〃	60W 1
階段 直付灯	40W 1
電灯コンセント	150W 4
電熱コンセント	800W 1
ブザー（直流3ボルト）	1

次に照度は，台所は作業面（床上約75cm）において100ルックス，居間は畳面上30cmにおいて100ルックス，



便所，玄関は20ルックスとして設計したが，各部屋の測定した結果による照度は次の通りである。

①	タタミ面上30cm	145 lx	②	同上	65 lx
③	同上	115 lx	④	同上	60 lx
⑤	床上75cm	160 lx	⑥	コンロ台面上	75 lx

測定月日，時間　昭和32．1．8．午後6時～7時

ロ．テレビ用予備配管について

「従来の公営の鉄筋アパートにおいてはテレビ配管についてはほとんど考慮されておらず，またその配管もなされていなかったが」公団では屋上にアンテナ取付用のアングルを各階段毎に2カ所取付け，配管も各戸より屋上のアングル取付個所まで立上げ，また配管の分岐個所にはマッチングトランスを収容し得る大きさの分岐ボックスを設けることとした。

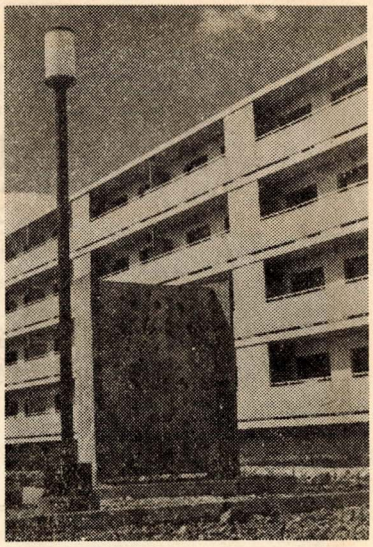
また電話線もこの予備配管を利用でき得るように充分の太いさのパイプを使用することにしている。

②　屋外電気設備

イ．外　燈　設　備

団地の道路照明として約35～40m間隔に外灯柱を建柱，配線は団地の美観を考え，クロロプレンシース・ケーブルを使用して地中線工事とした。ケーブルはコンクリート・トラフに入れ，接続は地中で一切行わず，外灯柱の袴の個所ですることとし，故障の減少，修理，点検の容易なようにした。

外灯柱の点滅は光電管リレーによる自動点滅法を採用した。光電式リレーの動作は比較的確実だが，光電管とサイラトロンの寿命が短かく維持費が高くつく欠点があるので，今後のものは設備費が少し高くついても維持費の安くなるものを採用した方が有利と思われる



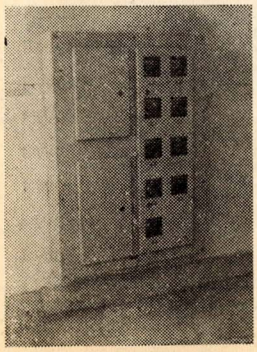
ロ．給水塔動力設備

給水塔の揚水ポンプは25HP×2台交互運転であり，モーターの起動はY—△方式とした。

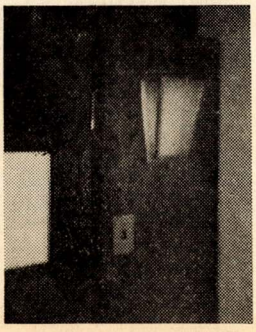
操作は自動ならびに手動の両方法であるが，自動操作方法として，一般に使用されているフロートスイッチによる方法を取止め，フロートなし液面リレーによる操作方式を採用することとした。

これは液面リレーを操作盤に取付け，給水塔タンクには電極棒（ステンレス棒を使用）を固定すればよく，電極棒は固定したままなので，フロートスイッチに見られる機械的な故障はなく，また修理取替の都度給水塔タンクに上る手間もいらないので，維持上大変好都合である。また動作も確実であり，公団では各団地の給水塔ポンプの操作に採用している。また貯水槽用にも液面リレーを取付け，断水の折，貯水槽に水がなくなった場合，ポンプの空運転防止に使用している。

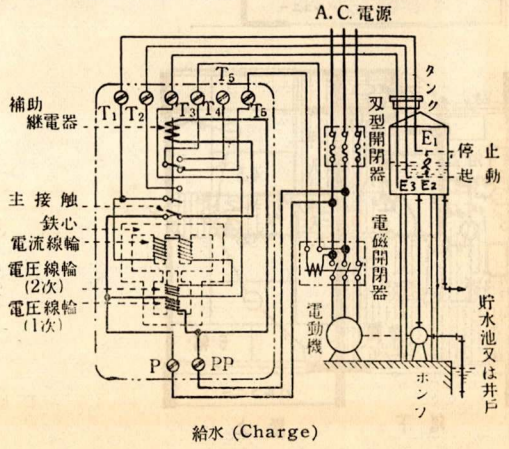
以上大変断片的な説明になりましたが，今後は今までの設計上の不備な点を改め，住み心地の良いアパートにしたいと思います。（筆者　日本住宅公団大阪支所建築部施設課）



集合計器盤



玄関バルベット



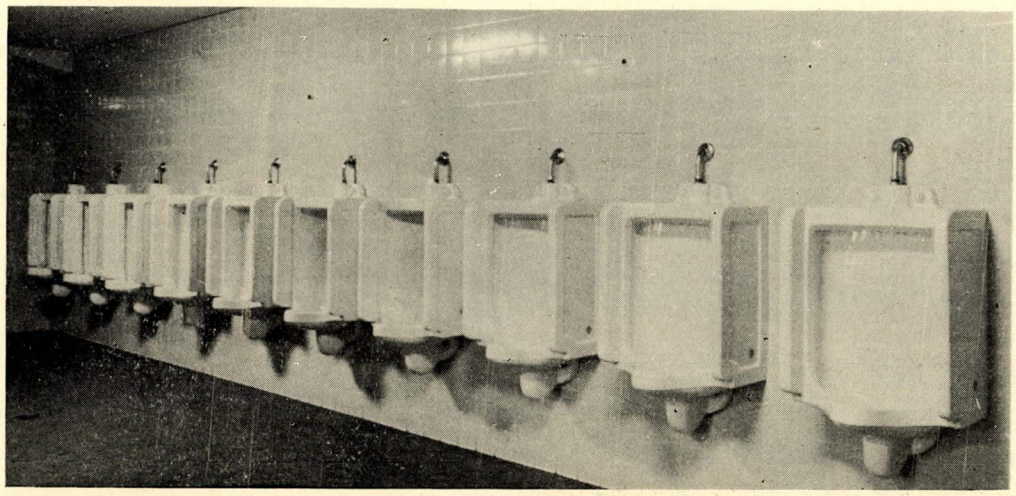
給水（Charge）

最高の品質・最大の生産を誇る！

伊奈の タイル・衛生陶器

Inaseito 印 附属金具

伊奈の鳩印衛生陶器には Inaseito 印附属金具をセットで御利用下さいます様おすゝめ申上げます。



本誌で見たと御報知次第カタログ進呈

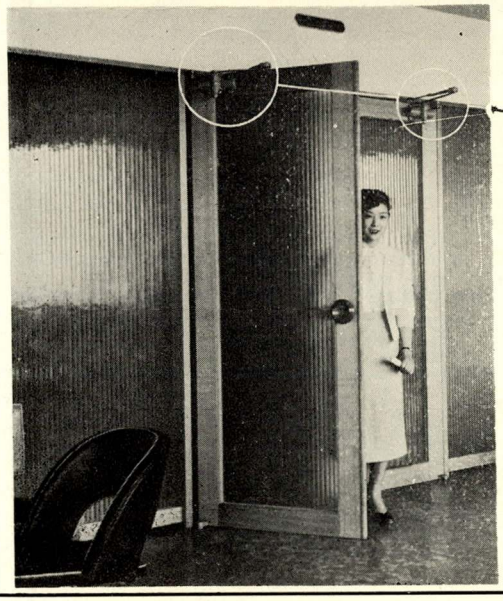
IS 伊奈製陶株式會社

本社及工場　愛知県常滑市扇面新田　電話常滑(代表)700
東京事務所　中央区西八丁堀2—8　電話築地㊺5261・5262

NHN

ニッカナ
ドアーチエック

日・米・英・独特許





型状優美

故障絶無

日本金具製作所

製造元 ダイハツ工業株式會社

特許出願中

平川~MPボイラ

煙管式ボイラの「革命兒」現る!

経費節減145万円の利益を生む

☆高性能・輻射型

☆石炭・オイル・ガス焚

☆1年間(3000時間)の燃料節約額

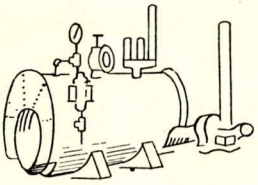
大阪府立工業奨励館

公式試験成績

汽缶効率 812%

石炭焚にて

排ガス温度 197°C



7′×30′ランカシヤボイラと比較して

145万円益

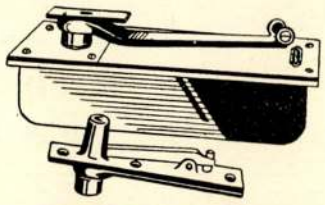
(但し E.E.2000kg/hr.
6000カロリー石炭5000円/屯
1日10時間1月25日として)

◁営業課目▷ 平川~水管ボイラ、平川~機関車型ボイラ
平川~竪型ボイラ、外ボイラ全般・輸送機械

株式會社 平川鉄工所

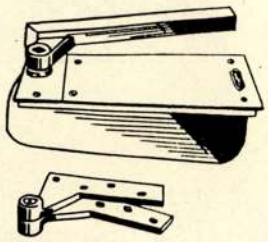
本社・工場 大阪市大淀区大仁西2の1 電話福島㊸1975－8
東京営業所 東京都中央区八重州6の7 電話㉘5883・7787－8
九州出張所 福岡県小倉市富野545 電話小倉⑤1362

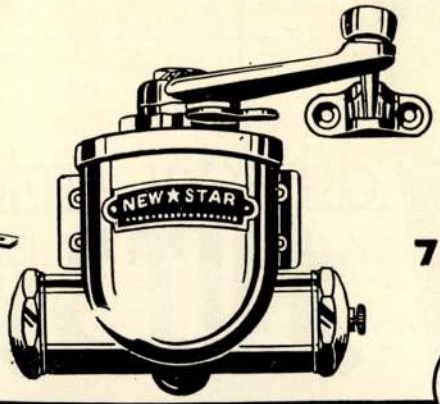
NEW★STAR

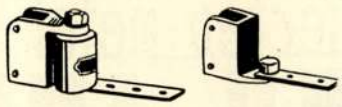


ドアーチエック

フロアーヒンヂ







ラバトリーヒンヂ

フロアーヒンヂ

輸出　好評

ニューヨーク・ロスアンゼルス・マニラ・台湾

日本ドアーチエック製造株式会社

取締役社長　出向井啓蔵

本社工場　布施市横沼町三丁目十一番地　電話 大阪 (72) 代表6666—9
東京支店　東京都千代田区神田錦町一丁目二十三　電話 東京 (29) 1920・4920

優秀機能ヲ誇ル

岩住式

シヤッター

最新ノ機械設備

最高ノ設計ト技術

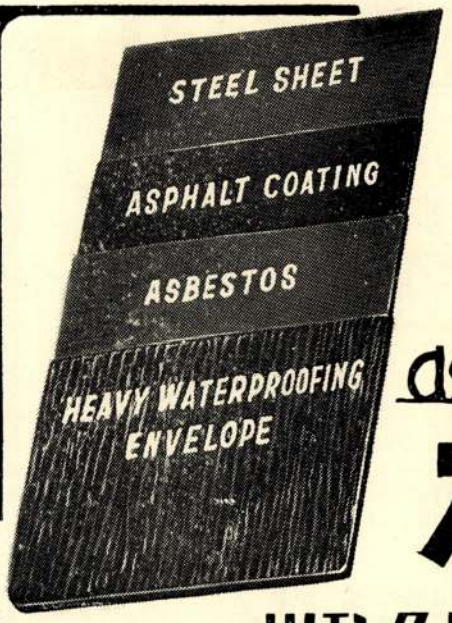
不撓ノ研究ト改良

ドアー、サッシュ、メタルラス　(JIS557)

株式会社 岩住鐵工所

大阪市西淀川区千舟東二丁目三一番地

電話 淀川(47) 代表 4351. 4352. 4353. 0903. 0904



営業品目
特許　オリエンタルメタル製
屋根板・谷樋・軒樋・竪樋・呼樋
棟色・雨押類・ダクト並臭突類
特許　オリエンタル　スカイライト
特許　特殊屋根材「セラクタイト」
特許　オリエンタル・アスファルトブロック

製造販売施設工

asbestos protected metal

オリエンタル メタル

オリエンタルメタル製造株式会社

本社及工場	尼崎市長洲字稲川新田44番地	電話大阪㊇4947～4949
東京支店及工場	埼玉県北足立郡蕨町駅前	電話川口5978　蕨252
九州出張所	福岡県八幡市熊手町二丁目	電話八幡 723
東北出張所及工場	福島県郡山市外富久山町久保田142	電話郡山 267
名古屋営業所	名古屋市熱田区三本松通り2の35	電話名古屋㊇7674
延岡作業所	宮崎県延岡市東中川原町5059	電話延岡3632
岩国作業所	山口県岩国市今津川12	電話岩国 776

ORIENTAL around the world

ORIENTAL

近代建築には
アサヒ印　燃えない美しい…

耐火ボード

アサヒトーン
石膏ラスボード
石膏及石膏製建材

JIS—A—6901 表示許可

大阪耐火ボード株式会社

本社	大阪市北区絹笠町50（堂ビル）	電話(34)4033・4034・(36)1141
ボード工場	大阪市東淀川区元今里北通5丁目24	電話(37)1144
石膏工場	大阪市此花区木場町11	電話(46)1865
東京営業所	東京都千代田区神田東松下町46	電話(25)2938・5801

5 住宅内の空気中には、どの程度の塵埃があるか

初めに空気汚染の要因としての塵埃に関し一般的な事項について述べておこう。

1. 塵埃濃度の定量

空気中に浮游している塵埃濃度の定量は建築環境諸条件の測定のうち厄介なものの一つである。普通は計数法および重量法によって濃度を示している。すなわち，わが国では空気 1c.c. 中の塵埃粒子数，あるいは 1m³ 中の重量（mg）を以て示し，米国では空気 1 ft³ 中の粒子数（million particles per cubic foot of air）で恕限濃度を示している。わが国では，このように粒子数あるいは重量によるのが標準であるが，その具体的な測定は次のようにして行う。計数法では吸着式塵埃計によるが，これはポンプで被験空気を細隙を通して吸引しカバーグラスに衝突させ，ガラス面に附着した塵埃線を顕微鏡で計数するのである。

労研式塵埃計により，400 倍，200 W 暗視野計数が標準とされている。計数法では顕微鏡の倍率，明暗視野別，光源の明るさなどで計数される粒子数に差異が生ずる。重量法は impinger 法によるのが標準であるが，これはガラス瓶に水を入れ，その中を被験空気を通過させて塵埃粒子を水の中に捕集する。一定量の空気を吸引した後に水を蒸発させて塵埃量を計り 1 m³ の空気中の重量を算出するのである。

米国のものは粒子数によるが測定法は明示してなく，明視野で計数するとされている。塵埃濃度の定量には，この他に光学的な方法などもある。

2. 塵埃の有害性

塵埃を吸入することによる人体への障害，すなわち塵埃の有害性を支配する因子としては，その濃度，種類，粒子の大きさ，物理化学的性質と人体側の体質，呼吸器疾患，曝露時間，作業姿勢および除塵，防塵装置の有無などがある。これらの諸条件によって有害度に相違が生ずる。

塵埃を吸入することにより惹起される塵肺についていえば，これを起す力の最も強い，すなわち有害性の大きい種類としては游離硅酸を多く含んだ硅石塵が問題とされている。これを長期吸入し肺胞内に沈着すると，いわゆる硅肺になり心肺機能障害がおこる。わが国における硅肺による死亡の大半は結核を併発している。この硅肺を多発する職場としては鉱山，採石場，人造石工場，窯業，研磨業等がある。

その他の種類の塵埃，例えば炭粉，石灰石粉などは比較的害が少く，動植物性繊維では大体塵肺はおこらないとされている。

また肺胞内への到達と沈着には粒子の大きさが関係する。これは大体小さいものが，その可能性が大で第 1 図に示すように 1 μ 前後のものが沈着度が高いとされている。比較的大きい粒子は気管や気管支の粘液について痰として喀出されるのである。

3. 塵埃の恕限度

労働省通牒による日本の，および米国の恕限度を示すと第 1 表のようである。[1)]

第 1 表 労働省通牒による恕限度

	一般塵	遊離硅石50%以上含む粉塵
粒子数	1,000個/c.c.	700個/c.c.
重量	15mg/m³	10mg/m³

塵埃の恕限濃度（U.S.A.）

種別	m.p.p.c.f.	個/c.c.
一般塵	50	1,750
アラムダム	50	1,750
カーボランダム	50	1,750
ポートランドセメント	50	1,750
石綿	5	175
硅石塵（遊離硅酸 5 %以下）	50	1,750
〃（〃 5 ～50%）	20	700
〃（〃 50%以上）	5	175

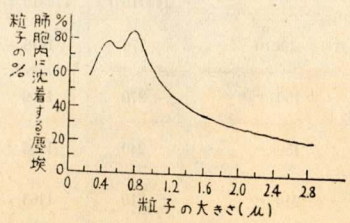
m.p.p.c.f.=million particles per cubic foot of air

日本では一般塵埃および游離硅石50%以上を含むものと区別しているのみであるが，米国では表示の他にも各種の塵埃に類別して，その恕限度を示している。一般塵埃については日本の方が厳重であるが，珪石塵では米国がずっときびしい。またポートランドセメントは一般塵と同列に扱われているが，石綿は有害度の大きい塵埃とされている。このように種々の理由によって国により恕限度に相当の差違が見られるが，塵埃濃度の定量が測定法，計数条件などの相違によって相当違った結果が得られるものなので，どのような定量法で定められている数字かを考慮する必要がある。

4. 住宅内空気中の塵埃濃度

住宅のように小規模で開口，隙間の多い建物内の浮游

第 1 図 塵埃粒子の大きさと肺胞内沈着率

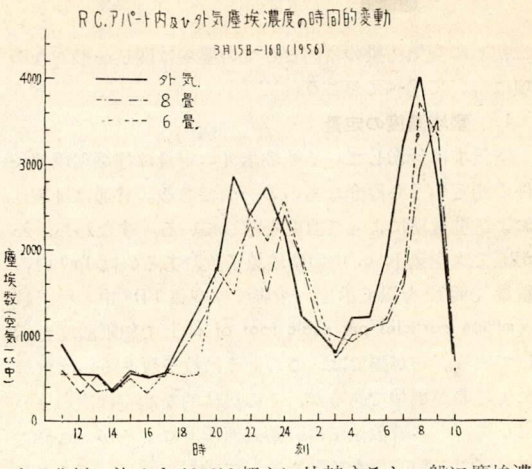


塵埃濃度は，普通には外気条件に支配影響されて，外気と同じような変動推移をしていると考えられる。塵埃の種類は一般塵埃で都市住宅内では地上からのもの，煤煙粒子等が主であろう。こうした塵埃と生活行為による発塵のうち比較的小さいものが浮游している。比重にもよるが10μ以上のものは永く浮游していることはなく沈下すると考えられている。自由大気中の浮游塵埃は不規則な変動をするものではなく，規則正しい時刻的推移をしていることは以前から知られている。すなわち相沢氏によると，午前2～4時頃と午後0～2時頃に谷があり，午前6～8時頃と午後6～8時頃に山があるような推移をしているといわれている。[2] この現象についての明確な学的説明はされていない。住宅内の変動も筆者のささやかな測定結果から見ると，これと軌を同じくし，これに地域的な状況・生活条件等が影響して住宅内塵埃の実態として発現すると考えられる。生活条件との関連からみると，冬季あるいは夜間の閉鎖条件時には換気量の低下により外気の推移が室内では1～2時間おくれて現われるなどの事実が注目される。

住宅内の発塵の大きい生活行為としては掃除，布団の上げおろしがあるが，測定結果によれば，この時には明らかに室内の塵埃濃度は高くなるが，その持続時間は開放時などでは比較的短かい。すなわち，一日での推移は第2図にも見られるように外気と完全に関連した状況を示している。これは筆者が季節別，生活行為別などに行った住宅内の塵埃濃度の測定結果からいえるようである。**第2図**はその結果の一部で大阪市内のR.C.アパートでの三月中旬の24時間の外気，8帖，6帖の逐時的塵埃濃度の変動を示したものである。他の季節のものもこれと同様の傾向である。

この結果にも見られるように住宅内空気中の浮游塵埃濃度は外気による支配が明らかで，また外気とともに相当高濃度の場合が見られる。また閉鎖時の室内のおくれも指摘される。このような推移の中に生活行為による比較的短時間の変動が附加されて住宅内の実態が構成されると考えられる。資料が非常に少いのではあるが郊外

第2図　R.C. アパート内および外気塵埃濃度の時間的変動



地，農村，海上などでは都心に比較すると一般に塵埃濃度はずっと低いのである。このような事実からいうと都心の住宅内空気中の塵埃に関しては，都市空気の汚染の一環として考慮されねばならないことを示している。

また室内の高さによる塵埃濃度の分布を示すと第2表のようである。すなわち畳上40cm～210cmと天井面近くまでを4段階にして，普通の生活時と就寝時にどのような濃度の相違が見られるかを示したものである。

これによると，生活時中では上下の濃度分布に格別の差違が見られない。就寝時中では明らかに上から下に濃度が高く，22時10分のものでは畳面近くは天井面近くよりも35%も高濃度である。

以上のような事実から建物内の空気汚染の一つとしての塵埃濃度を問題とする場合に，どの時刻にどんな高さで測定するか，また外気条件との関連性といったことも浮び上ってくるのである。

都市住宅内の塵埃については個々の生活条件もあるが，都市空気の清浄化と不可分の関係にあることは確かなことである。

(1957-3. 関西設備原論研究会・石堂正三郎)

1) Threshold Limit Values A.C.G.I.H. 1952. H.V.A.C.G. 1954. P. 161.
2) 相沢　憲：衛生工業協会誌　13-3. P. 224

(第2表) 高さによる室内塵埃濃度の分布 (個/c.c.)

高さ ＼ 時刻	生活時 14時10分	生活時 17時10分	生活時 9時10分	就寝時 22時10分	就寝時 0時10分	就寝時 3時10分	生活時平均	就寝時平均
畳上 40cm	276	1246	486	641	543	808	676	664
〃 100〃	270	1109	511	615	485	820	629	640
〃 150〃	240	1196	472	558	417	787	636	587
〃 210〃	319	1163	526	475	415	729	669	538

6 昼光照明で間接照度を簡単に求める方法は

1. 全照度，直接照度，間接照度

室内のある場所の全照度は，窓からの直接光による直接照度と天井面，壁面などから反射してくる光による間接照度とを加えたものである。

人工照明では直接・間接両照度を分離せず，全照度をそのまま求める光束法がある。しかし昼光照明では直接照度の分布は複雑になり，従って全照度の分布も同様に複雑になるので，直接・間接両照度を別々に求めて，あとで加え合せる方がよい。直接照度はこれまで示されてきた，いろいろの図表を用いて求め，間接照度は以下に述べる簡易式によって計算する。人工照明でも直接照度を先ず求めて，これに間接照度を加える方が前述の光束法より，よい精度の結果が得られる。

2. 間接照度の簡易式

窓から室内にはいった光が室内表面で一回反射した光束は，間接光束として吸収されるものに等しいということから，室内面の間接照度 E_r は

$$E_r=\frac{\text{第一回反射光束}}{S(1-\rho_m)}=\frac{F_o\rho_m}{S(1-\rho_m)} \quad \cdots\cdots (1)$$

ここに，S：室内全表面積（窓を含む），ρ_m：S の平均反射率，F_o：窓から室内に入る総光束

床面に机・椅子などが多く並べられている場合，ρ_m を求めるのに，机の上面の位置に等価な反射率を考慮せねばならないが，これについては現在研究がすすめられている。

なお上式は室内全面の平均間接照度であるが，この式を作業面に用いてもよい。

3. 窓から室内に入る総光束 F_o の求め方

$$F_o=E_o\ S_o\ \tau\ r_1\ r_2 \quad \cdots\cdots (2)$$

（i）E_o，窓面照度：これは外壁面と同じ面の窓面法線照度で，天空よりの光と前面の建物，地面で反射してくる光によって生ずる。したがって前面の建物高さ，地面の状況，その反射率によって異る。ここでは庇・ルーバーなどは有せず，また直射日光およびその反射を考慮しない場合について求める。

図—1に示すような紙面と直角方向に充分長い建物を考える。この建物のA点の窓面照度 E_o は $E_o=kE_s$ となる。

但し，E_s：全天空による野外水平面照度で直射日光によるものを除き，表—1[1] に示される値をとる。最低基準値としては4,500 lx が用いられる。[2)P.1339] k：図—1 に示す θ，φ および建物，地面等の平均反射率 ρ によって決る係数でこれを図—2[3] に示す。ρ は通常の場合 0.3 をとればよい。

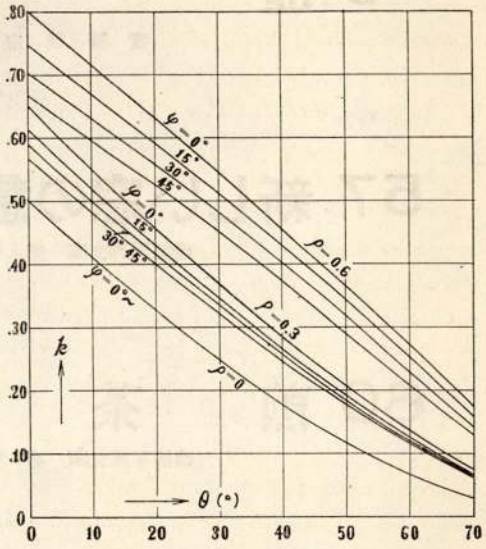
（ii）S_o，窓面積

（iii）τ，窓ガラスその他の透過率（表—2[2)P.1354]）

（iv）r_1，壁厚による窓面積減少率（図—3[3]）

（v）r_2，窓枠，桟による窓面積減少率：スチールサッシでは0.85，木製では0.75である。[2)P.1352]

（1957.3 関西設備原論研究会・松浦邦男）



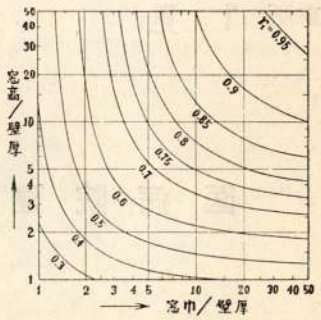
図— 2 窓面照度を求めるための係数 k

参考文献

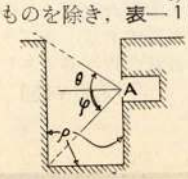
1) 木村・三木；建築計画原論（昭24）P 300

2) 建築学便覧（昭31）丸善

3) 筆者の計算により作図



図— 3 壁厚による窓面積減少率 r_1



図— 1 無限に長い街路

天候	E_s (lx)
雲のない晴天	10,000～20,000
雲のある晴天 薄曇りの晴天	20,000～50,000
稍暗い曇天	10,000～15,000
暗い雨天	7,000～10,000

表— 1 野外水平面照度 E_s

材料	τ (%)
透明ガラス（新）	90
〃（汚）	50～70
すりガラス（新）	70～80
〃（汚）	30～60
型板，網入ガラス	70～80
障子紙	35～50
薄地白もめん	30～60

表— 2 窓ガラスその他の透過率 τ

彰国社新刊案内

東京都千代田区平河町2　11・電(33)営業部　0293・2851　編集部　1745・4523・振替東京173401

新刊 **22 室内環境計画**
建築学大系　全40巻

音響計画—平山嵩，採光照明計画—小木曽定彰，日照調整計画—小木曽定彰，室内気候計画総論—渡辺要，防暑防寒計画—渡辺要，換気通風計画—佐藤鑑，防湿計画—斉藤平蔵。
A5判 544頁　特製函入　定価¥1,360　〒50

5 歴史
建築講座　全10巻

執筆　渡辺保忠・加藤角一　建築様式の変化建築のつくり方の発達を図版を用いて具体的に解説したもので，工高の教材として，これからの建築を考えるうえに優れた参考書です
A5判 200頁　上製　定価¥350　〒35

57 新しい窓の意匠
建築写真文庫　第2期全30巻

この本は，建築の発達とともに一変した新しい窓の意匠について，あらゆる種類のものを写真によって収録・解説したもので，新築・改装にすぐに役立つ好適な図集であります。
B6判 88頁　総アート　定価¥300　〒35

60 煎茶室
建築写真文庫　第2期全30巻

内容は，煎茶道具と茶礼より解きはじめ，煎茶室の代表的なもの，三華亭・楽々園・青蓮院などを収めたもので，趣味家はもちろん，伝統遺産に興味ある方々にお薦めできます。
B6判 88頁　総アート　定価¥300　〒35

重版 **1 見積**
建築ハンドブック　全12巻

猪野勇一著　設計施工の実務に重要な役割をもつ見積のため，判りやすいよう執筆された信頼すべき参考書として版を重ねたものです
B6判 240頁　上製　定価¥300　〒35

医病院建築の計画

大沢源之助著　本書は，医院病院建築の正しい概念を伝えるために，多数の図表を用いて解説し，巻末に関係法令抄を添えてあります
A5判 252頁　上製　定価¥350　〒35

応用ラプラス変換

R.V.チャーチル著・洪四方次訳　この本は近代演算子数学の解説書であり，ラプラス変換の応用についての最新の教科書であります
A5判 334頁　上製　定価¥650　〒50

戸締りは
これで安心
火も！
風も！



キレクスパルグシヤッター

（第一報　カタログ進呈、近くの店より係員参上します）

大阪　**東洋シヤッター株式会社**　東京

本社・工場　大阪市西淀川区佃町４―33
電話 ㊼ 2812～3・3116

東京支店・工場	東京都港区芝新橋5―1	電話芝㊸3469・4452	福井営業所	福井市四ツ井本町29―14	電話5955
名古屋支店	名古屋市中区正木町2―27	電話 ㉜0388	岸和田営業所	岸和田市宮本町151	電話0084
京都支店	京都市左京区東大路三条上ル東門前町	電話 ⑦3581	松江営業所	松江市中原町百姓町195	電話3307
神戸支店	神戸市生田区加納町4―1	電話葺合㉕8843	宇部営業所	宇部市東区平和通1	
弘前営業所	弘前市本町69	電話0285	熊本営業所	熊本市大江町大江381	電話6816

屋　根　材　は

ムルエス印の　建築基準法の規定第二十二条に適合した

耐水耐火 石面ルーフィング

床材美しく寒冷のアラスリウムは

印 耐水耐火 石面ルーフィング に就いて

実用新案特許番号

第406864号
第406865号
第406866号
第429273号
第429274号
第417485号
第417486号
第417487号
第417488号
第444254号

今回弊社多年に亘る研究、発明に依り、以上各種の特許番号品を主体となし理想的文化屋根材として耐水耐火の性能を有する佐久間式石面ルーフィングを完成しました。

その**耐火力**については 800°C 以上の効力を発揮し発火は完全に認められず従つて本製品は全国各都市に於ける木造建築物に対し耐水耐火の屋根材として使用出来る事になりました。奮つて御試用御用命願います。

用　途　と　効　用

(1) 外観は風雅、美麗、重厚的で而もその重量は比較的軽い。
(2) 従而、**木造建築**の勾配屋根に使用、施工に適し、台風等に飛散することがない。
(3) **鉄筋コンクリート建築**の陸屋根及びベランダに使用せば、従来施工の防水押え（シンダーコンクリート）等不用である。
(4) 依而、スラブの鉄筋も節約出来、建築費が安価に仕上り、其の上に完全無欠な屋根防水が出来ます。

日新工業株式會社大阪支店

大阪支店・大阪市西区新町北通1ノ40・電話新町㊿5281・5282・5283
東京工場・東京都足立区千住東町93・電話足立㊽0131（代表）— 5
山形工場・山形市小白川町39・電話山形2387・3779

会 合 便 り（1月分）

定 時 総 会

30日　2時―3時　　於会館集会室

出席者　鴻池副会長，鷲尾監事外17名

鴻池副会長議長となって次の議案を審議した。

（1）昭和31年度事業報告の件

（2）昭和30年度決算報告承認の件

（3）昭和31年度収支予算承認の件

以上は何れも原案通り承認議決された。次いで

選挙　　監事1名　評議員29名

以上は別記会告の通り夫々選任された。

理　事　会

16日　4時―5時　　於会館会議室

出席者　東畑副会長外6理事，吉田兵庫支部長

事務局2名

議　事　（1）総会開催の件　本月末に通常総会を開催すること並にこれが議案などを承認。（2）その他大阪住宅復興促進協議会主催の座談会および都市不燃化同盟主催の全国大会への出席者について協議の上これを決定。（3）入退会者詮衡の件。（4）報告事項　事業報告および12月会計報告の後，東畑副会長から，前回の理事会に於て竹腰会長から辞意の表明があったが，各理事の協議によってその後東畑，鴻池の両副会長がその留任方を懇請した結果，任期中留任される旨の御承諾を得た趣の報告が行われた。

編集委員会

幹　事　会

10日　4時―6時　　於会館会議室

出席者　佐野委員長，足立，伊藤，浦辺各幹事

事務局3名

4月号「ライフのある建築」の企画について審議した。ライフとは何かについて意見交換の後，同特集号編集の具体案を審議決定した。

委　員　会

12日　2時―5時　　於会館会議室

出席者　佐野委員長外8名　事務局3名

議　事　（1）2月「構造上の問題」特集号経過報告。（2）3月「住宅特集」号経過報告。（3）4月「ライフのある建築」特集号企画　幹事会案を基にして審議の結果，作品作風，本文，技術講座，アンケートの件など夫々具体的に決定した。（4）5月号企画　構造と施工に関連した特集とし，次回幹事会で案を練り，委員会に於て審議することとした。

住宅委員会

17日　4時―7時半　　於会館会議室

出席者　中野委員長外7名　事務局2名

議　事　（1）委員会の本年度に於ける活動を回顧して一応取纏めをした。（2）編集委員長から住宅委員会宛会誌3月「住宅特集」号の原稿依頼に対し，期日切迫のため委員長が適宜処置したこと並にこれを委員会名で発表することを承認。（3）今後2回の委員会は前回のように具体的に問題をとりあげて討議をすることとし，その題目の選定は委員長に一任した。（4）上田委員が製作中のスライド「家の出来るまで」の中間発表を行い，既製分を映写観覧した。



出版委員会

分　科　会（床仕上工事の内張りもの）

16日　3時―4時半　　於会館談話室

出席者　奥島，大井，徳永各委員　事務局2名

床仕上工事の内張りものに属するものについて検討し，一応これを4種に分類して4委員が1種目宛主査として分担することに決めた。なお編集方針についてもその大綱を審議した。

建材審査委員会

22日　3時半―5時　　於会館会議室

出席者　置塩委員長外9名　事務局2名

議　事　（1）消焔性スロール審査の件，更に製作者側の説明を受けて質疑応答の後，他品と比較検討して優良であることを認め，その特徴を審議決定したが，これを全委員に通知して異議のないとき優良証明を発行することとした。（2）スプレッドサテン審査の件　竹内（孝）委員に托して近鉄で施工中の現場の実情調査の報告を待ち，更に検討することとした。（3）焼成ヒルコン審査の件　前回の説明および既往の使用経験より優良と認めることに決定し，その特徴案の作成を榊委員に委嘱し次回に決定することとした。（4）下田式エラスチックメタル審査の件　次回に審査することとした。（5）アサヒラス審査の件　分科委員においてなお検討中の旨報告。

事業委員会

小委員会（新材料説明会）

23日　5時半―7時　　於会館会議室

出席者　矢野主査外3名，石場塗料工業会支部長　事務局2名

矢野主査から更めて本説明会企画の趣旨を説明し，最初に塗料の問題を採り上げたについて塗料工業界の協力をお願いして実施方法につき審議した。サロン型式と一般説明会型式による開催方法，サロン型式の場合の人選，説明会の資料作成などについて検討し，これについて塗料工業会の協力を得ることになった。

31日　5時半―7時　　於会館会議室

出席者　三品，岡村，山本委員　事務局2名

塗料説明会の資料作成につき各委員の検討案を審議して，協力を得るため塗料工業会に提出する案を纏めた。

法規委員会

24日　3時半―5時半　　於会館会議室

出席者　中沢委員長外9名　事務局1名

議　事　（1）建築手続迅速化に関する件　前回駒委員から提案のあった金融公庫に関する手続迅速化の件は，提案者から，取扱官庁の現状から推して直に改善を望むことは無理であるから暫く現状の儘で推移を待ちたい旨発言があったが，将来に備えて最良の具体案を検討しておく必要があるとの意見により，研究題目として更に検討を進めることになった。（2）基準法改正に関する件　本案審議に関して大阪市越田建築課長を委員にお願いすることとし，目下建設省で諮問中の改正案に対する本委員会の態度について意見の交換をした結果，同改正案が部外秘のことでもあるので，委員会としてはこれを研究してその結果を関係者に反映させるようにし，意見書などは出さないことに決定した。次いで島田委員が，嘗て発表された改正要綱案と今回の改正案につき，逐次対照して説明をした。

評議員（技術部門）懇談会

16日　2時―3時半　　於会館会議室

出席者　元良副議長外5名　事務局2名

評議員改選の件に関して懇談会を開催した。

座　談　会

住宅座談会

2時―5時　於会館集会室

出席者　佐野編集委員長，足立幹事　深尾大阪府住宅建設課長外9名

「建築と社会」3月住宅特集号の企画として編集委員会主催で開催。近接府県市，住宅公団，公庫，協会，大学研究室から直接関係者が出席されて，住宅政策その他について熱心な意見の開陳が行われた。

合同新年交礼会

7日　11時半―1時　　於今橋クラブ

従来各建築団体では各自夫々新年の集会を催していたが，本年は各会協議の上年頭に合同して新年交礼会を催し，全建築関係者が交歓をするとともに各個廻礼の煩をも省く意味で集会することにした。幸い本会，建築学会，建築士会，建築家協会，建設業協会，建材協会の会員約200名が集り，遠く京都，神戸からも参加者があって非常な盛会であった。本年の当番会である本会竹腰会長の年頭の挨拶があって一同乾盃し新年を祝した。一隅のテープレコードから管絃楽が奏される中を各所で新春の挨拶が交わされ交歓が行われた。最後に長老松井貴太郎先生の御発声で共催団体の万才を三唱し，和気あいあいの中に交礼会を終った。

昭和30年度決算報告

社団法人 日本建築協会

昭和30年度収支決算は昭和32年1月通常総会において承認されました。ここに御報告申しあげます。

昭和30年度収支内訳表

収入之部

科目	金額	費目	実収入
会費収入	5,268,133	正会員会費 団体会員会費 地方会会費 準会員会費	2,360,853 2,669,260 172,930 65,090
事業収入	5,907,607	雑誌収入 講習会収入 演習会収入 建築材料審査収入 調査図書売上収入 一般負担金 雑収入	4,536,820 168,370 359,900 56,000 132,750 173,786 479,981
後援会費	72,000	後援会費	72,000
雑収入	422,047	雑収入	422,047
合計	11,669,787	合計	11,669,787

支出之部

科目	金額	費目	金額
事業費	6,381,462	会議費 部会費 委員会費 雑誌発行費 講習会費 講演会費 図書費	56,175 4,558 154,095 4,675,560 154,188 529,535 148,110 659,241
支部費	275,386	支部交付金 支部補助金	255,109 20,277
什器	2,100	什器	2,100
事務所費	868,401	朝日ビル事務所 分室〃	586,488 281,913
事務費	752,262	通信費 交通費 金融費 刷文具費 房雑費	31,280 197,014 289,468 61,120 31,088 142,292
諸給与	3,036,480	給料 超勤手当 賞与	2,396,700 99,780 540,000
厚生費	172,090	健康保険料 厚生年金〃 失業〃 労災〃 職員福利費	95,044 36,360 19,686 0 21,000
諸賦課金	22,580	諸賦課金	22,580
予備費	149,956	予備費	149,956
合計	11,660,717	合計	11,660,717

本期総収入 11,669,787 ミ 総支出 11,660,717 差引収入超過 9,070

貸借対照表

自昭和30年4月1日　至昭和31年3月31日

借方之部		貸方之部	
科目	金額	科目	金額
現金	728	什器償却準備金	28,839
当座預金	131,465	未払金	435,102
普通預金	25,903	仮受金	228,447
〃	162,224	未経過収入金	196,500
〃	1,281	基本金	47,672
郵便振替貯金	63,287	事業準備金	41,276
定期預金	229,620	故日高胖氏事業資金	217,051
投資信託預金	200,000	創立35年記念勘定	775,870
未収入金	159,510	本期収支勘定	9,070
仮払金	3,235		
未経過支払金	129,327		
什器	163,139		
敷金	231,192		
前期繰越不足金	478,916		
合計	1,979,827	合計	1,979,827

本年度剰余金ハ前期繰越不足金ニ補填

財産目録

昭和31年3月31日

資産之部			負債之部		
摘要		金額	摘要		金額
固定資産		163,139	引当勘定		287,166
什器			事業準備金	41,276	
流動資産		814,508	什器償却準備金	28,839	
現金	728		故日高胖氏事業資金	217,051	
当座預金	131,465				860,049
普通預金	189,408		雑勘定		
定期預金	229,620		未払金	435,102	
振替貯金	63,287		仮受金	228,447	
投資信託預金	200,000		未経過収入	196,500	
雑勘定		523,264	創立35年記念勘定		775,870
未収入金	159,510		35年記念勘定		
仮払金	3,235		基本金		47,672
未経過支払金	129,327		基本金		
敷金	231,192		本年度収支勘定		9,070
前年度収支勘定		478,916	本年度収支		
前年度収支					
合計		1,979,827	合計		1,979,827

昭和31年度収支予算

社団法人 日本建築協会

昭和31年度収支予算は昭和32年1月通常総会において承認されました。ここに御報告申し上げます。

昭和31年度 収入予算

科目	金額	項	金額
会費収入	5,714,400	個人会費	2,604,000
		団体〃	2,880,000
		地方〃	172,800
		準〃	57,600
事業収入	6,900,000	雑誌収入	4,900,000
		講演講習会収入	134,000
		集会収入	420,000
		建材審査料	75,000
		約款売上収入	150,000
		出版収入	1,100,000
		雑	121,000
後援会収入	72,000	五日会	72,000
雑収入	313,600	雑収入	313,600
合計	13,000,000		13,000,000

昭和31年度 支出予算

科目	金額	項	金額
事業費	6,900,000	会議費	100,000
		部会費	20,000
		委員会費	150,000
		雑誌費	4,900,000
		講演講習会費	120,000
		集会費	420,000
		図書出版費	900,000
		雑	290,000
支部費	350,000	支部交付金	270,000
		支部補助金	80,000
什器	30,000	備品	30,000
事務所費	920,000	朝日ビル	600,000
		分室	320,000
事務費	706,000	通信費	42,000
		旅費交通費	200,000
		集金費	276,000
		印刷物費	50,000
		文房具費	30,000
		雑費	108,000
給与	3,200,000	給料	2,550,000
		超勤手当	100,000
		賞与	550,000
厚生費	210,000	健保料	105,000
		厚保料	49,000
		失保料	26,000
		労保料	5,000
		職員福利費	25,000
賦課金	30,000	賦課金	30,000
準備金	110,000	退職準備金	100,000
		什器償却準備金	10,000
過年度不足金補塡	150,000		150,000
予備費	394,000		394,000
合計	13,000,000		13,000,000

絶讃!! 壁材
高尚脱色変色せぬ
趣味の壁砂
富士印
カラーサンド
汚れぬ耐火保温防暑防音
塗るテックス
カラーサンドの
ダンネツオール
合名会社
浜岡商店
兵庫県津名郡一宮町郡家港
電話 郡家二〇番

セラストン 磁器のテラゾー
セラプレート 陶樹脂板
セラコート 陶砂洗出し
セラスキン 液状タイル
製造.販売.KK矢橋大理石商店
製造. オリエンタルメタルKK
商標登録・実用新案
山本窯業研究所
大阪市北区芝田町63・㊫3331～2
タイルは当所関西タイル商会（山本窯業商店改称）にて良品と誠実をモットーに販売致して居りますから精々御下命の程御願申上げます。

関西建材協会　1月分・会報

理事会　10日　4～5時　於南河合

青木副会長，室谷理事長，平田，村田，金光，田中，太田，久保，臼井各理事，佐村木監事，事務局長出席，下記の通り報告。ならびに議事を了った。展示場経過，12月分収支状態，新年会の件。雑誌新聞広告の件等報告。

議　事

1. 2月特別展示会開催の件。
2. 2月建材説明会を会館4階で催す事。
3. 説明用スライド各社調整促進する事。
4. 岡山建築士会建築展示出品協力，とりまとめ後援の事。
5. 徳島市，松江市，申越の建築展は直接交渉とし本会もできる限り援助を申合せた。
6. 能率風呂K.K.全国代理店総会招待の件は開催地遠隔（白浜）のため本年は代表派遣見合せる事。
7. 展示増小間の件は日本板硝子 K.K. より申出の同社調製のガラスケースを入口受付壁面に配置する事を承認し新設増小間は見合す事。
8. 昨秋来検討中の会員より顧問格推薦の件は協議の結果，会員外の顧問各位と会合ならびに将来本会の代表ともなり得られるような会員を考えおく程度に止めることに申合せ一応大阪窯業セメント，東洋リノリューム K.K.，関西ペイント K.K.，淀川製鋼所各社長を予選した。
9. 日本建築協会32年度評議員として昭和化工K.K.，万年スレート K.K.，亀井装飾 K.K.，三和プラスチック K.K.，平田タイル K.K. の5氏を推薦することに申合せた。

新年宴会　10日　5～9時　於河合

32年度本会新年懇親会下の通り開催した。

来賓顧問池田宮彦，伊東五郎，宮脇晴美，布施忠司，竹腰健造5氏，中村会長，青木副会長，室谷理事長，外会員各位共54名出席。

室谷理事長会状報告と新年度事業企画を述べた後，中村会長挨拶，来賓代表竹腰顧問の建材協会に望むと題し種々意見開陳があった後乾盃懇親会に移った。

開催中，会より福引品を渡しなお会員中より寄贈の特別景品の福引を2回に亘り行い和気アイアイ裡に9時志垣長老の音頭で建材協会の万才3唱で散会した。

本催しに寄贈品を寄せられた，下記各社に御厚意のほどを感謝申上げます。

東洋リノリューム K.K.（テーブル・ドップ），明正社（エバーソフト製品），日本板硝子 K.K.（ガラス製灰皿），浪速合板（ベニヤ盆），東日本化学 K.K. ならびに K.K. ケントク（床磨），山崎産業 K.K.（布マット）

建物保全部新年会　16日　5～9時　於天心楼

当番幹事三宮化学 K.K. 外14人出席，32年度企画建築会館室床面清掃を本部会にて引受けの件。その他協議した後懇親会に移り盛会裡に終了した。

事業部宣伝部会　17日　正午～2時半　於談話室

室谷理事長外9名出席。

1. 日本板硝子 K.K. 特別ケース出品料¥10,000とすること。
2. 特別展示会2月中旬林ベニヤ，日比商会，太平ベニヤ，丸中木材，室谷商会など合同でピオンパネル展示開催承認。その具体案検討。
3. 説明会特別展示開期中4階で開くこと。
4. 大阪商工会議所より申越の建設業部会幹事承認の件。
5. 地方巡講の件。日本建築協会とタイアップして津，岐阜，福井，岡山，徳島，山陰方面巡回講演会と建材説明会開催申合せ実行方事務局長に一任した。
6. カタログ集発行，その他を協議。

常設展示場出品者打合せ会

17日　2時30分～5時　於4階

出品者40社出席。室谷理事長司会して来館者調べ経過報告後下記の件協議した。

1. 4月更代期中止希望なきをもって現出展社は更に向う1カ年間継続展示の事諮りたるに異議なく承認。
2. その他事業宣伝部会にて協議した項目を夫々述べ一同承認。

以上終了後岡山県川野建築課長浅原係長を紹介し2月挙行の同地展覧会出展依頼があった。

更に来阪中の徳島県竹崎建築課長よりも4月同地開催の建築展出品協力の依頼があった。

特別展示打合せ会　29日　1～3時　於談話室

出展者　室谷商店　林ベニヤ，日比昌一商店，太平ベニヤ，事務局長出席具体案協議　2月16日～23日を開催期間とした。

日　誌

7日　朝日特種板K.K．工場焼失の報に接したので会を代表し鹿内主事を派し見舞を申上げ粗品を呈した。大阪建設会館開館清酒贈呈祝意を表した。

8日　正午本協会にて大阪建築事務所井上氏と事務局長スイート翻訳進行打合せ。

10日　青木副会長来会手島建築協会常務理事と協議の結果建築と社会掲載の建材協会々報ならびに展示場案内欄として2月より毎号2頁使用決定した。なおガス暖房不充分のため電気ストーブを使用する事とその経費の件は将来全体的に検討申合せた。

10日　スイート翻訳のため阪大学生3名奥島顧問の御斡旋で本日事務局長と会見一部を托することとした。

16日　正午～2時　大阪建築事務所井上，金本2技師と阪大学生3名と事務局長が会合し翻訳の進行を具体的に打合せた。

17日　午前9時　徳島県竹崎建築課長，同県坂東士会々長外来会建築展出品協力方懇請された。

なお岡山県上野課長外一行も上阪依頼されたので同地開催中講演と説明会開催方を約した。

18日　13時より建築協会出版委員会に事務局長出席。

19日　松江市熊野士会理事来会2月上旬同地開催の建築展出品を依頼された。

21日　松井甚商店より談話室ガスメーターボックスビニール紙貼した。

22日　建築協会建材審査会に大和事務局長出席。

24日　広島鉄道弘済会支部建設に付調査役来会，資材調査方依頼申出あり関係方面ならびに金物資材など会員紹介す。

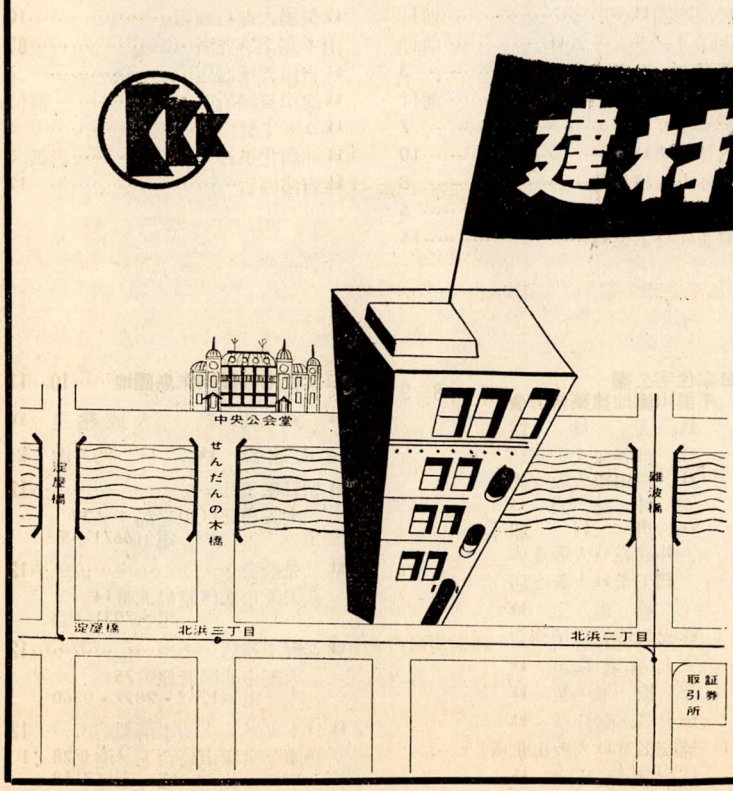
28日　建物保全部より全館床掃除をおこなった。

岡山建材説明会開催経過

岡山県建築士会と建築協会ならびに本会と共同開催した。コンクリート工法と建築資材説明会は2月19日10時～5時同市産業会館にて開催約250名来聴者あり，非常な盛会であった。コンクリート講座奥島博士，中出竹中工務店工事部長，建材説明は山本建材社（スロール），田島応用化工K.K.（シングル），日宝蛭石（ヒルコン），能率風呂K.K.（ガス風呂），浪速合板（ハードボード）三和プラスチック（プラスチックス）6社であった。

◎3月以降地方巡回出張予定

信用と誠実をモットーとする・建材100社の見本が一目で見られる



設計・施行・管理には
まずお気軽にお越し下さい。

関西建材協会

大阪市東区北浜三丁目三七
（近畿建築会館内）
電　話 ㉓ 7172
振替番号大阪 59739

広告目次

(50音順)

建築と社会 Vol. 38 No. 3

浅海電気kk……3
麻村サッシュ工業kk……16
伊奈製陶kk……中挟
朝日石綿工業kk……表紙 4
kk岩住鉄工所……中挟
岩元工業kk……4
kk栄興商会……2
オリエンタルメタル製造kk……中挟
大阪建材工業kk……18
kk大阪城口研究所……2
大阪耐火ボードkk……中挟
kk大阪電気暖房商会……2
大島応用化学工業kk……6
kk奥村重兵衛商店……59
奥山化工業kk……16
織本特殊構造研究所……13
大阪コンペス建材社……6
大阪化成kk……前付
樫野石灰工業kk……10
kk川岸窯業……7
関西三星タイル会……17
関西ペイントkk……表紙 3
亀井kk……6
工藤電気kk……3
kk久保商店……1
黒川化学工業所……10
kkケントク……18
kk建材社……2
kk金剛商会……7
斎久工業kk……2
kk斎藤省三商店……2
三機工業kk……2
kk三幸商会……10
kk三晃商会……2
佐村木商店……10
三和商工kk……表紙 3
彰国社……82
新興建材工業所……14
新日本電気kk……8
kk菅商店……68
須賀工業kk……2
kk鈴木シヤタア商会……10
田島応用化工kk……表紙 2
田中工業kk……1
田中風呂製作所……5
田辺工業kk……42
田村商会建材部……6
大正鉄筋コンクリートkk……7
大日本硝子工業kk……4
大仏組……7
高砂熱学工業kk……3
kk武智工務所……59
耐酸化学工業kk……15
kk立花商会……3
高野アスファルト……7
玉置産業kk……8
第一工業kk……3
中央電気工業kk……3
朝陽電気kk……3
地建工業kk……6
東京鋼板工業kk……5
東洋シャッターkk……中挟
東洋レーヨンkk……前付
東洋陶器kk……前付
東洋リノリュームkk……前付
東洋キャリア工業kk……3
中之島製鋼kk……前付
ナニワ瓦kk……7
内外工業kk……10
内外土木建材社……8
浪速合板……5
浪速建材工業kk……15
日本レイヨン……表紙 4
日本金具製作所……中挟
kk日本シャッター製作所……4
日本ドアーチェック製造kk……中挟
日本セメント防水剤製造所…表紙 3
kk西原衛生工業所……2
日新工業kk……中挟
日昌工業kk……5
日宝蛭石kk……4
kk野上工業所……3
kk林塗装店……10
合資会社汎建製作所……13
浜岡商店……87
kk日立製作所……前付
kk平川鉄工所……中挟
福屋工業kk……10
kk不二製作所……12
藤森工業kk……前付
二葉屋装備工業kk……5
豊国セメントkk……11
水谷ペイントkk……83
kk三高製作所……13
kk三谷製作所……14
水島商店……12
kk峰岸商店……11
明正社……11
kk室谷商店……7
kk矢橋大理石商店……10
山本窯業研究所……87
kk吉田芳雄商店……7
kk淀川製鋼所……前付
kkライト製作所……1
kk油脂化工社……表紙 3
kk吉津商店……12

特別広告関係（順不同）

大日本土木kk大阪支店……7
大阪市北区堂島北町9
電㉞5931（代）—5934

岸野電気kk大阪出張所……7
大阪市南区大宝寺東之町15
電㉗9301

浦安工業kk大阪出張所……7
大阪市北区信保町1ノ51
電㉟7534

旭硝子kk……13
大阪市南区末吉橋4ノ27
電㉕0781・5413(代)

kkヤマト電気商会……14
大阪市北区西堀川町15
電㉞3056(代)

日本住宅公團
千里山團地建築協力会……8, 9
kk大林組
kk熊谷組大阪支店
kk戸田組大阪支店
鍵仲建設kk
kk奥村組
三井建設kk大阪支店
三機工業kk大阪支店
工藤電気kk
kk大阪電気暖房商会
三宝電気工業kk
保坂工業kk
中央電気工業kk
浦安工業kk大阪出張所
江東電気工業kk

日本住宅公團出来島團地……10, 11
kk銭高組　大成建設kk
清水建設kk　kk鴻池組
kk朝日工業社……12
大阪市北区中之島4ノ39
電⑭6671—5

kk三晃商会……12
大阪市北区堂島北町14
電㉞7031(代)

kk森野工務店……12
大阪市北区菅原町75
電㉟1267・2829・0360

kk日本セメント防水済製造所……12
兵庫県宝塚市高台上ノ池北28ノ1
電　宝塚2153

暖・冷房・空気温湿度調整装置

設　計　施　工

高砂熱学工業株式会社大阪支店

大阪市北区中ノ島3丁目3番地（朝日ビル7階）
電話北浜㉓1334～8・7359
本　社　東京都千代田区神田駿河台4丁目2番地

空気調和装置、各種冷凍機
設計・製作・施工

東洋キヤリア工業株式会社
大　阪　支　店

大阪市北区堂島船大工町五三番地(毎日大阪会館内)
電話大阪㉞局代表8356
本　社　東京都中央区日本橋兜町三丁目二四番地
出張所　名古屋・九州　　工　場　足立

電気工事設計施工
変圧器電動機電気冷蔵庫
電気洗濯機販売修理

工藤電気株式会社

大阪市北区太融寺町五四
電話・大阪㊱2891－5番
工　場　大阪市西淀川区御幣島東一丁目二〇
電話淀川㊼3477・3478
営業所　東京・名古屋・神戸・岡山・広島

各種電気工事設計施工

淺海電気株式会社

取締役社長　**浅海正雄**

大阪市東区北浜二丁目六九
電話北浜㉓5273－5275・4241
営業所　東京・神戸・岡山・小倉・札幌

電気設備工事
設計・施工

朝陽電気株式会社

本　社　大阪市北区中之島三丁目三　朝日ビル6階
電話　大阪局㉙8851番・㉓9531・1334・2351
営業所　大阪市西区土佐堀通り四丁目十一番地
電話　大阪局㊹0140・4595・7563

電気工事全般設計施工

中央電気工業株式会社

取締役社長　**今村　騰**

本　社　大阪市北区曾根崎上一丁目四一
電話　大阪㉞8131代表～4
営業所　東京・新宮・御坊

三菱電機製

NFノーヒユーズ分電盤　NFノーヒユーズ配電盤
螢光灯・モーター・変更器・冷暖房・エレベーター
三菱電機株式会社元扱店

株式会社　立花商会

大阪市東区南本町二丁目四三番地
電話本町㉘(代表)0671～9

電気工事設計施工

株式会社野上工業所

取締役社長　野上清二郎

本社　大阪市東区北浜三丁目四七　電話北浜㉓773～3
支店　福岡市上東町十五　電話東③5010
支店　松阪市本町電話　13
出張所　東京・名古屋・神戸・直方・田川・大分

温湿度調整装置、煖房、冷房、水道、搬送機設備　設計並ニ施工

第一工業株式会社大阪支店

大阪市北区富田町三〇番地　電話大阪㉞{(代表)0977 / 0978～9・0970
本　社　東京都千代田区丸ノ内二ノ一〇　電話㉘2631－4
仙台支店　仙台市新伝馬町六〇　電話　7332
名古屋出張所　名古屋市東区東門前町三ノ六　電話⑨2893

焼成

ヒルコン

絶対廉価

耐火・断熱・軽量・保温・保冷

吸音・防音・結露防止

大阪市東区高麗橋3－7

日宝蛭石株式会社

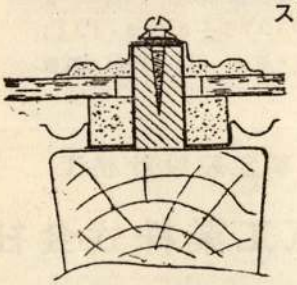
TEL (23) 1601・5627・5628

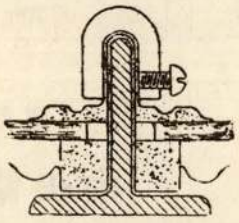
特許岩元式 スカイライト・並ニベンチレーター

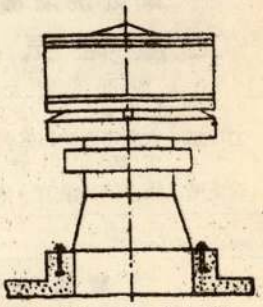
スチール サッシュ・ドアー・オペレーター其他修理

設計
並
施行

カタログ進呈







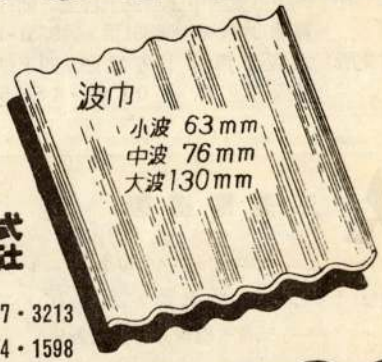
岩元工業株式会社

本社 大阪市東成区東今里町4の40
電話東㊾8870・9350
倉庫 大阪市天王寺区堂ケ芝町5
電話天王寺㉗6980

光り 波型ガラス

ワイニチライト

ポリエステル樹脂
硝子繊維強化板
6尺×2尺4寸(波型)



製造元 大日本硝子工業株式会社

大阪営業所 大阪市北区玉江町2～4（三菱倉庫ビル）電話土佐堀㊹1597・3213
本社 東京都中央区銀座7～3（朝日ビル）電話銀座㊲2324・1598



4 大阪府営堺宿院店舗付共同住宅

戸締ノ改革

PATENTS No:414855 No:414856 No:35528

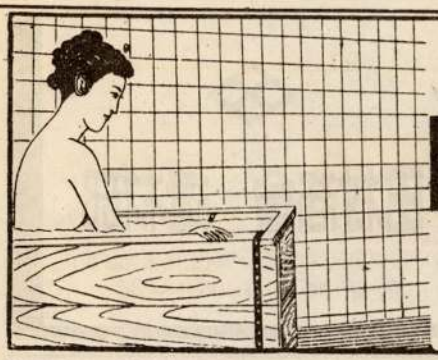
店舗、倉庫、ガレージ等ニ最適デス。開閉ハ片手ニテ軽ク揚ゲ降シ致シマス。価格ハ至極低廉デス 御一報係員参上、カタログ進呈

専門製作
株式会社日本シャッター製作所
大阪市東淀川区田川通6丁目38
電話豊崎㉛439

スチールサッシュ
スチールドアー
スチールシャッター

東京鋼板工業株式会社

大阪支店
大阪市北区絹笠町18番地（聚嘻ビル三階）
電話北㉞0621・0628
本社及工場
東京都荒川区尾久町5ノ1.000　電話荒川㊴8131-4



清
各種鋼鐵風呂釜一式
箱風呂・ボイラー・ガス風呂

田中風呂製作所

大阪市浪速区元町一丁目七四二　但シ賑橋電停前
田中風呂発売元
電話　戎㊹5313・8128

日昌式安全葺
金網入 波型ガラス
規格　巾2尺4寸×長さ6尺
（カタログ進呈）
日昌工業株式会社
大阪市旭区生江町2丁目40　電話㉟3356・3500
東京都中央区日本橋浜町3の2　電話㊼5873・7344

ナゴヤ・ボード

吸音新製品1尺×8尺　4尺×8尺
日昌工業株式会社
大阪市旭区生江町2丁目40　電話㉟3356・3500
東京都中央区日本橋浜町3の2　電話㊼5873・7344
製造元　名古屋木材株式会社

FUTABAYA DECORATORS, LTD.
建築物船舶等造作工事
家具・建具・室内装飾工事　設計施工
内外織物・敷物類一式
（創業大正7年）
若 二葉屋装備工業株式会社
取締役社長　若林繁吉
大阪市大淀区本庄川崎町2の6
（天六電停西北2丁）
電話・豊崎㊲3321～3・3630

吸音多孔合板
ベニヤトーン
日楽の繊維板
ヤマハボード
瑞典のハードボード
エロナイト
二重色調浮出塗
カラーボード
ポリエステル化粧板
ポリプライ
防音と色彩調節板
リズムウード
高級接着剤
ポリゾール
九ツの特長を誇る
九徳天井板



モデルルームへどうぞ
一歩でも時代感覚に先駆しようと努力しています
大阪市浪速区幸町通3丁目20
浪速合板
電話 新町(53) 2201-3番
工場　大阪市住吉区西加賀屋町4丁目81・電話 住吉(67)5109

耐久力鋼板に勝る耐酸被覆鋼鉄板

浪板・谷樋・水切 軒樋
排気ダクト・ベンチレーター

PATENT Standard

ニュースタンダード メタル 日本建築協会優良証明受領

大島応用化学工業株式会社

STANDARD METAL

本社・大阪市城東区野江東之町4丁目 電話 城東(33)4481
支店・新居浜市・電話 新居浜327・938 出張所 四日市市 電話四日市65 ・広島市 電話南(4)2473

ヨツメ タコスボード

日本楽器製 高級合板

タムテキス
ヤハズラス
フローリング

田村商會 建材部

神戸市生田区栄町通2ノ39(安田火災ビル)
電話 神戸 ③ 0591～3番

窓掛、緞帳、日除、壁紙 室内装飾 絨毯、舗床材一般

東洋レーヨンのナイロン緞通と絨毯 発売元

亀井株式會社

大阪市東区南久宝寺町四丁目(心斎橋筋)
電話船場 (25) 1353～5番

経験と技術

Y.C.コンベス(リグノイド)

ゴムタイル
プラスチックタイル
スポンヂシート
アスファルトタイル

大阪コンベス建材社

大阪市北区浪花町三五 電話豊崎㊲6760・7063

新工法

地建の合成杭 特許出願中

木杭より安い

杭打基礎工
井筒基礎工
施工

地建工業株式会社

大阪市北区絹笠町堂ビル電36—2701 36—1141

改訂増補版

コンクリート施工指針

¥330.(会員¥300.)送料¥35.

社団法人 日本建築協会発刊

風雨に強く
和瓦より安い
大和洋瓦（だいわ）
發売元
大仏組　大仏瓦・各種和洋瓦 工事請負一式
本店　京都市東山区今熊野池田町九　⑥3555
大阪営業所　大阪市東区内淡路町一丁目　㉞ 975

耐酸ツボ各種
天窓瓦福林産地直売
建築陶器の百貨店
株式会社 吉田芳雄商店
大阪市北区南森町交叉点
電話堀川㉟3402・9034

タイル 衛生陶器
販売と施工
奉仕感謝の店
株式会社 川岸窯業
大阪市西区靱北通一の五（市電京町橋電停前）
電話土佐堀 ㊹ 2571番

ルーフイング
防水工事
メタルラス
高野アスファルト
大阪市西区江戸堀上通二丁目四二　電話 土佐堀 ㉞4164・2148番

特許植物性　型枠離剥塗料
サンヒット
関西代理店　株式会社 金剛商會
大阪市西淀川区野里町1231　阪神国道電車　野里電停前
製造元 東京 坂巻サンヒット商会　電 淀川㊼0417・4091

台風に強い
ナニワS瓦
赤褐・黒・緑・青緑色
真空処理された
優秀瓦
大阪市浪速区元町一丁目七四二
市電賑橋（ナンバ）電停西側
ナニワ瓦株式会社
電話戎（六四）五〇六五番

Acoustic Tex
吸音テックス
株式会社 室谷商店
本社　神戸市生田区長狭通四ノ一地産ビル
TEL 三宮 ③0881～3
支店　大阪市北区絹笠町五〇　堂ビル5階
TEL大阪㊱2021・3486・1141

営業種目
土木建築設計施工
鉄筋コンクリート煙突
サイロ・工事
組立塀・工事
高架水槽
大正鉄筋コンクリート株式会社
大阪市北区絹笠町50（堂ビル4階）
電話大阪㊱0923番1141番

コガネライト

軽 鹿兒島産 軽量コンクリート用 石

蛭石焼成品

断熱・耐火・軽量・防音・美麗

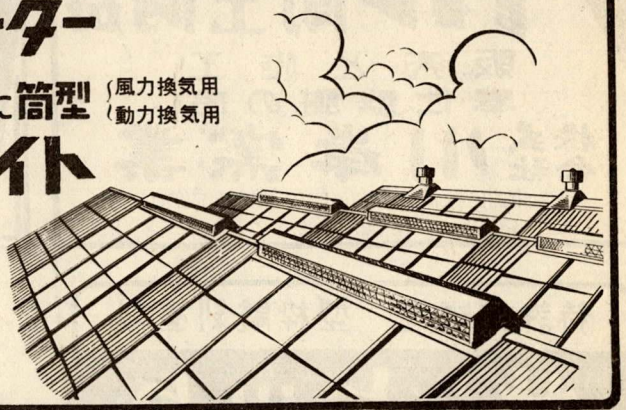
製造販売 玉置産業株式会社

本　社　大阪市南区心斎橋筋南詰東入　電話代表㉗5675番
神戸支店　神戸市東灘区御影町　電話御影⑧3016番
工　場　大阪市大正区三軒家　電話泉尾㊺1719番

内外式 ベンチレーター

性能を誇る コンチニアス並に簡型 {風力換気用 / 動力換気用}

内外式スカイライト



一般硝子屋根＝ワイヤ波型硝子屋根

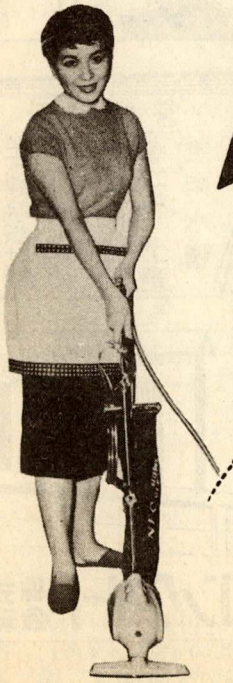
設　計　施　工

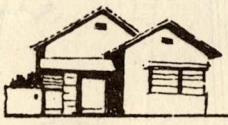
株式会社 内外土木建材社

大阪市西区土佐堀船町23（大阪商工ビル）
電話土佐堀（44）3983番 4396番

NEC

NEC ホームクリーナー





従来のものと比較して
こんなに改良されています

☆吸引力は日本工業規格の3倍以上
☆電気代は1日15分使用1ケ月僅に15円
☆機械部の二重ケースによる騒音の僅少
☆広大な收塵袋と逆流防止装置付
☆モートル軸受に特殊ボールベアリングを使用することにより寿命は半永久的
☆ラジオ・テレビへの完全雑音防止器付

CL－20A型
正価 ¥16,200
（応用部品付）

シルバニア技術提携

住友系 新日本電氣株式會社

大阪・東京・名古屋・広島・福岡・札幌・仙台・長岡・静岡・金沢・岡山

アスファルト防水工事施工上の注意

1. 下　　地

防水下地は容積1：3のセメントモルタルの勾配を$\frac{1}{100}$以上にとって厚さ1.5cm以上に塗り凸凹のないようにする。防水層に損傷を与える惧れある突起や穴は必ず平らに補修せねばならない。また屋根下地にシンダー・コンクリートは使用せぬこと。パラペットとその他立上りの入隅は幅10cmに45度の角度を取り，入隅が直角にならぬようにする。立上りの貼り終りはルーフィング類が下地に密着して空隙を残さぬ様，入念に下地拵えをさせねばならない。

2. アスファルト・プライマー

下地が充分乾燥してから良く清掃し，アスファルト・プライマーを刷毛塗または噴霧器で塗布する。プライマーは開罐後ただちに使用し，残量ある場合は密閉しておき，使用の際は火気を近ずけぬよう注意すべきである。室内では窓を開放すること。乾燥をまち，アスファルトを塗布する下地とする。

3. アスファルト

使用するアスファルトは三星アスファルト・コンパウンドとし施工方法及び使用量は次表による。（使用量はkg/m²単位）

アスファルトの塗り方

塗り方，使用量 ＼ 各層使用量		ルーフィング類貼付上塗						
		1.2	1.5	2.0	2.8	1.0	1.3	2.1
流貼	単独に使用 1.2	◎						
	下塗のある場合 0.7		◎	◎	◎			
刷毛塗 0.8～1.0			◎		◎	◎		◎
モップ塗				◎	◎		◎	◎

特に網状ルーフィングを貼る時はその上から刷毛またはモップで充分目潰塗をせねばならない。アスファルトは230°以上に過熱しないように注意し，使用する場合ほぼ同様の温度を保つようにする。

4. ルーフィング類

アスファルト・ルーフィング類は使用する前に必ず両面の石粉を掃いおとすこと，ただしギルツイドルーフィングは直ちに使用できるのみならず，表面のギルソナイトが融けて密着を助ける特長をもつている。

ルーフィング類の継目は各層縦横ともに10cm以上重ね合せ，上下層の継目が一カ所にならないようにする。出隅，入隅には網状ルーフィング幅20cm以上のものを増貼する。貼付には空隙気泡，しわ等のできないように平均に押均して密着させること。雨仕舞は各層順に3cm～5cmづつ延貼りにする。

5. 防水層押え

防水層押えを砂利撒とする時は1坪当り60kg以上を使用し，煉瓦，コンクリートブロック，シンダー・コンクリート，セメント・モルタルなどを使用する場合も防水層を損傷しないよう充分に注意して施工し，手押車や釘によつて防水層を破らないように注意せねばならない。

また平面の押えモルタルは縦横とも3m毎に幅約1.5cmの伸縮余裕をとり，三星コーキン（または三星アスファルトコーチング）を充填する。

立上り防水層押えを煉瓦積とする時は防水層より2cm以上離して煉瓦を積立て防水層との間には容積比1：3のセメントモルタルを充填する。

立上りをモルタル押えとする時は防水層にメタルラスを20cm間隔にトンボ付けとして後容積比1：3のセメント・モルタルを厚さ2.5cm以上に塗立て防水層のパラペットとの間に隙間を生じないように注意すること。

いづれの場合にも監督者の指示ある時は立上り上方のパラペットに水切りを作り，あるいはパラペットの亀裂をセメント・モルタルあるいはアスファルトにて充填して防水層の裏面への雨水の浸入を防がねばならない。

6. 増築に原因する不同沈下または振動のため亀裂の生ずる惧れのある箇所もしくは特殊の構造のために漏水の惧れのある箇所にはあらかじめ，監督者と協議して網状ルーフィングの増貼その他適当なる対策を工夫すること。

標準セメント防水材・特許ニッポン
特許ニッポン防水液・急結液一号（噴水急止）
二号（湧水防止）・姉妹品粉末ニッポン
施工指導並ニ責任模範施工

黒川化学工業所

（国立大阪工業試験所創製）セメント防水材特許権実施工場
（大阪営業所）北区芝田町六八　電話北㉞7916
（本社・工場）神戸市灘区住吉町反高林1876・
御影 ⑧ 2723

風雨に強い **平安瓦**

合資会社 **佐村木商店**　実用新案

営業所　大阪市東区京橋前之町二　各種瓦葺工事請負業
電話 ㊹ 1528

株式会社 **矢橋大理石商店**

大阪出張所

大阪市東区高麗橋二丁目九　野村ビル五階
電話北浜 ㉘ 4257－8番

工業用及建築用各種石灰製造販売
小野田セメント特約販売店

樫野石灰工業株式会社
大阪支店

大阪市北区曾根崎新地三丁目五十三ノ一
（市電桜橋停留所前）電話大阪㉞1274～6
支店・徳島・神戸・姫路・東京

PAINTING CONTRACTOR

塗装工事請負

株式会社 **林塗装店**

TEL. 大阪 ㉕ 1756－7・東京 ㉙ 1335

陶管・ベンチレーター

株式会社 **三幸商会**

大阪市北区曽根崎上一ノ四一
電話 大阪 ㉞ 3145

ヒューム管

リグノイド床・床材料

製造・販売・施工

福屋工業株式会社

本店　大阪市西区南堀江上通一丁目卅一
電話 新町 ㊸ 3426～7

鈴木式防火シヤタア

鈴木シヤタア工業株式会社大阪出張所

株式会社 **鈴木シヤタア商会**

大阪市北区茶屋町三十三番地
電話 豊崎 ㊲ 98・5837・8729

N.G.C式

セルコンインシュライト断熱材関西総販売店
メタリヤンミツシユD.M 38番責任施工
米国パブココンパウンドアスファルト販売

責任施工
アスファルト防水工事
セメント防水工事
アスファルトモルタル床舗装工事
耐酸アスファルトモルタル工事

内外工業株式会社
脇山静夫
大阪市阿倍野区旭町一ノ五一
電話 ㊻ 3434～6

良心的な工事と材料

アスファルト
防水工事．耐酸工事．

ブリヂストンの
エバーソフト
最も進んだゴムのクッション

志垣の 明正社
大阪市北区樋上町45 [redacted]
TEL (34) 8157・8158・8159

豊国セメント株式会社
本社 福岡県苅田町
事務所 小倉・大阪・東京

ボッシュ電動式ハンマー

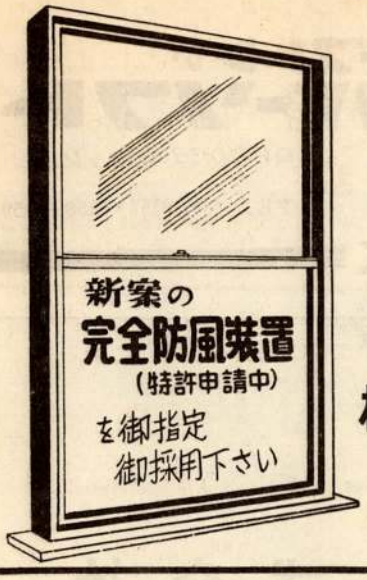


強力・堅牢・高能率
穿孔・削切兼用・(電灯線使用)
コンクリートの穿孔，削切
目粗しに高性能を発揮します。

独乙ロバート・ボッシュ会社製
日本総代理店
株式会社 峰岸商店
大阪出張所 大阪市西区江戸堀上通1丁目18番地
電話土佐堀㊹2181番

カタログ本誌名記入
お申越次第進呈

西日本地区特約代理店
千田産業株式会社
広島市千田町1丁目602番地 電話南④2804番



不二サッシ

◦機械設備の充実　◦絶対責任製作
◦卓越せる技術　◦堅牢軽快優美

株式会社 不二製作所大阪支店

大阪市西淀川区御幣島町中三ノ四
電話淀川㊼1220・1454～6・4414～5
本社及び工場　川崎市中丸子一三五　電話田園調布㉜4261～5

⑤

ワシ印耐火・吸音・防音・美麗

石綿 吸音板 壁材

吸音板	4m	1.×1.
〃	〃	3.×3.
壁材	〃	3.×6.

株式会社 吉津商店 建材部

大阪市東成区南中道町二ノ一〇二　電話㉕3702
工場　東京都中央区霊岸島町1ノ1　電話㊺0632
倉庫　大阪市大淀区浦江北二丁目139　電話㊺1088



おそうじが たのしくなる
七色の虹のモップ

ホーム ソフト モップ

画期的な水拭用モップ

一家に一本 たのしい おそうじ
事務所に一本 そうじの合理化
そうじ器具専門のデザイナーが
3年間の研究の結果
説明書進呈

新案願 No.52201
意匠願 No.13950

合成スポンヂ モルト ブレン使用

ミヅシア

の新発売品

絞り器が付いて 650エン

・建築会館建材展示場見本展示・

株式会社 水島商店
大阪市西区北堀江上通一丁目　TEL㊸3514・8246
京都市中京区蛸薬師烏丸西入　TEL②5363
京都市右京区西院松井町八　TEL㊹1697

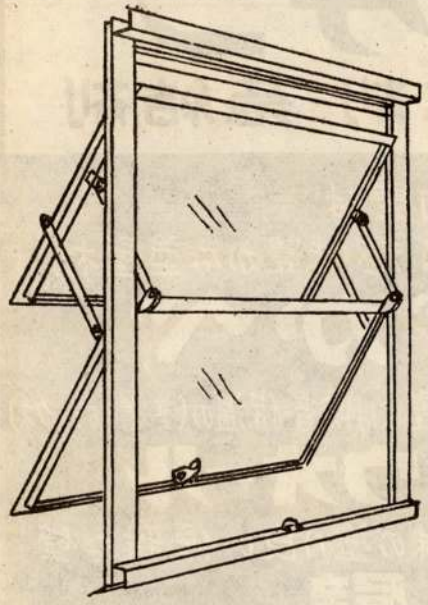


ホーム スクイザー
(ホームソフトモップ専用絞り器)
新案願 No. 52202

三高式　ドアーハンガー　　スチールサツシュ
三高式　オペレーター　　スチールドアー
三高式　重量戸車　　スチールシヤッター

TRADE MARK
M.T.K.S

株式会社　三高製作所
本社工場　大阪市東区谷町五丁目二八　電話東㊾2969・0444



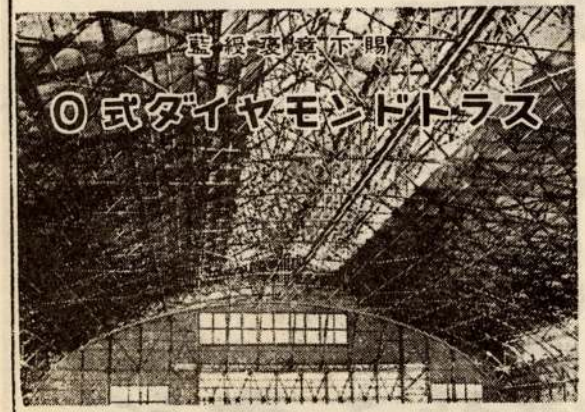
一般製品　スチール　サツシユ
スチール　シヤツター
スチール　ドアー

独特製品　汎建型上下げ窓
双脚の四面が摺り合され自然に気密度が高い。
神高型竪形辷出し窓
両開きや片開きに代る堅牢で耐久な構造。
連動突出し辷出し窓
辷出しと上釣りとが完全に平衡連結され操作軽快、開閉確実、体裁優秀な新型。
遞増減分鋼付きシヤツター
大型シヤツターも軽くはやく開閉出来る。

新規製品　普及型上吊り引違い窓
質実堅牢で最も廉価・校舎宿舎などに最適

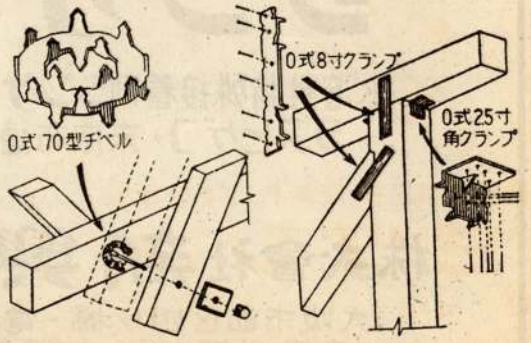
合資会社　汎建製作所
大阪市此花区恩貴島北之町十一番地　電話　此花㊻2903・4461

鉄材が少くてすみ施工簡易な格納庫・工場・体育館の建築には
"ORIMOTO" DIAMOND TRUSS



設計の御依頼に応じます（施工は御自由です）
カタログ及び設計参考資料贈呈
考案　織本建築設計計算事務所

官公庁御採用　耐震耐風木材接合金具
住宅、工場、学校、集会場、体育館にまた2階梁に
PAT O式ヂベル
PAT O式クランプ



販売　織本特殊構造研究所
東京都中央区日本橋蠣殻町3～2（水天宮交叉点角）TPL（67）6443・7007・7062

特殊壁材製造並
右官材料專門卸

セメント防水剤は世界的水準を行く
JIS合格品の御使用を!!



シンケン
防水剤・急結剤

近代建築の和洋室内壁は
防音・保温・落ちぬ・趣味豊かな塗壁材

いすゞかべ

劇場・洋室・学校講堂・公会堂等の内壁には防音・保温の(塗り着けるテックス)

チェリーウオール

(新発売) 純日本趣味の塗り良い優雅な壁

錦　壁

セメント・石灰・プラスターの着色剤は純鉱物性・絶対不変色

チェリーカラー

セメントの(アク)で御困りの場合は

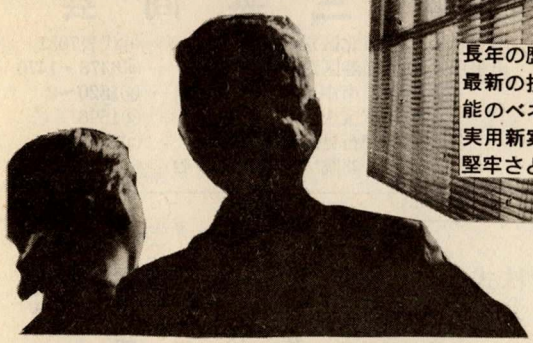
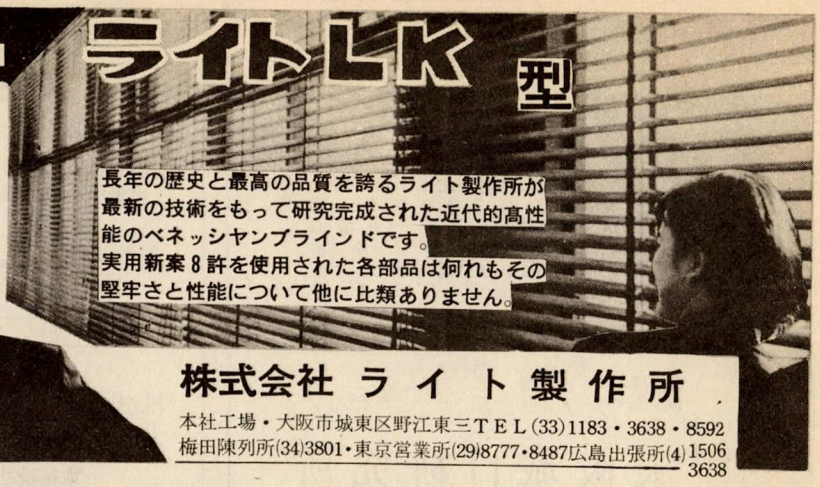
シンケン
セメント・アク止剤の御使用を

水溶性特殊接着剤シンケン糊・桜印酸化黄・
ラスヒゲコ・末広布連・其他特殊材料発売元

(型録御通知次第御送附致シマス)

株式會社新興建材工業所

大阪市西区四ツ橋・電話新町(53)1988・9720番
工場　大阪市住吉区東長居町36・電話住吉(67) 212番

新製品
ベネッシヤンブラインド
ライトLK型


長年の歴史と最高の品質を誇るライト製作所が
最新の技術をもって研究完成された近代的高性
能のベネッシヤンブラインドです。
実用新案8許を使用された各部品は何れもその
堅牢さと性能について他に比類ありません。
株式会社 ライト製作所
本社工場・大阪市城東区野江東三TEL(33)1183・3638・8592
梅田陳列所(34)3801・東京営業所(29)8777・8487広島出張所(4)1506
3638

田中式 スカイライト
オペレーター
スチールサッシュ
ベンチレーター
設計施工
田中工業株式会社
本　社　東京都墨田区吾嬬町東4ノ122　電話城東(78)0870,0970
錦糸工場　東京都墨田区錦糸町1ノ25　電話本所(63)0790
小倉工場　小倉市鍛冶町1ノ1　電話小倉653　【出張所】川崎・名古屋・小倉・広島・札幌
大阪出張所　尼崎市南竹谷町2ノ89　電話大阪48 545

信用ある技術と伝統の
アスファルト工事専業大店
株式会社 久保商店
大阪市北区真砂町5番地
電話大阪(34)207～8・4836～7

媛冷房・水道衛生工事
設計施工

株式会社 **栄興商会**

取締役社長 中山俊人

本社 大阪市福島区上福島北二丁目一番地
電話福島㊺3391～4番
支店 東京都新宿区荒木町一九番地
電話四谷1324番
出張所 神戸市生田区下山手通八丁目三三
電話元町④5377番

暖房・冷房・水道・衛生設備
設計施工

株式会社 **三晃商会**

本社 大阪市北区堂島北町一四 ㉞代表7031
出張所 東京都港区芝琴平町四〇 ㊽8478・1470
名古屋市中区新栄町二丁目一 ⑨1820～2
福井市宝永上町一〇五 ②1596
広島市石見屋町五五 ②1773
福岡市薬院大通一丁目一七 ④1158

給排水・衛生
暖冷房・換気 設計施工

株式会社 **大阪城口研究所**

代表取締役 城口庸平

大阪市北区高垣町一・電話豊崎㊲7575～7
京都市東山区大和大路大仏前・電話祇園⑥4945～6
神戸市生田区下山手通六ノ一・電話元町④5892

電気・暖冷房・水道・衛生
設計施工

株式会社 **大阪電気商会**
株式会社 **大阪暖房商会**

取締役社長 菅谷三郎

本店 大阪市西区江戸堀南通一丁目三七番地
電話土佐堀㊹代表5231番
東京支店 東京都中央区銀座西二丁目一番地
電話京橋㊺代表6291番
名古屋支店 名古屋市中区南武平町二丁目一番地
電話中㉔代表4491番
出張所 京都・神戸・岡山・広島・福岡・熊本
札幌・仙台・新潟・金沢・福井

水道・衛生・媛冷房・其他管工事
設計並施工
特許YM式ルーフドレイン製造販売
(旧斎藤久孝事務所)

齋久工業株式会社大阪支店

大阪市南区順慶町通一丁目四四番地
電話本町局㉘代表4496～8番
本店 東京都千代田区丸ノ内2ノ8仲12号館5号
電話28局6505～8番
金沢営業所 金沢市高岡町三五 電話金沢本局②2074
福井出張所 福井市城之橋下町一〇 電話 福井2436
高松出張所 高松市中新町一〇六ノ三 電話高松5195

創業 大正二年
暖冷房・換気・空気調和
病院諸機械・給排水・衛生

株式会社 **齋藤省三商店**

東京店 東京駅前丸ビル6階676区
電話和田倉⑳3761・3762・3763・3764
大阪店 大阪市西区土佐堀通大同ビル714号
電話土佐堀㊹1568・1569・2594
札幌店 札幌・北四・西四(札幌駅前)
電話札幌②0010・0956③4661
名古屋店 名古屋市中区南大津通一丁目千代田生命ビル522号室
電話中局㉔1766

暖房・冷房・衛生・水道・電気・厨房・築炉
鋼製建具・軽量間仕切・工事設計施工
電縫鋼管・荷役機械・製造販売

三機工業株式会社大阪支店

大阪市東区高麗橋三丁目壱番地・電話代表26局 2951 3076
本社 東京都千代田区有楽町壱丁目十番地
支店・出張所 名古屋・福岡・札幌・広島
工場 川崎・鶴見・中津・六郷

暖房・冷房・水道・衛生工業設備
設計施工

須賀工業株式会社

大阪市福島区堂島浜通4丁目
電話㊺{代表1171番 / 代表1351番}

東京支店 東京都港区芝田村町6丁目 電話㊸代表7151
名古屋支店 名古屋市中区材木町1丁目 電話㉓ 2780
京都支店 京都市下京区烏丸通松原下ル電話⑤ 1989
神戸支店 神戸市生田区北長狭通2丁目 電話③代表5101
福岡支店 福岡市千代栄町 電話②代表4735

給水・排水・衛生設備・暖房設備
汚水浄化装置・都市廃物処理装置

株式会社

西原衛生工業所大阪店

大阪市大淀区中津南通二丁目五一番地
電話福島㊺3416～8番
東京事務所 東京都港区西芝浦三丁目一番地
電話三田㊺9371番

空気調和装置及衛生設備
設計施工

株式会社 **建材社**

大阪支店

大阪市北区中ノ島三丁目(朝日ビル九階)
電話本町㉖8851～9
本社及東京支店 東京都中央区八重洲三丁目七
営業所 名古屋市中区西万町二丁目一

(NK) 浪建式

スチールサッシユ・ドアー
シヤッター・オペレーター
－製造販売－

日満ゴムタイル
全國総代理店
責任施工

大正十四年創業 浪速建枝工業株式會社

本社・工場・大阪市城東区野江中之町一丁目九番地　電話城東㉝1171～3番
東京営業所・東京都中央区銀座東六丁目木挽館ビル六号館607号室　電話東京㊺4611
福岡営業所・福岡市大名町二丁目98　電話西②4948番
出張所・大分市栄町下市三一七番地　電話大分1366番

化学工場の建物を
酸蝕から守れ！



耐酸　耐油　耐アルカリ

最新式　耐酸　レヂンライニング
ポリエステル系レヂンライニング
各種合成樹脂ライニング
サルファ系煉瓦目地材料
特殊アスファルト耐酸工事

現場責任施工

設計・施工には是非弊社に
御相談願います



耐酸化学工業株式会社

大阪市北区高垣町80電話大阪(36)0178・4161(代表)

優秀技術を誇る！

麻村の

スチール
サッシュ
ドア
シャッター

責任.設計.製作.

麻村サッシュ工業株式会社

本　社　大阪市城東区野江東之町一丁目十二番地　電話城東(33)2854・5272番
出張所　名古屋市北区御成通り一丁目十三番地　電話東(4)2274番
鴫野工場　大阪市城東区天王田町一丁目一七一番地

黄綬褒章受賞
特許 奥山式 熱工法 冷工法 綜合防水層

カッパー防水帯

C.F # 38

COPPER-BOSUITAI
OAM
TRADE・MARK

カッパーメッシュ
コーパータイト

耐酸耐油工事
アスファルト工事一般

製造元　奥山化工業株式會社

東京都中央区銀座西8丁目3番地・電話　銀座(57)2703－4・2370・4064・0264

color conditioning for flooring

三星アスファルトタイル

カタログ・見本 御申込
次ヤお送り致します。

責任施工代理店（順不同）

〔近　畿〕

三友工業株式会社
大阪営業所
大阪市東成区大今里町655
大阪セルロイド会館内
電話南㉕8031～4

合名会社 利倉幸商店
大阪市南区長堀橋筋2ノ20
（日本橋電停前）
電話南㉕471・472
京都出張所
京都市中京区河原町夷川下ル
電話③3299

株式会社 木下謹三商店
大阪市西区江戸堀南通5ノ35
電話土佐堀㊹5408・5486

株式会社 久保商店
大阪市北区真砂町5
電話大阪㉞207・4836～7

タテバヤシ商店
京都市上京区大宮通四条下ル
電話壬生㉞4468

石井建材有限会社
神戸市兵庫区荒田町1
電話湊川⑤2697・2140

〔中国・九州〕

青盛建材株式会社
広島市鉄砲町108
電話中②2281～3

青盛建材岡山営業所
岡山市東田町3
電話②7911・8169

青盛建材福岡営業所
福岡市萬行寺前町14
電話東③1225～6

〔東　海〕

株式会社 名建商会
名古屋市中区宮出町41ノ2
電話中㉔1329・2106・2817

合資会社 岡田建材店
名古屋市西区西菊井町2ノ12
電話西㊽0121・2057

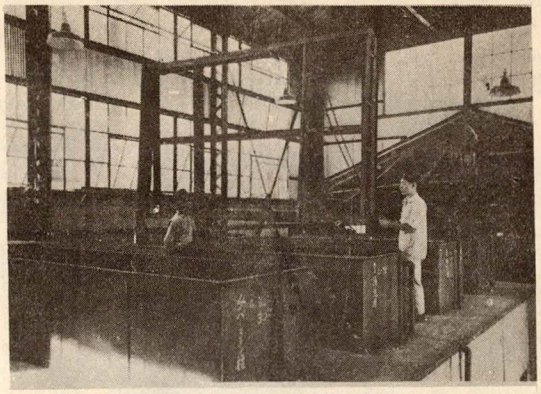
【専属の職人養成並指導】

和泉産業
大阪市南区日本橋筋2ノ36
電話戎㊸3286

関西三星タイル会

サッシュ

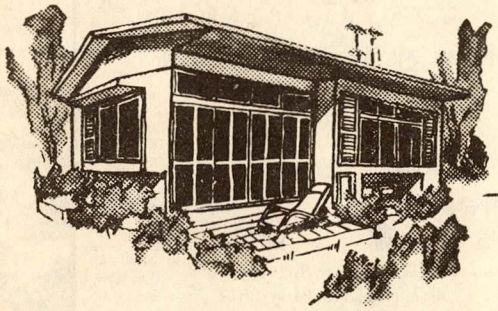
ドアー
シャッター
オペレーター



当社パーカーライジング工場の一部

大阪建材工業株式會社

営業所　大阪市南区九郎右衛門町二一　電話南（75）507・3137・3138
堺工場　堺市松屋町一丁六番地　電話堺(102) 1586・4800・4801
泉尾工場　大阪市大正区泉尾浜通り四ノ六一番地　電話泉尾（55）223
出張所　名古屋・金沢



家を建てたら・・
ツヤ出しケントク

——板の間・廊下に——→

新築に

水拭きではすぐに黒ずみニス・ラッカは白木の味をなくし、はげると見苦しくなりますが、すべらぬ白木艶出ケントクを月に一～二回ぬりこめば毎日はカラ拭きで新築そのまゝの美しさを保ちます。



板の間廊下のすべらぬ白木ツヤ出し

ケントク



白木液体ケントク一升罐四九〇円で約十五坪、丸罐半ポンド二九〇円で約五坪みがけます

大阪市東淀川区新高南通1—14　KKケントク　電話㊲3416・1668

新しい建築に……最も新しい材料を

ガラス繊維の理想的スクリーン

レックスネット

用途　防虫網・屏風・衝立・間仕切
製版用網・化学濾過用

Lexnet

製造元
日東紡績株式会社

☆カタログ御入用の方は御一報下さい



ガラス繊維を基材とした強化プラスチック建材

グラスライト

用途　採光板・日除け・移動スクリーン・天井板・腰張り・商品陳列棚
装飾用板・化学工場用壁及窓材



Glaslite

販売特約店
三和商工株式会社
大阪市東区伏見町4ノ33
電話北浜(23)2456-9・9944

Zola-Coat

米国特許
No.2591904
日本特許（申請）
No.3734—52
英国特許
No.760605



関西ペイント

新しい塗料から生まれる新しい環境

コンクリート・モルタル・プラスター・木材・
金属・紙・繊維・皮革・その他あらゆる材料に
深さと魅力を与える高分子多彩塗料

ゾラコート

カタログ御希望の方は大阪市東区伏見町5丁目　当社宣伝課へ

日本建築協会優良證明

セメント増強防水剤



ウォータイトB号

御一報次第型録並仕様書進呈

株式会社 **日本セメント防水剤製造所**

本　社　兵庫県宝塚市高台上の池北28-1　電話宝塚2153
工　場　尼崎市難波本町1－34　電話大阪(48)1526
名古屋出張所　名古屋市中区春日町16(安藤ビル内)　電話南(32)1331

紫綬褒章に輝く

責任・施工・請負

特許 **特マノール防水剤**

特許マノール急結剤　特許マノール接着剤

新日本メタルホームKK推奨品

株式会社 **油脂化工社**

取締役社長　矢中龍太郎

本　社　東京都品川区二葉町1—441　電話(伊原)58)1715
大阪営業所　大阪市城東区中本町529　電話東㊾4765

昭和二十四年三月十九日
第三種郵便物認可

昭和三十二年三月二十日印刷
昭和三十二年三月廿五日発行（毎月廿五日発行）

高圧 朝日スレート

米国式 朝日コンクリートブロック

A.S.K.

朝日石綿工業株式会社

大阪営業所　大阪市北区神山町四六　電話 大阪 ㉞ 7236代表～9 2095夜間專用
本　　社　東京銀座七.営業所-東京.横浜.名古屋.岡山.九州.北海道
工　　場　東京.横浜.山梨.名古屋.大阪.岡山.門司.宮城

日本レイヨンの硬質繊維板

吸音ライト・サンライト

快適な住宅には…
能率的な事務室、作業場には…

規　格	ホール・ピッチ	ホール数	一梱入数	備　考
1.3分×1尺角 1.5分×1尺角	ホ 5mm ピ 15mm	324	50枚	•網面、平滑面いづれも在庫あり。
1.3分×1.5尺角 1.5分×1.5尺角	ホ 9mm ピ 23.8mm	324	30枚	•直角、寸法は特殊切断により正確

売価一部金百三十円（送料共）